

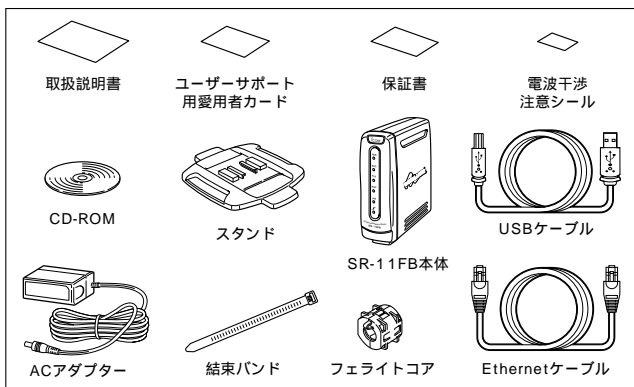
Wireless Broadband Router SR-11FB

1. 取扱説明書の構成について

本製品の取扱説明書は、本書のほかにPDF形式で、取扱説明書と補足説明書を付属のCD-ROMに収めています。最初にPDF形式の取扱説明書からご覧ください。本製品をさらに詳しく設定してお使いになるときは、PDF形式の補足説明書を併せてご覧ください。
(☞0-0章)表記は、PDF形式の取扱説明書を参照してください。

2. パッケージの内容

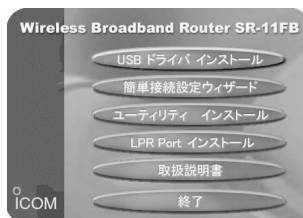
本製品のパッケージには、次のものが同梱されています。本製品をご使用になる前に、すべて揃っていることを確認してください。(PDF形式取扱説明書☞1-1章)



不足しているものがありましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社営業所サービス係りまでお問い合わせください。

3. 付属CD-ROMの使いかた

本製品に付属のCD-ROMは、ご使用のPC/AT互換機のCD-ROMドライブに挿入すると、自動的にソフトウェアを準備するためのメニュー画面を表示(Auto Run)するようになっています。



お使いのパソコンに[Acrobat Reader]がインストールされていないときは、メニュー画面の 取扱説明書 ボタンからインストールしてください。

PDF形式の取扱説明書と補足説明書は、必要に応じてお使いのプリンターで出力してご使用ください。

【Auto Run機能が動作しないときは？】

OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

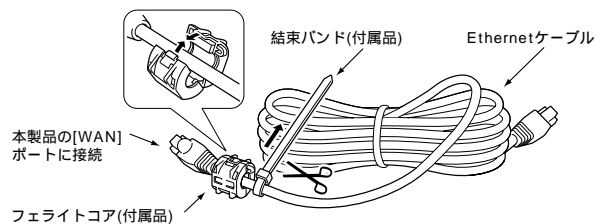
本製品は、ブロードバンド対応で無線LAN機能を備えたワイヤレスブロードバンドルータです。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

4. フェライトコアの装着

電波障害対策用です。本製品の[WAN]ポートに接続するケーブルの端に固定してください。

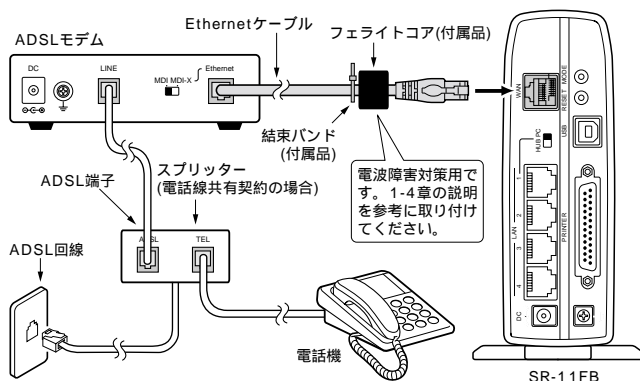
詳しくは、PDF形式の取扱説明書(☞1-4章)をご覧ください。



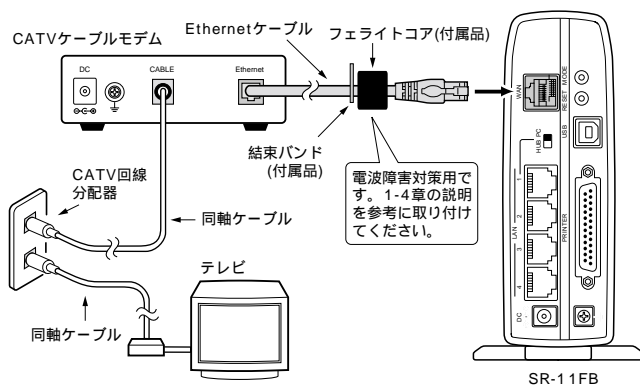
5. モデムの接続

詳しくは、PDF形式の取扱説明書(☞2-1章)をご覧ください。

ADSLインターネットの場合

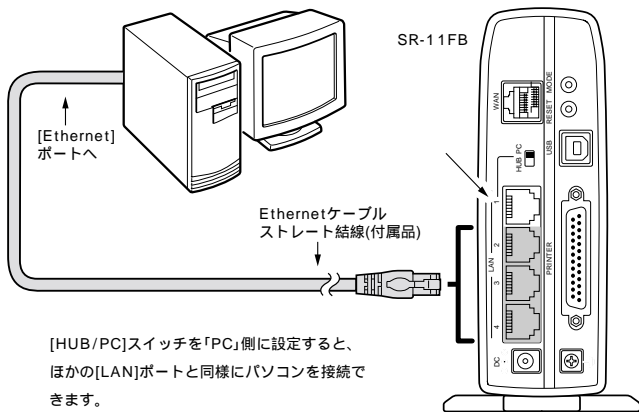


CATVインターネットの場合

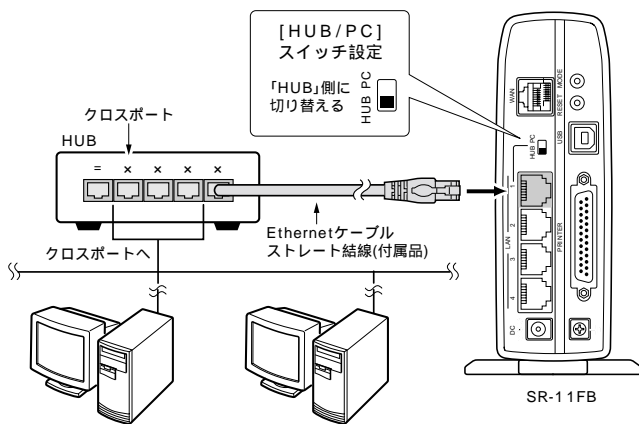


6.[LAN]ポートへのパソコンの接続

詳しくは、PDF形式の取扱説明書(☞2-2章)をご覧ください。
パソコンを接続する場合

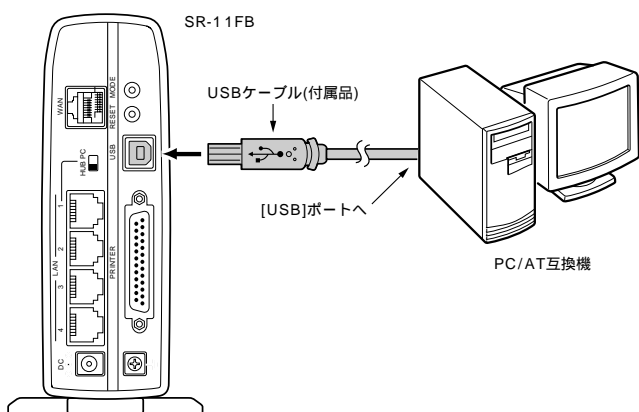


HUBをカスケード接続する場合



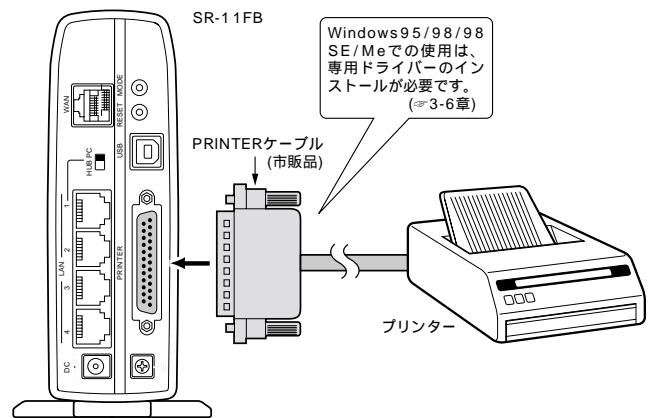
7.[USB]ポートへのパソコンの接続

接続の前に、Auto Runで表示されるメニューから、USBドライバのインストール(☞3-3章)が必要です。
接続について詳しくは、(☞2-3章)をご覧ください。



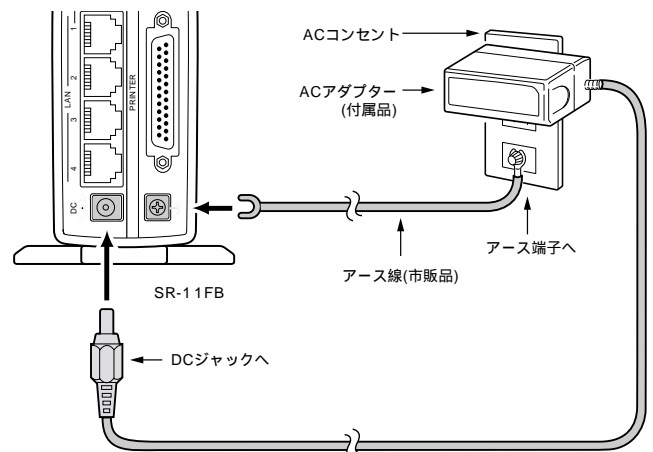
8.プリンターの接続

Windows用のプリントサーバとして使用できます。
Windows2000以外のOSでご使用のパソコンには、接続の前に、Auto Runで表示されるメニューから、LPR Portソフトウェアのインストール(☞3-6章)が必要です。
接続について詳しくは、(☞2-4章)をご覧ください。



9.アース線と電源の接続

詳しくは、PDF形式の取扱説明書(☞2-5章)をご覧ください。



10.本製品の設定

[TCP/IP]が設定(☞3章)されたパソコンに、本製品からIPアドレスを取得できていれば、本製品の「簡単設定ソフト」(☞4章)のウィザードにしたがって設定するか、設定画面(☞5章)にアクセス「http://192.168.0.1」して設定します。
設定は、Ethernet、USB、無線LANで接続するどのパソコンからでも行えます。

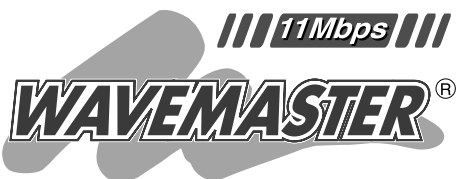
アイコム株式会社

本社 547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32
北海道営業所 060-0041 札幌市中央区大通東9-14 TEL 011-251-3888
仙台営業所 983-0857 仙台市宮城野区東十番丁54-1 TEL 022-298-6211
東京営業所 130-0021 東京都墨田区緑1-22-14 TEL 03-5600-0331
名古屋営業所 466-0015 名古屋市昭和区御器所通2-24 TEL 052-842-2288

大阪営業所 547-0004 大阪市平野区加美鞍作1-6-19 TEL 06-6793-0331
広島営業所 733-0842 広島市西区井口3-1-1 TEL 082-501-4321
四国営業所 760-0071 高松市藤塚町3-19-43 TEL 087-835-3723
九州営業所 815-0032 福岡市南区塩原4-5-48 TEL 092-541-0211

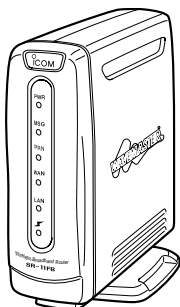
高品質がテーマです。

取扱説明書



Wireless Broadband Router **SR-11FB**

本書は、最初にお読みください。
本製品を使うための基本的な内容について説明しています。
そのほかにも、各設定項目などを説明する補足説明書を収録
していますので、必要に応じてご覧ください。



- 1 ご使用になる前に
- 2 接続のしかた
- 3 パソコンを設定する
- 4 簡単設定ソフトで設定する
- 5 WWWブラウザで設定する
- 6 インターネットにつなぐ
- 7 無線LANを構築する
- 8 保守について
- 9 ご参考に

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、ブロードバンド対応で無線LAN機能を備えたワイヤレスブロードバンドルータです。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、未長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

ユーザー登録について

本製品のユーザーサポート用愛用者カードに必要な事項をご記入いただき、必ずご返送ください。

ご返送いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

情報処理装置等電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるように要求されることがあります。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、iCOMは、アイコム株式会社の登録商標です。

WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。

Netscape Navigatorは、Netscape Communications Corporationの商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

はじめに

本製品の概要について

xDSL、CATV接続などのWAN回線に対応

PPPoEプロトコルに対応していますので、フレッツ・ADSLなど、PPPoE対応プロバイダーも利用できます。

本製品の設定は、すべてWWWブラウザから行えます。

NAT/IPマスカレード機能を搭載していますので、1つの契約で複数台のパソコンがご使用になれます。

本製品に付属する無線LANカードを本製品に装着すると、無線アクセスポイント(ローミングを含む)機能を使って通信できます。

プリンターポートを装備していますので、Windows用のプリンターサーバーとしてご使用になれます。(プリンター接続用のパソコンが不要になります。)

MACアドレス登録、さらにWEP機能による暗号化処理など、高度な無線LANセキュリティ機能を搭載しています。

[USB]ポートを装備していますので、パソコンに[USB]ポートが装備されていれば、本製品の[Ethernet]ポートに接続されたパソコンと同じネットワークに接続できます。

フィルター機能を搭載していますので、IPアドレス、ポート番号によるアクセス制限ができます。

[LAN]ポートには、4ポートスイッチングHUBを搭載しています。

取り扱い上のご注意

動作中に接続ケーブルなどが外れたり、接続が不安定になると、誤動作の原因になります。コネクタをしっかりと接続して、動作中は、コネクタの接続部に触れないでください。

モデムおよびパソコンやその他の周辺機器の取扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。

本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。このようなときは、本製品を、妨害を受けている機器からできるだけ離して設置してください。

本製品のCD-ROM(Acrobat Readerを除く)は、本機専用ですので、本機以外の製品で使用しないでください。

本製品の設定ファイルや弊社ホームページより提供されるファームウェアアップデート用データファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。

本書の内容の一部または全部を無断で転用することは、禁止されています。

本書およびハードウェア、ソフトウェア、外観の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

はじめに

無線LANの電波法についてのご注意

本製品に装着する専用の無線LANカードは、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、特定無線設備の認証を受けています。したがって、本製品で使用するときに無線局の免許は必要ありません。

本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。

本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用できません。

心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品をご使用にならないください。

心臓ペースメーカーに電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。

医療機器の近くで本製品を使用しないでください。医療機器に電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。

電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

本製品に装着する専用無線LANカードは、電波法に基づく認証を受けていますので、以下の事項を行なうと法律で罰せられることがあります。

本製品を分解 / 改造すること

無線LANカード裏面に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

本製品と通信する無線LANカードは、電気通信端末機器の適合認定を受けた弊社製品をご使用ください。

弊社製無線LANカードには、右図のような技適証明マークと技適証明番号および認定番号が印刷されたシールが貼られている無線LANカードをご使用ください。



T xxx-xxxxxx
R xxx-xxxxxx

無線LANをご使用になるときは、次ページの「無線LANの電波干渉についてのご注意」も併せてお読みください。

無線LANの電波干渉についてのご注意

本製品の通信チャンネルの設定を「14」以外に設定して、無線通信を行うときは、次のことがらに注意してご使用ください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)が運用されています。

この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。

その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社 サービス課 06-6792-4949

表記について

本書は、次の表記規則にしたがって記述しています。

- 「 」表記オペレーションシステム(OS)、ユーティリティ、メニュー、ウィンドウ(画面)の名称を(「 」)で囲んで表記します。
- []表記タブ名、アイコン名、テキストボックス名、チェックボックス名などを([])で囲んで表記します。
 - 表記ダイアログボックスのコマンドボタンなどの名称を()で囲んで表記します。

Windows98 Second Editionは、Windows98 SEと表記します。

Windows Millennium Editionは、Windows Meと表記します。

本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

はじめに	i
もくじ	vii
安全上のご注意(必ずお読みください)	ix
1. ご使用になる前に	1
1-1. 梱包内容の確認	2
1-2. 前面パネル	3
1-3. 後面パネル	4
1-4. フェライトコアの装着	5
1-5. スタンドの装着	5
1-6. 設置場所について	6
1-7. プロバイダーとの契約について	7
1-8. [Ethernet]ポートについて	8
1-9. 無線LANカードについて	9
1-10. [USB]ポートについて	10
2. 接続のしかた	11
2-1. [WAN]ポートへのモデム接続	12
2-2. [LAN]ポートへのパソコン接続	13
2-3. [USB]ポートへのパソコン接続	14
2-4. プリンターの接続	15
2-5. アース線と電源の接続	15
2-6. 既存のLANに接続する前に	16
3. パソコンを設定する	17
3-1. Ethernetで接続する	18
3-2. 無線LANで接続する	24
3-3. USBで接続する	30
3-4. WWWブラウザを用意する	35
3-5. 割り当てられたIPアドレスを確認する	36
3-6. プリンターを使うには	40
4. 簡単設定ソフトで設定する	57
4-1. 本製品とパソコンの電源を入れる	58
4-2. 簡単設定ソフトを起動する	58
4-3. 設定をはじめ	59
5. WWWブラウザで設定する	63
5-1. 本製品とパソコンの電源を入れる	64
5-2. 設定画面を呼び出す	64
5-3. 本製品の時計を設定する	66
5-4. 無線LANを設定する	67
5-5. インターネットに[PPPoE]方式で接続する	69
5-6. インターネットに[DHCP]方式で接続する	70
.....	次ページへつづく

5-7.本体IPアドレスを変更するには	72
5-8.自動割り当て開始IPアドレスを変更するには	73
6. インターネットにつなぐ	75
6-1.インターネット接続を開始する	76
6-2.インターネット接続を終了する	78
7. 無線LANを構築する	81
7-1.アクセスポイント機能を使う	82
7-2.ローミング機能を使う	83
8. 保守について	85
8-1.付属のCD-ROMについて	86
8-2.ユーティリティのインストール	87
8-3.アンインストールについて	89
8-4.設定画面へのアクセスを制限するには	90
8-5.設定内容の確認または保存	91
8-6.保存された設定の書き込み	92
8-7.設定を出荷時の状態に戻す	93
8-8.本製品をバージョンアップする	97
8-9.本体MACアドレスの確認方法	100
8-10.故障のときは	100
9. ご参考に	101
9-1.設定画面の構成について	102
9-2.設定項目の初期値一覧	103
9-3.機能一覧	104
9-4.各種ポート仕様	104
9-5.定格	105
9-6.用語解説	107

安全上のご注意

安全にご使用いただくために、必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくご使用いただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- 次の『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

■ Wireless Broadband Router について



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

付属品のACアダプター以外は使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。指定以外の付属品、および別売品は使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。DCジャック以外の端子に電源を接続しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

電源コードや接続ケーブルに、赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、設置してください。

感電、けがの原因になります。完全調整していますので、分解、改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

通気口をふさがないでください。

発熱などにより、火災、感電、故障の原因になります。

水などでぬれやすい場所(加湿器のそばなど)に設置しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。

感電の原因になります。

設置する場合は、必ずアース線を接続してください。また、アース線は、ガス管や水道管に接続しないでください。

火災、感電の原因になります。

万一、煙が出ている、変なおいがする、変な音がする、水などが入った場合は、使用を中止してください。

そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。

すぐに、本製品に接続するACアダプターのプラグとその他のケーブル類を取り外してください。

煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

Wireless Broadband Routerについて(つづき)

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

屋外に設置しないでください。
故障の原因になることがあります。
ぐらついた台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。
湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所には設置しないでください。
故障の原因になることがあります。
直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所では使用しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
説明とは異なる接続をしないでください。また、本製品への接続を間違えないように十分注意してください。
故障の原因になることがあります。
強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度が、取扱説明書に定めた使用環境を超えるところでは使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
テレビやラジオの近くで使用しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。

上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。
故障の原因になることがあります。
近くに雷が発生したときは、ACアダプターを接続しているコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。
ケーブルの接続や切断、または製品の導入や保守の作業も行わないでください。
火災、感電の原因になることがあります。
結露するような場所で使用しないでください。温度差の激しい環境を急に移動した場合、結露するおそれがありますのでご注意ください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
結露した場合、乾燥させるか、長い間同じ環境に置いたあと、ご使用ください。
長時間、使用しないときは、安全のため本製品に接続するACアダプターを取り外してください。
発熱、発火、故障の原因になることがあります。
清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

安全上のご注意

■ ACアダプターについて(付属品)



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

その他の機器で使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。
AC100V以外の電源電圧で使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。
ACコードを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。

火災、感電、故障の原因になります。
ACコードは、タコ足配線しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。
ACコードを束ねて使わないでください。

発熱して、火災の原因になります。
ぬれた手でACプラグや機器に絶対触れないでください。

感電の原因になります。
ACプラグは、電源コンセントの奥まで確実に差し込んでください。

差し込みが不十分な場合、火災、感電の原因になります。

ACコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

ACコードの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

ACプラグの金属部分、およびその周辺にホコリが付着している場合は、乾いた布でよくふき取ってください。

そのまま使うと、火災の原因になります。

ACコードが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。

火災、感電、故障、データの消失または破損の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

この章では、
本製品を使う前に必要な準備などを説明します。

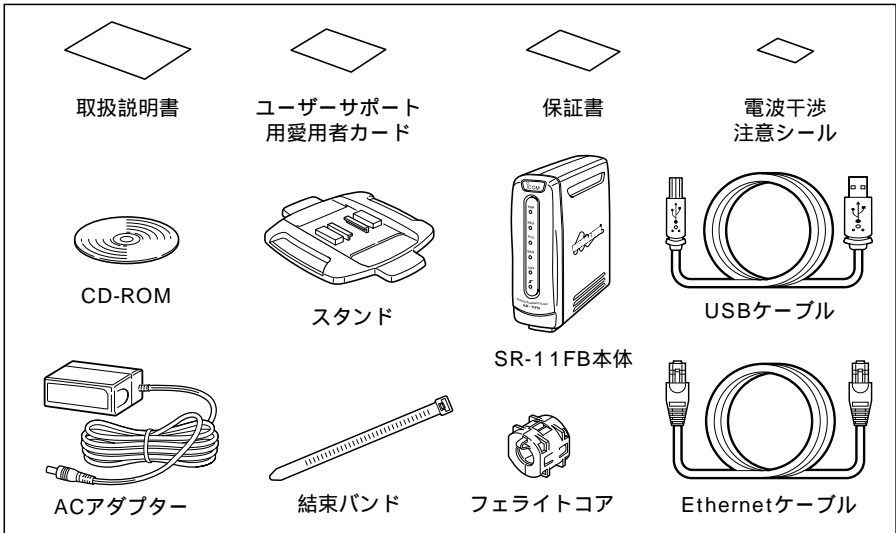
1-1. 梱包内容の確認	2
1-2. 前面パネル	3
1-3. 後面パネル	4
1-4. フェライトコアの装着	5
1-5. スタンドの装着	5
1-6. 設置場所について	6
1-7. プロバイダーとの契約について	7
「DHCP」方式に対応している場合	7
「PPPoE」方式に対応している場合	7
ご契約プロバイダーへの申請事項	7
1-8. [Ethernet]ポートについて	8
デスクトップ型パソコンの場合	8
ノートブック型パソコンの場合	8
1-9. 無線LANカードについて	9
デスクトップ型パソコンの場合	9
ノートブック型パソコンの場合	9
[USB]ポートがあるパソコンの場合	10
1-10. [USB]ポートについて	10

1 ご使用になる前に

1-1 梱包内容の確認

本製品のパッケージには、次のものが同梱されています。本製品をご使用になる前に、すべて揃っていることを確認してください。

不足しているものがありましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社営業所サービス係までお問い合わせください。



Ethernetケーブル

本製品をパソコンまたはHUBに接続するケーブルです。両端に8Pinのモジュラープラグがついています。

USBケーブル

本製品とパソコン(PC/AT互換機)の[USB]ポートを接続するケーブルです。

スタンド

本製品を立てる台です。

CD-ROM

取扱説明書と補足説明書がPDF形式で収められています。また、パソコン(PC/AT互換機)のUSB接続に必要なドライバー、プリントサーバ用ドライバー、ユーティリティが収められています。

フェライトコア

電波障害対策用として、本製品の[WAN]ポート側に接続するEthernetケーブルに取り付けます。

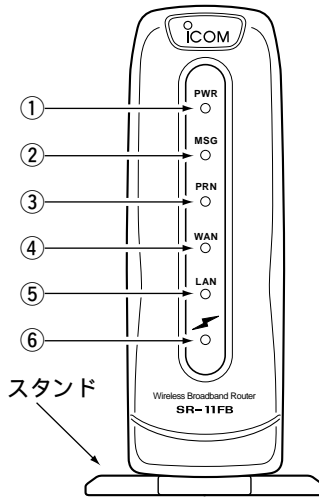
結束バンド

フェライトコアの固定用バンドです。

ACアダプター

本製品専用の電源です。

1-2 前面パネル



① [PWR]ランプ

電源の状態を表示します。

点灯：本製品の電源が入っているとき

② [MSG]ランプ

点灯：メール着信機能設定時、電子メールがプロバイダーのメールサーバーに届いたとき

「設定初期化」モードで動作中は、[PRN]ランプと同時点滅します。

「Utility使用」モードで動作中は、[PRN]ランプと交互点滅します。

③ [PRN]ランプ

プリンターの通信状態を表示します。

点灯：データをプリンターに送信しているとき

「設定初期化」モードで動作中は、[MSG]ランプと同時点滅します。

「Utility使用」モードで動作中は、[MSG]ランプと交互点滅します。

④ [WAN]ランプ

WAN側の状態を表示します。

点灯：WAN側への接続が正常なとき
点滅：データを送受信しているとき

⑤ [LAN]ランプ

有線LANの状態を表示します。

点灯：LAN側への接続が正常なとき

消灯：Ethernetケーブル未接続

点滅：データを送受信しているとき

USB接続では、機能しません。

⑥ [⚡]ランプ

無線LANの状態を表示します。

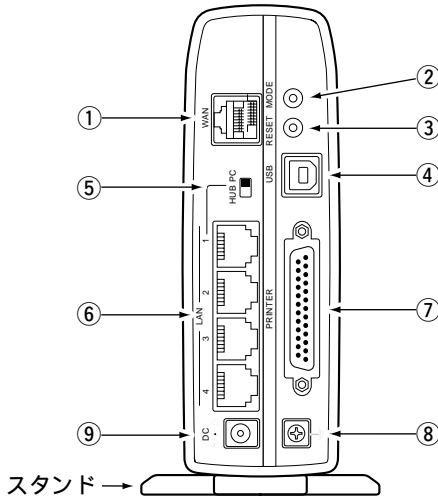
点灯：無線での接続が正常なとき

消灯：以下の3とおりがあります。

- 無線での接続に異常があるとき
- 端末が無線伝送エリア外に移動したとき
- 1～2分間、無線通信しない状態がづいたとき

1 ご使用になる前に

1-3 後面パネル



① [WAN]ポート(RJ-45型)

Ethernetケーブル(ストレート結線)を使って、ADSLモデムやCATVケーブルモデムの[Ethernet]ポートと接続します。

② MODE ボタン

「Utility使用」モードおよび「設定初期化」モードで動作させるとき使用します。

③ RESET ボタン

ペン先などで短く押すと、本製品を再起動(電源投入直後の状態)します。

電源を入れなおすと、同じ状態です。

④ [USB]ポート(アップストリーム型)

付属品のUSBケーブルを使って、パソコンの[USB]ポートと接続します。

[LAN]ポートおよび無線で接続するパソコンと通信が行えます。

Macintoshには対応していません。

⑤ [HUB/PC]スイッチ

[LAN(1番)]ポートの極性を反転させるスイッチで、HUBをカスケード接続するときは、「HUB」に切り替えます。

⑥ [LAN]ポート(RJ-45型×4)

Ethernetケーブル(ストレート結線)を使って、パソコンやHUBと接続します。

[LAN(1番)]ポートは、HUBのカスケード接続に使用できます。

⑦ [PRINTER]ポート(D-Sub25pin)

プリンター接続用のポートです。

⑧ アース端子

アース線を接続します。

アース線は、市販品をご用意ください。

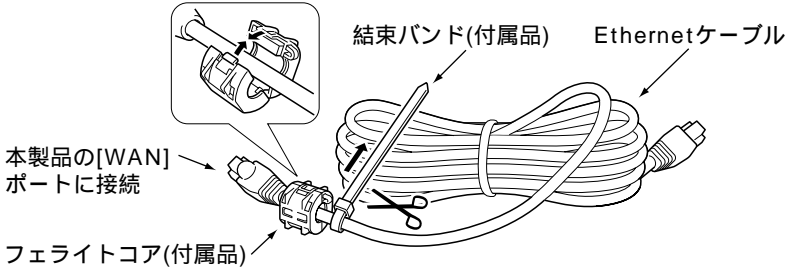
⑨ DCジャック

付属品のACアダプターを接続します。

1-4 フェライトコアの装着

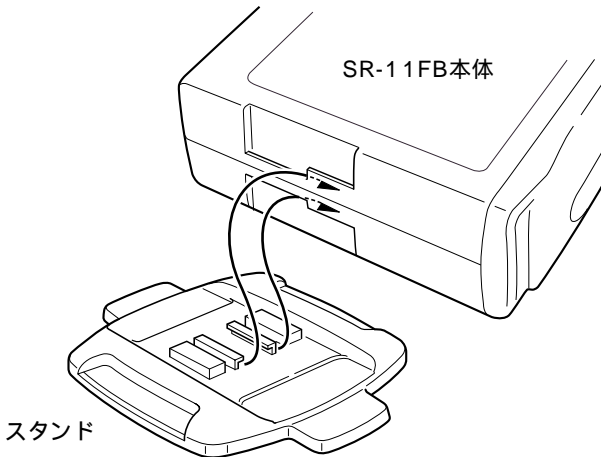
Ethernetケーブルを本製品の[WAN]ポートに接続するときは、付属のフェライトコアを図のように取り付けて、結束バンドで、プラグ(本機接続側)の端にしっかりと固定してください。

プラグの端に固定しないと電波障害を引き起こすことがあります。



1-5 スタンドの装着

本体底面に付属のスタンドを押し当てて、ガイドに沿ってスライドさせて取り付けます。



1 ご使用になる前に

1-6 設置場所について

無線LANとしてご使用になる場合、設置場所に注意しないと通信範囲や速度に影響します。

このときの設置条件は、次のとおりです。

室内で、なるべく見通しの良い(高い)場所

振動や傾きが無く、落下の危険がない安定した場所

その他、以下のことを考慮して、設置してください。

- 本製品の上に物を置いたり、本製品どうしやほかの製品と重ねて置かない。
- 電波は壁やガラスを通過しますが、金属は通過しません。コンクリートの壁でも、金属補強材が中に埋め込まれていて、電波信号を遮断するものがあります。
- 通信範囲はオープンスペースだと最も広くなりますが、倉庫の中のように大きな金属製の壁があると、電波を反射することがあります。
- 床にはふつう、鋼製の梁がはいっており、金属製防火材が埋め込まれていることもあります。そのため多くの場合、違う階どうしてもでは通信できません。

【無線通信距離について】

無線での通信距離は、設置場所によって多少異なりますが、以下の見通し距離を参考に設置してください。

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| ● 通信速度の設定が「自動切替」のとき | ● 通信速度の設定が「1 1 Mbps固定」のとき |
| 屋内：約 50m | 屋内：約30m |
| 屋外：約 150m | 屋外：約70m |

1-7 プロバイダーとの契約について

インターネットに接続するためには、プロバイダーとの契約が必要です。

ご契約のプロバイダーやサービスによって、接続方式(PPPoE、DHCP)が異なります。接続方式についてご不明な場合は、ご契約のプロバイダーやお買い上げの販売店などにご相談ください。

「DHCP」方式に対応している場合

ご契約のプロバイダーが、「DHCP」方式での接続を要求している場合です。

本製品の設定に必要ですので、あらかじめ以下の項目を確認しておいてください。

- IPアドレス(固定割り当ての指示がある場合)
- サブネットマスク(固定割り当ての指示がある場合)
- デフォルトゲートウェイのIPアドレス
- DNSサーバのIPアドレス(複数指定されている場合もあります。)

「PPPoE」方式に対応している場合

ご契約のプロバイダーが、「PPPoE」方式での接続を要求している場合です。

本製品の設定に必要ですので、あらかじめ以下の項目を確認しておいてください。

- ログインユーザー名
- ログインパスワード
- [PPPoE]接続のサービス名(本製品では設定不要です。)
- IPアドレス(固定的に割り当てる方式の場合は必要です。)
- DNSサーバのIPアドレス(複数指定されている場合もあります。)

ご契約プロバイダーへの申請事項

ご契約のプロバイダーや提供を受けるサービスによっては、本製品を含めインターネット接続できる機器(パソコンなど)の事前申請が必要になります。

この場合、CATVインターネットではケーブルモデム、ADSLインターネットではADSLモデムに直接接続するネットワーク機器(パソコンなど)がそれぞれ独自に持っているMACアドレス(機器固有の番号)を、プロバイダーに対して事前申請する必要があります。そのときは、本製品のMACアドレスを通知してください。確認のしかたは、「本体MACアドレスの確認方法」(本書[※]8-9章)をご覧ください。

【ご注意】

MACアドレスの事前申請が必要なサービスをプロバイダーからお受けになるときは、プロバイダーへの申請および登録が完了するまで、本製品を利用したインターネットアクセスはできません。

1 ご使用になる前に

1-8 [Ethernet]ポートについて

本製品を有線LANでご使用になる場合は、[Ethernet]ポートが必要です。

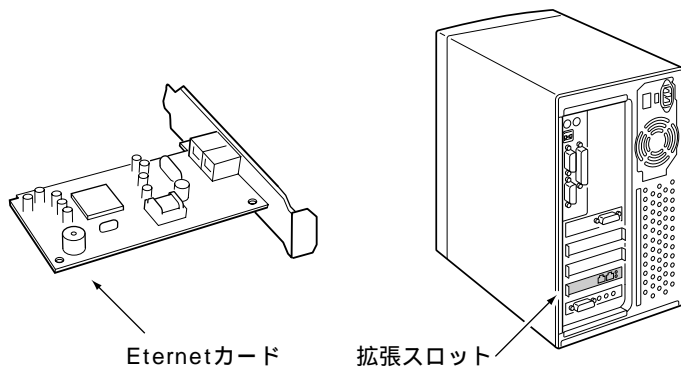
ご使用のパソコンに[Ethernet]ポートがない場合は、本製品の設置を始める前に、Ethernetカードを取り付けてください。

取り付けたあとは、Ethernetカードの取扱説明書にしたがって、正常に動作することを確認してください。

デスクトップ型パソコンの場合

デスクトップ型パソコンの場合は、拡張スロットにEthernetカードを取り付けます。

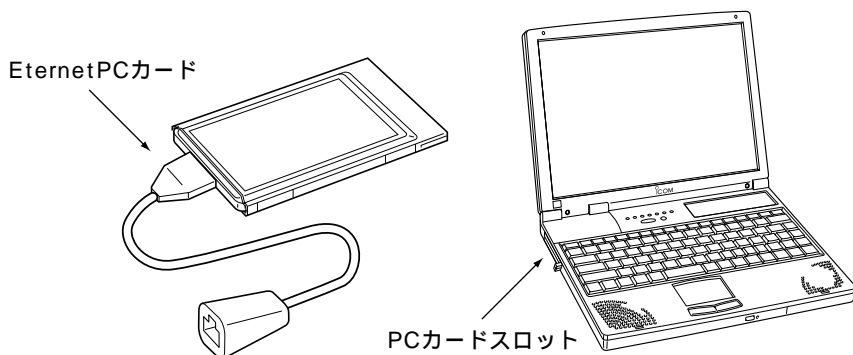
拡張スロットには、PCIやISAなどの種類がありますので、ご使用のパソコンで空いているスロットをお調べになってから、Ethernetカードを取り付けてください。



ノートブック型パソコンの場合

ノートブック型パソコンの場合は、PCカードスロットにEthernetカードを取り付けます。

PCカードスロットの規格に注意して、ご使用のパソコンに対応したPCカード型Ethernetカードを取り付けてください。



1-9 無線LANカードについて

本製品を無線LANでご使用になる場合は、無線LANカードが必要です。

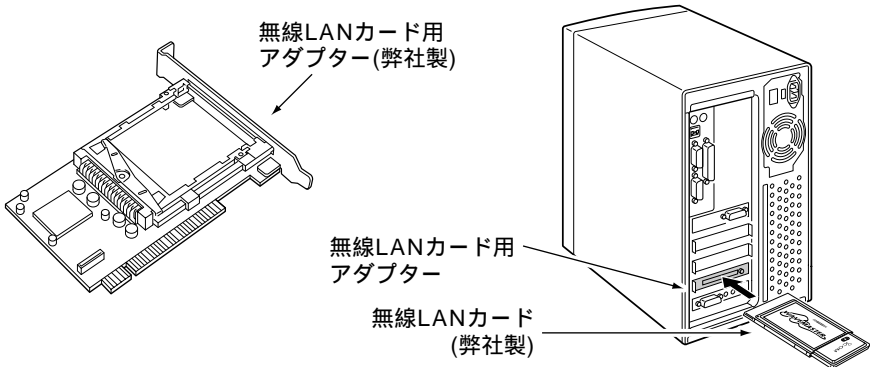
本製品は、最大11Mbpsの無線LAN機能を備えており、これに対応した無線LANカードやワイヤレスLANユニット(SU-11)をパソコン(PC/AT互換機)に取り付けることにより、ワイヤレスでダイヤルアップルータやLANをご使用になれます。

無線LANカードおよびワイヤレスLANユニットは、弊社製以外の製品でもご使用になれますが、暗号化によるセキュリティー機能などを使っての通信は行えません。

デスクトップ型パソコンの場合

デスクトップ型パソコンの場合は、拡張スロットに無線LANカード用アダプターを取り付けます。

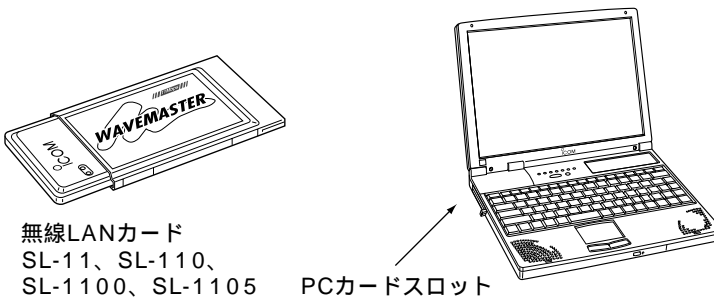
無線LANカード用アダプターには、PCIやISAなどの種類がありますので、ご使用のパソコンで空いているスロットをお調べになってから、無線LANカード用アダプターを取り付けてください。



ノートブック型パソコンの場合

ノートブック型パソコンの場合は、PCカードスロットに無線LANカードを取り付けます。

PCカードスロットの規格に注意して、ご使用のパソコンに対応した無線LANカードを取り付けてください。



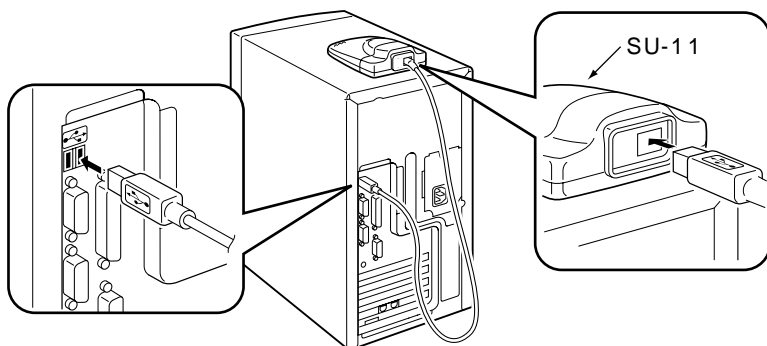
1 ご使用になる前に

1-9 無線LANカードについて(つづき)

[USB]ポートがあるパソコンの場合

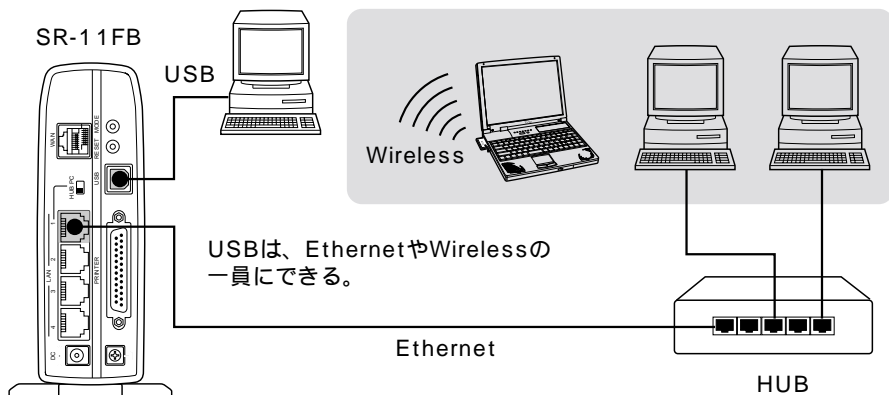
パソコンに[USB]ポートがある場合は、弊社製ワイヤレスLANユニット(SU-11)を取り付けて、無線端末としてご使用いただけます。

取り付けたあとは、SU-11の取扱説明書にしたがって、正常に動作することを確認してください。



1-10 [USB]ポートについて

パソコンに[USB]ポートがある場合は、本製品と直接つないでEthernetや無線で本製品に接続されたネットワークに含めることができます。また、本製品の設定も可能です。[USB]ポートを使うための準備は、「USBで接続する」(☞3-3章)をご覧ください。



この章では、

ADSLモデムやCATVケーブルモデム、パソコンやプリンターを本製品に接続する方法を説明します。

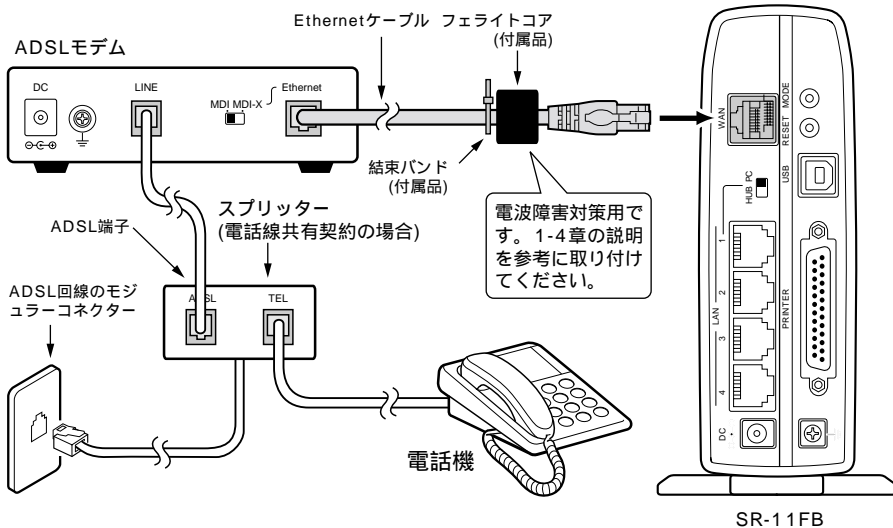
2-1.[WAN]ポートへのモデム接続	12
ADSLインターネットの場合	12
CATVインターネットの場合	12
2-2.[LAN]ポートへのパソコン接続	13
パソコンを接続する場合	13
HUBをカスケード接続する場合	13
2-3.[USB]ポートへのパソコン接続	14
[USB]ポートの確認	14
USB接続のご注意	14
2-4.プリンターの接続	15
2-5.アースと電源の接続	15
2-6.既存のLANに接続する前に	16
ネットワーク状況の確認	16
IPアドレスを設定する	16
既存のLANへの接続	16

2 接続のしかた

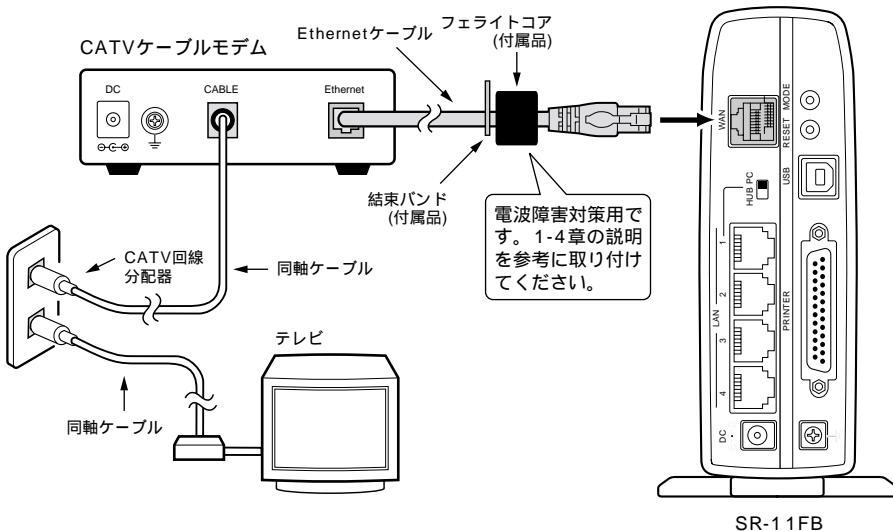
2-1 [WAN]ポートへのモデム接続

【△警告】接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

ADSLインターネットの場合



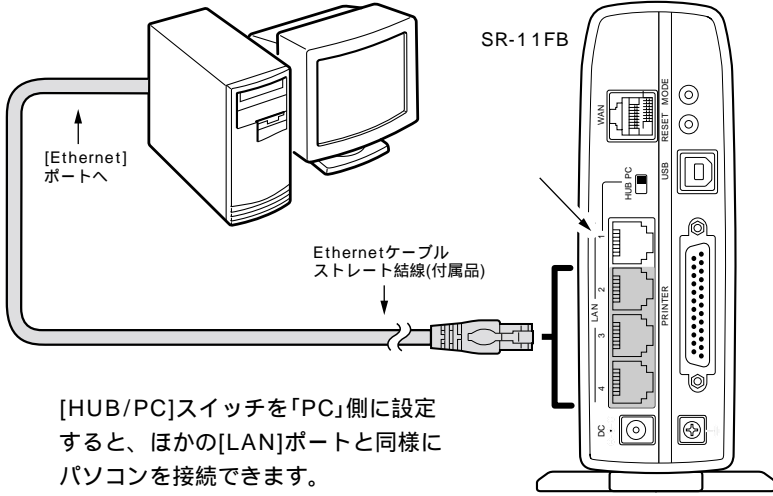
CATVインターネットの場合



2-2 [LAN]ポートへのパソコン接続

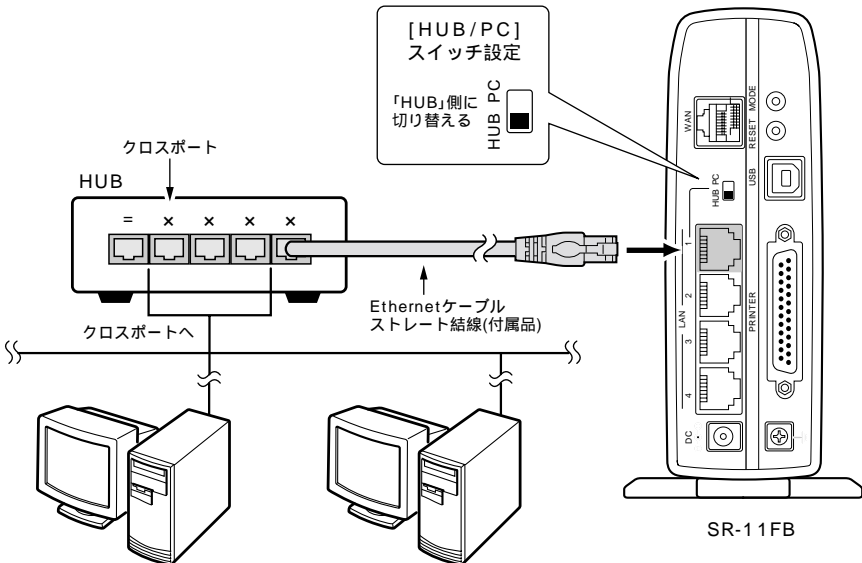
【△警告】接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

パソコンを接続する場合



2

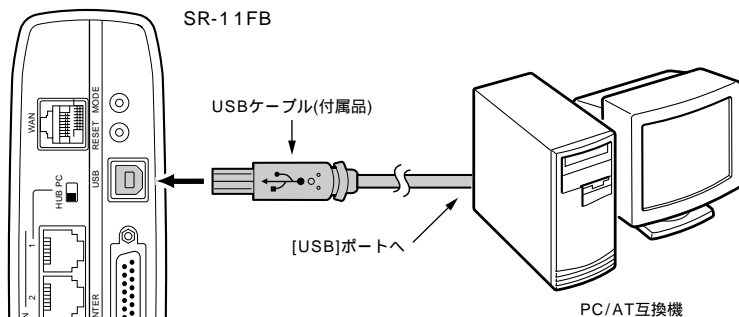
HUBをカスケード接続する場合



2 接続のしかた

2-3 [USB]ポートへのパソコン接続

本製品との接続を行う前に、「USBで接続する」(☞3-3章)の説明にしたがってUSBドライバーをインストールします。接続はこの内容を参考に、その途中でを行います。



[USB]ポートの確認

ご使用のパソコンに[USB]ポートがあることを確認してください。

また、その[USB]ポートが使用できる状態に設定されている必要があります。

確認は、Windows Meの場合、「コントロールパネル」画面の[システム]アイコンをダブルクリックして表示される「デバイスマネージャ」で行えます。

パソコンのBIOSにUSB機能を選択する項目がある場合は、それを有効にする必要があります。詳しくは、ご使用のパソコンの取扱説明書でご確認ください。

USB接続のご注意

MacintoshへのUSB接続には、対応していません。

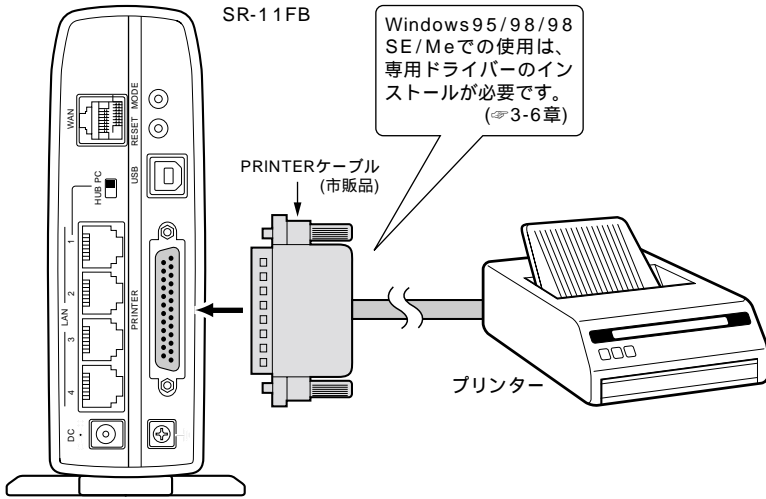
USBケーブルは、パソコンの[USB]ポートに直接接続してください。

USBケーブルを延長するときは、最長で5m以内になるようにしてください。5m以上になると、動作しないことがあります。

[USB]ポートに接続できるパソコンは、1台だけです。2台以上のパソコンを接続するときは、本製品の[LAN(2～3番)]ポートに接続してご使用ください。

[USB]ポートに接続されたパソコンは、Ethernetまたは無線で本製品に接続されたネットワークに含まれます。

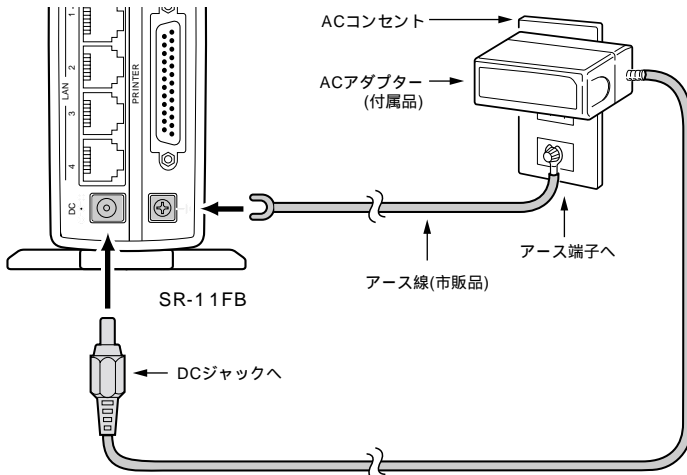
2-4 プリンターの接続



2-5 アース線と電源の接続

【△注意】

アース線は、本製品に付属していません。市販品をご用意ください。
 本製品のアース端子は、必ず接続してください。落雷したときの電氣的ショックをやわらげたり、感電やノイズの回り込みを防止できます。
 アース線は、必ずコンセントのアース端子につなぐか、市販のアース棒につないで地中に埋めてください。ガス管や水道管につながないでください。



2 接続のしかた

2-6 既存のLANに接続する前に

既存のLANに本製品を接続する場合は、あらかじめそのLANで取り決めたIPアドレスの割り当て方法にしたがって本製品のIPアドレスを割り当てておく必要があります。

【IPアドレスを固定で割り当てている場合】

空いているIPアドレスを本製品に割り当てる

本製品のIPアドレスについては、「本体IPアドレスを変更するには」(☞5-7章)をご覧ください。

【DHCPサーバ機能を利用している場合】

本製品のDHCPサーバ機能を使わないよう、本製品の設定を変更して、自動割り当て範囲外のIPアドレスを本製品に割り当てる

本製品のIPアドレスについては、「本体IPアドレスを変更するには」(☞5-7章)をご覧ください。

ネットワーク状況の確認

ネットワークを既存のLAN上に構築している場合は、次の点に注意してください。

【LAN上での各パソコンのIPアドレス】

TCP/IPでは、ネットワーク上の各ネットワーク機器(パソコンなど)のIPアドレスと本製品のIPアドレスが重複すると、本製品と各パソコンのあいだで通信が行えなくなります。また、ネットワーク全体にも影響がおよぶ可能性がありますので、注意してください。

既存のネットワーク上に「192.168.0.1」というIPアドレスを持つネットワーク機器があるときは、本製品を既存のLANに接続する前に、本製品の出荷時のIPアドレスを変更(☞5-8章)する必要があります。

各ネットワーク機器のIPアドレスなどを静的に割り当てる場合は、IPアドレスが重複しないように注意してください。また、動的に割り当てを行っている場合でも、DHCPサーバ機能で割り当てるIPアドレス範囲と本製品のIPアドレスが重複しないように設定を変更する必要があります。また、ブロードキャストアドレスは、ネットワーク上のすべて機器に割り当てることができませんので、注意してください。

IPアドレスを設定する

接続したいほかのネットワークとIPアドレスが重複するときは、設定を変更します。

設定のしかたについては、「本体IPアドレスを変更するには」(☞5-8章)をご覧ください。

既存のLANへの接続

「[LAN]ポートへのパソコン接続」(☞2-2章)の「2台以上のパソコンを接続する場合」を参考にしてください。

この章では、
本製品と通信を行うパソコンの設定について説明します。
必要に応じて、該当する箇所をお読みください。

3-1.Ethernetで接続する	18
本製品の[LAN]ポートと接続する	18
TCP/IPプロトコルの設定	
【Windows Meの場合】.....	18
【Windows 2000の場合】	21
【Mac OSの場合】	23
3-2.無線LANで接続する	24
無線LANカードを用意する	24
TCP/IPプロトコルの設定	
【Windows Meの場合】.....	24
【Windows 2000の場合】	27
無線LANカードを設定する	29
3-3.USBで接続する	30
USBドライバーのインストール	30
本製品の[USB]ポートと接続する	32
TCP/IPプロトコルの設定.....	32
本製品の[USB]ポートから取り外すには	33
3-4.WWWブラウザを用意する	35
3-5.割り当てられたIPアドレスを確認する	36
【Windows Meの場合】.....	36
【Windows 2000の場合】	37
【Mac OSの場合】	38
3-6.プリンターを使うには	40
Windows Meの場合	40
Windows 2000の場合	48

3 パソコンを設定する

3-1 Ethernetで接続する

Ethernetケーブルを[LAN]ポートに接続してパソコンと本製品をつなぐ場合の設定のしかたを説明します。

ステップ1	Ethernetカードをパソコンに装着する	8
ステップ2	本製品とパソコンの接続	13、18
ステップ3	TCP/IPを設定する	18
ステップ4	WWWブラウザを用意する	35
ステップ5	本製品から割り当てられたIPアドレスの確認	36

本製品の[LAN]ポートと接続する

モデムとの接続が終われば、2-2章の説明を参考に、本製品の[LAN]ポートとご使用のパソコンの[Ethernet]ポートをEthernetケーブルで接続します。

ご使用のパソコンに[Ethernet]ポートがないパソコンの場合は、市販のEthernetカードを取り付ける必要があります。

パソコンやEthernetカードに付属する取扱説明書にしたがって、取り付けてください。

また、本製品とパソコンの接続は、無線LANやUSBを使って行うこともできます。

TCP/IPプロトコルの設定

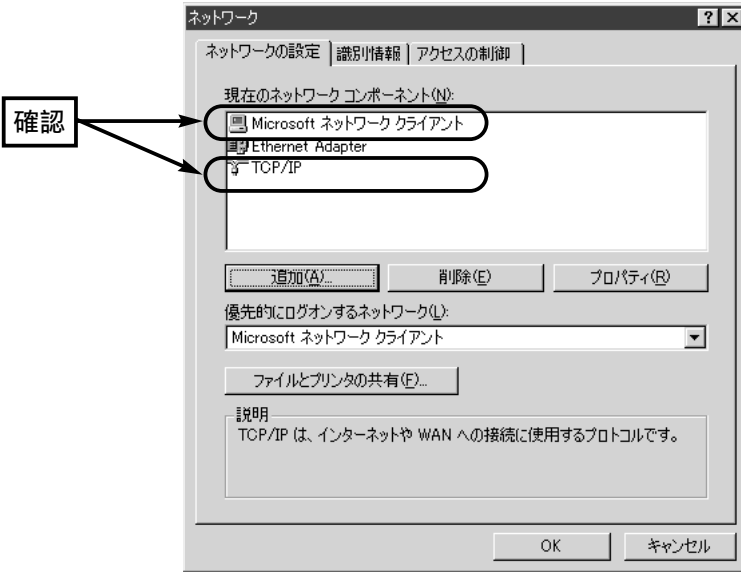
本製品と通信を行うパソコンすべてに「TCP/IP」というネットワークプロトコルモジュール(ドライバー)をインストールしておく必要があります。

ドライバーのインストールは、ご使用のEthernetカードに付属する取扱説明書を参考に行ってください。

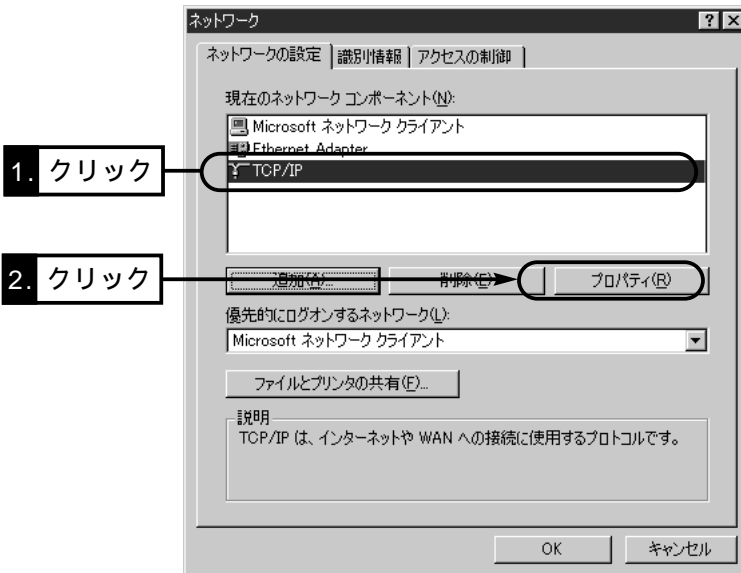
【Windows Meの場合】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク]アイコンの順番に操作します。
- 2.「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP->ご使用のEthernetカードの名称」、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。
表示されていないときは、「TCP/IP」のインストールに失敗している可能性がありますので、もう一度、ご使用のEthernetカードに付属する取扱説明書でご確認ください。

【Windows Meの場合】(手順2.つづき)



3. 「TCP/IP」 プロパティ (R) の順番にクリックします。

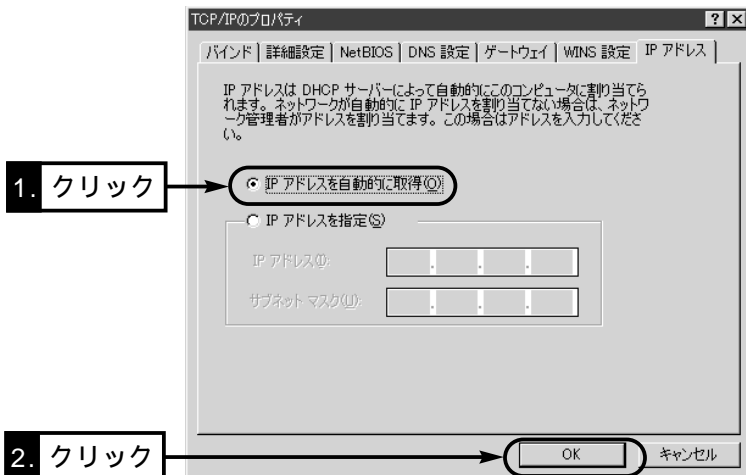


3 パソコンを設定する

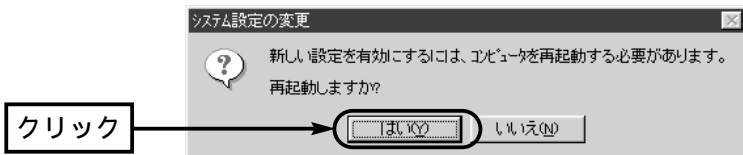
3-1 Ethernetで接続する

TCP/IPプロトコルの設定【Windows Meの場合】(つづき)

- 4.[IPアドレスを自動的に取得(O)]のラジオボタンをクリックしてから、OKをクリックします。



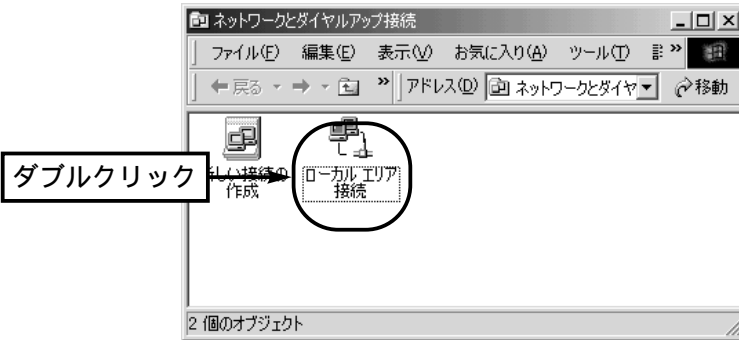
- 5.再起動を促す画面が表示されたら、はい(Y) をクリックします。
再起動後、設定された内容が有効になります。



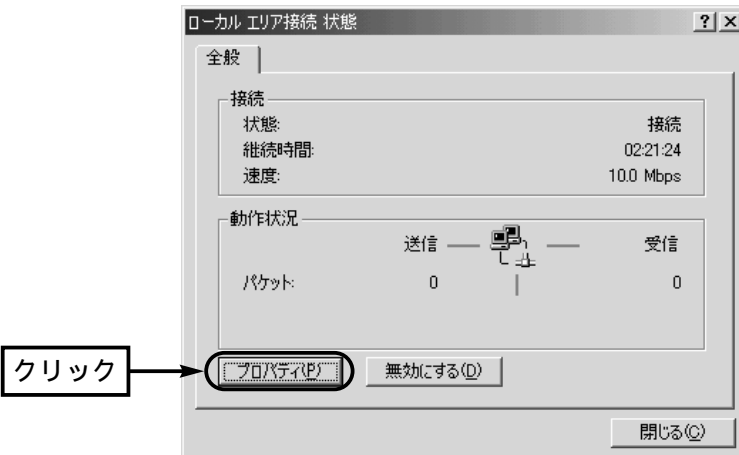
TCP/IPプロトコルの設定(つづき)

【Windows 2000の場合】

1. 設定に使用するパソコンを起動します。
 - Windows 2000への「ログオン」画面を表示します。
2. Administrator権限でログオンします。
3. パソコンが起動したら、スタート [設定(S)] [ネットワークとダイヤルアップ接続(N)] 本製品を接続するEthernetカードの名称が表示された[ローカルエリア接続] アイコンの順番にマウスを操作します。



4. プロパティ(P) をクリックします。

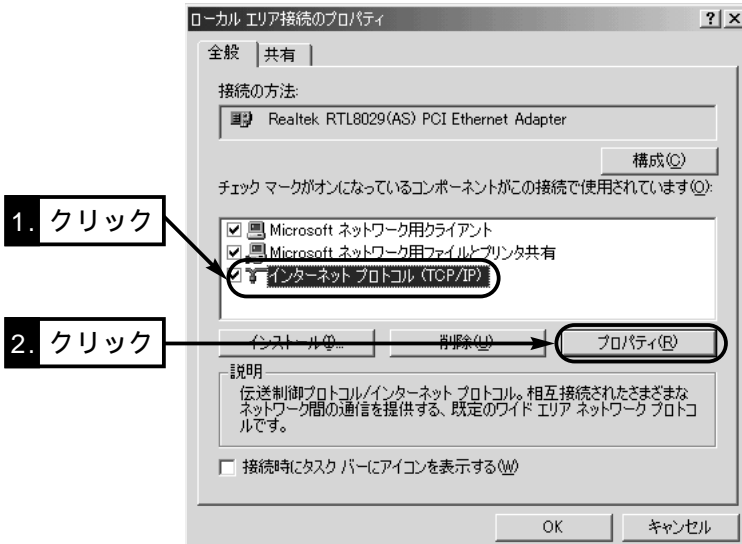


3 パソコンを設定する

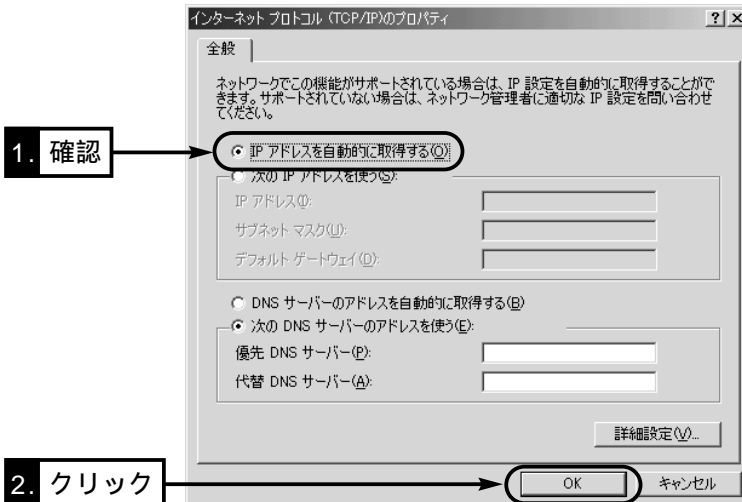
3-1 Ethernetで接続する

TCP/IPプロトコルの設定【Windows 2000の場合】(つづき)

- 5.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が表示されていれば、その中から「インターネットプロトコル(TCP/IP)」 プロパティ(R) の順番にクリックします。

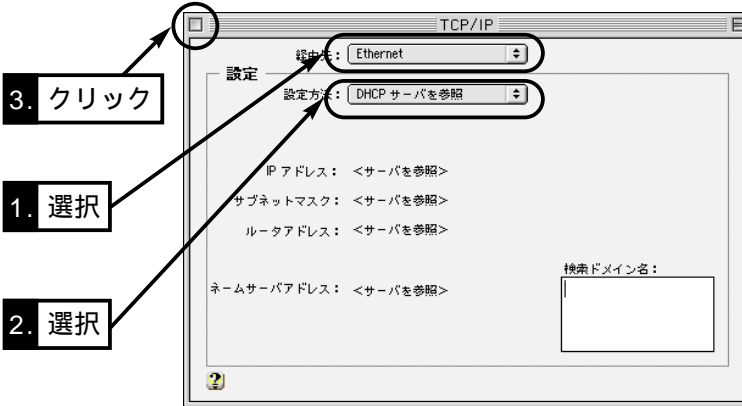


- 6.[IPアドレスを自動的に取得する(O)]のラジオボタンが選択されていることを確認してから、OK をクリックすると、設定された内容が有効になります。



【Mac OSの場合】

1. 設定に使うパソコンを起動します。
2. パソコンが起動したら、[アップルメニュー] [コントロールパネル] [TCP/IP]の順番にマウスを操作します。
3. [経由先]を「Ethernet」、[設定方法]を「DHCPサーバを参照」に設定します。
4. タイトルバー上のクローズボックスをクリックします。
 - 画面が閉じて、設定画面が保存されます。



3 パソコンを設定する

3-2 無線LANで接続する

パソコンを本製品に無線LANでつなぐ場合の設定のしかたを説明します。

対応OSは、Windows 98、Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000です。

ステップ1	無線LANカードを用意する	9、24
ステップ2	TCP/IPを設定する	24
ステップ3	無線LANカードを設定する	29
ステップ4	WWWブラウザを用意する	35
ステップ5	本製品から割り当てられたIPアドレスの確認	36

無線LANカードを用意する

モデムとの接続が終われば、付属品の無線LANカードを本製品のPCMCIAスロットに装着します。本製品に無線で接続するパソコンには、弊社指定の無線LANカードが装着できることを確認してください。

PCMCIAスロットがないパソコンの場合は、無線LANカード用アダプター(弊社製)を取り付ける必要があります。

無線LANカード用アダプターに付属する取扱説明書にしたがって、取り付けてください。また、本製品とパソコンの接続は、EthernetやUSBを使って行うこともできます。

弊社製Wireless LAN UNIT(SU-11)をパソコンの[USB]ポートにつないでご使用いただく、本製品と無線LANによる通信が行えます。

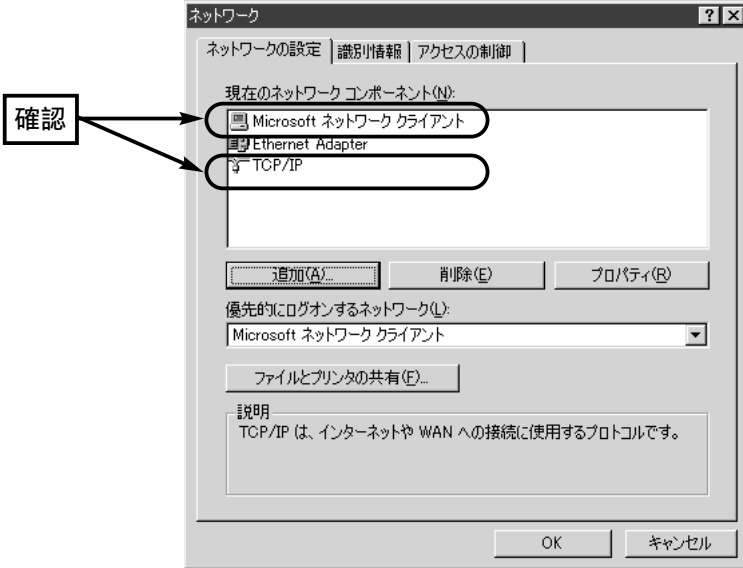
TCP/IPプロトコルの設定

本製品と通信を行うパソコンすべてに「TCP/IP」というネットワークプロトコルモジュール(ドライバー)をインストールしておく必要があります。

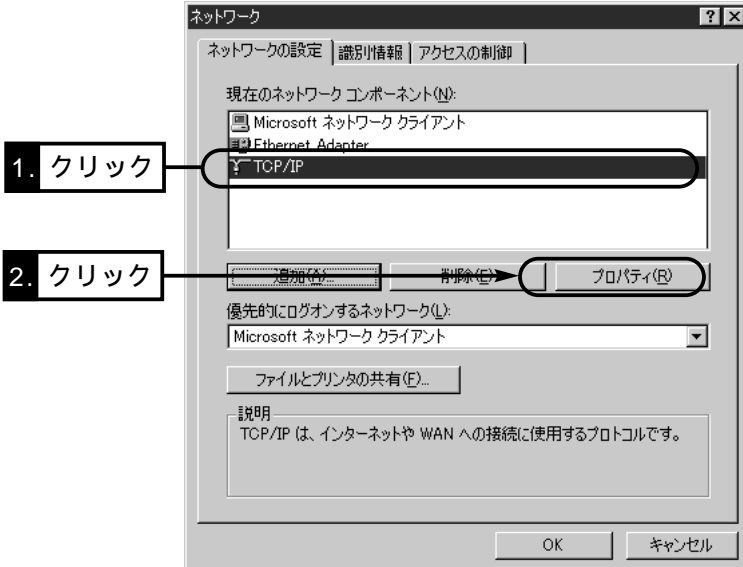
ドライバーのインストールは、ご使用の無線LANカードの取扱説明書を参考に行ってください。

【Windows Meの場合】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク]アイコンの順番に操作します。
- 2.「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP->ご使用の無線LANカードの名称」、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。
表示されていないときは、「TCP/IP」のインストールに失敗している可能性がありますので、もう一度、ご使用の無線LANカードの取扱説明書でご確認ください。



3.「TCP/IP」 プロパティ(R) の順番にクリックします。



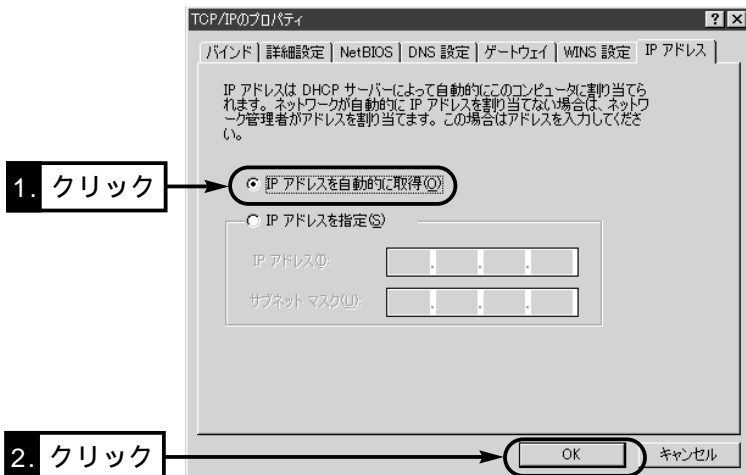
3

3 パソコンを設定する

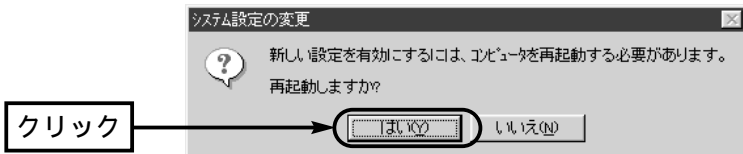
3-2 無線LANで接続する

TCP/IPプロトコルの設定【Windows Meの場合】(つづき)

4. [IPアドレスを自動的に取得(O)]のラジオボタンをクリックしてから、OKをクリックします。



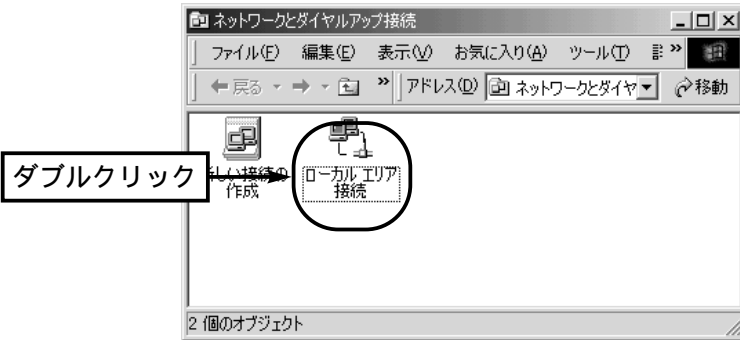
5. 再起動を促す画面が表示されたら、はい(Y) をクリックします。再起動後、設定された内容が有効になります。



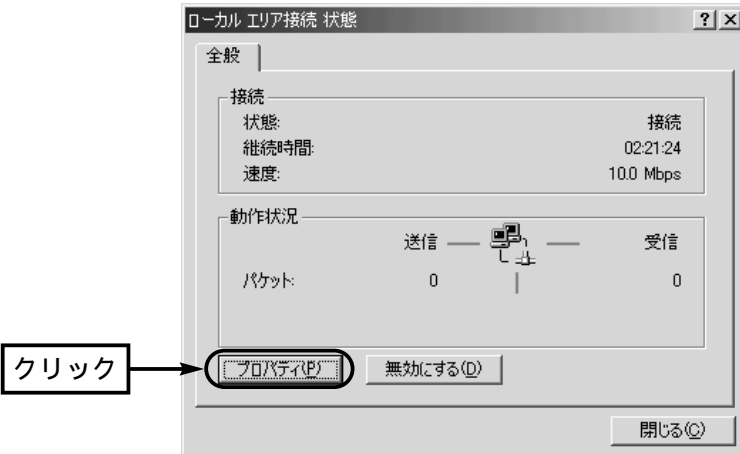
TCP/IPプロトコルの設定(つづき)

【Windows 2000の場合】

1. 設定に使用するパソコンを起動します。
 - Windows 2000への「ログオン」画面を表示します。
2. Administrator権限でログオンします。
3. パソコンが起動したら、スタート [設定(S)] [ネットワークとダイヤルアップ接続(N)] 本製品を接続する無線LANカードの[ローカルエリア接続]アイコンの順番にマウスを操作します。



4. 本製品を接続する無線LANカードの[ローカルエリア接続]アイコンをダブルクリックします。

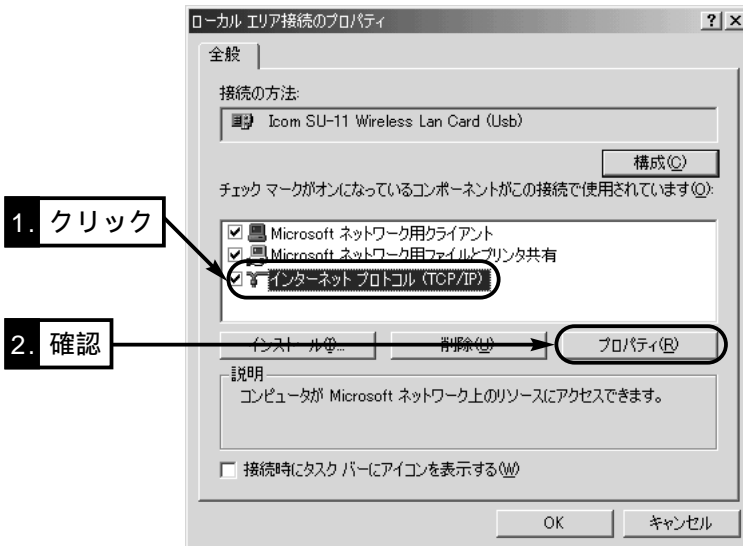


3 パソコンを設定する

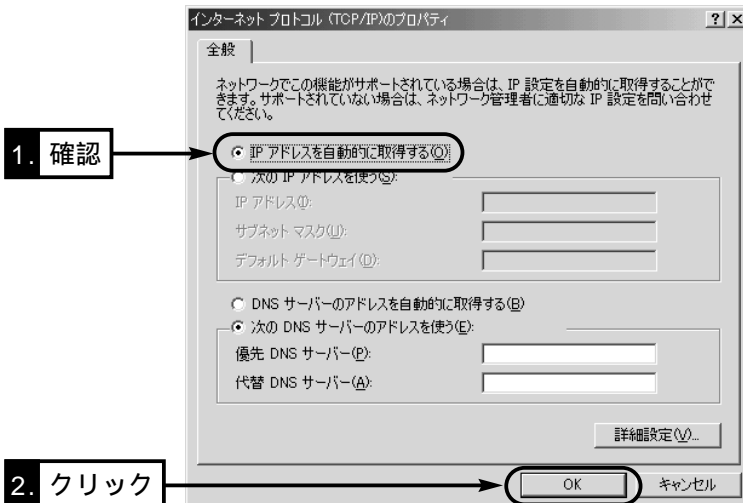
3-2 無線LANで接続する

TCP/IPプロトコルの設定【Windows 2000の場合】(つづき)

- 5.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が表示されていれば、その中から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」 プロパティ(R) の順番にクリックします。



- 6.[IPアドレスを自動的に取得する(Q)]のラジオボタンが選択されていることを確認してから、OK をクリックすると、設定された内容が有効になります。



3-2 無線LANで接続する(つづき)

無線LANカードを設定する

無線LANで接続するパソコン(PC/AT互換機)は、次に示す項目の設定値を本製品と同じにする必要があります。ここでは、本製品の出荷時の設定値に合わせてパソコン側の設定値を変更することを前提として説明します。

パソコン側の設定値を変更する操作は、ご使用の無線LANカードの取扱説明書をご覧ください。

[Network Mode]

無線アクセスポイントという中継装置(本製品に内蔵)と通信を行います。

パソコン側を「Infrastructure(インフラストラクチャー)」モードに変更しておきます。

本製品側では、この項目についての設定はありません。

[ESS ID]

同じ名前を設定したパソコンが無線ネットワーク上で同じワークグループとして識別されます。パソコン側の設定を「LG」(半角大文字)に変更しておきます。

本製品の出荷時の設定値は、「LG」(半角大文字)です。

[通信チャンネル]

「Infrastructure(インフラストラクチャー)」モードで通信を行うときは、設定しても無効です。本製品側で設定する通信チャンネルにしたがって無線通信を行います。

[WEP機能]

無線LANで通信を行うとき、通信するデータの暗号化を行います。パソコン側のWEPセキュリティを「無効」に変更しておきます。

本製品の出荷時の設定値は、「WEPキーを使用しない」です。

【△注意】

- Macintoshへの無線接続には、対応していません。
- 本製品に対応する無線LANカードをご使用ください。対応しないカードとは通信できません。
- 本製品とパソコンに装着された無線LANカードの設定を両方とも同じにしてください。設定が異なると、無線LANによる通信が行えません。
- 本製品に設定した値を正確にメモして、必ず同じ値を無線で通信するすべての機器に設定してください。
- 本製品に無線LANで接続するパソコンから、本製品の「通信チャンネル」、「ESS ID」などを変更している途中は、一時的に無線で接続ができない状態になります。
すべての機器の設定内容が同じになれば、接続できる状態になります。
- WEP機能を使用しない場合、部外者から不用意に接続される可能性があり、不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などに遭遇する危険があります。また、無線LAN経由でADSL回線を使われてプロバイダー接続料金を請求されるおそれがあります。
このようなことがないように、必ずWEP機能をご使用になることをお勧めします。
- WEP機能を使って本製品と無線通信するには、弊社製の無線LANカードが必要です。
- 無線通信中に動作が不安定になる場合は、本製品やパソコンの設置場所、向きを変えてみてください。
- 本製品の無線LANに多くのパソコンが同時にアクセスすると、通信速度が著しく低下することがあります。
同時に使える無線端末の数は、最大64台までですが10台以下とすることをお勧めします。

3 パソコンを設定する

3-3 USBで接続する

USBケーブルを[USB]ポートに接続してパソコンをつなぐ場合の設定のしかたについて説明します。なお、対応OSは、Windows 98、Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000です。

本製品とパソコンの接続は、Ethernetや無線LANを使って行うこともできます。

ステップ1	USBドライバーのインストール	30
ステップ2	本製品とパソコンを接続する	14、32
ステップ3	TCP/IPを設定する	32
ステップ4	WWWブラウザを用意する	35
ステップ5	本製品から割り当てられたIPアドレスの確認	36

USBドライバーのインストール

Windows Me、Windows 2000を例に、USBドライバーをインストールする手順について説明します。

本製品の[USB]ポートと接続するコンピューターにインストールしてください。

Windows2000をご使用の場合は、Administrator権限でログオンしてください。

【Windows Me/Windows2000の場合】

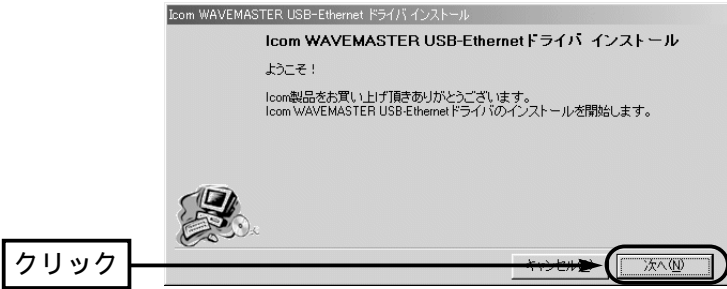
- 1.現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- 2.本製品のCD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブ[D:]に挿入します。
- 3.CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。
4. USBドライバ インストール ボタンをクリックします。
ご使用のOSを認識しますので、次の手順にしたがって操作をします。



【Auto Run機能が動作しないときは？】

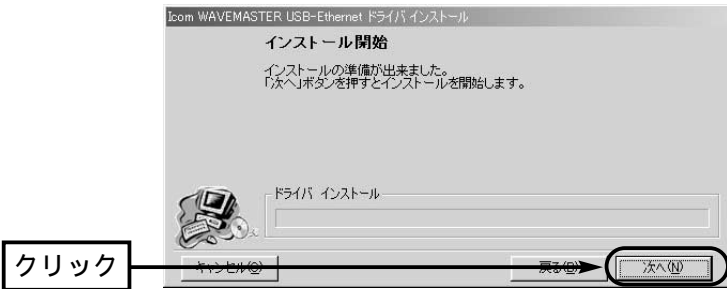
OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

5. 次へ(N) をクリックします。

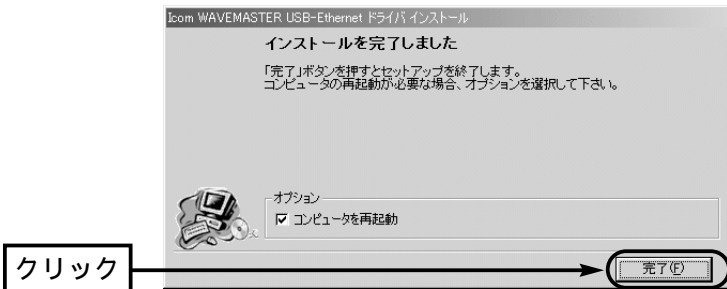


6. 次へ(N) をクリックします。

- インストールを開始します。



7. 完了(E) をクリックします。



3 パソコンを設定する

3-3 USBで接続する(つづき)

本製品の[USB]ポートと接続する

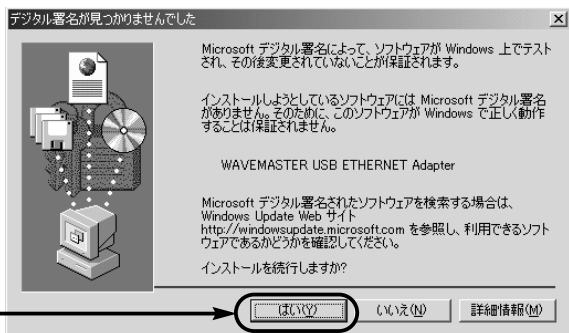
【接続の手順】

- 1.USBドライバーのインストール後、パソコンの再起動が完了したことを確認します。
- 2.2-3章を参考に、本製品に付属するUSBケーブルで本製品とパソコンと接続します。
パソコンが本製品の接続を自動認識して、次の画面を表示します。



- 3.Windows Meでご利用の場合は、本製品に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブから取り出すと完了です。

Windows 2000でご利用の場合は、次の画面で はい(Y) をクリックして、本製品に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブから取り出すと完了です。



TCP/IPプロトコルの設定

本製品の「USBドライバーをインストール」の操作を行ったあと、「3-1 Ethernetで接続する(TCP/IPプロトコルの設定)」の手順を参考に設定を行ってください。

USBドライバーがインストールされていると、本製品の「TCP/IP」プロトコルには、「WAVEMASTER USB ETHERNET Adapter」と表示されます。

【ご参考に】

ご利用のパソコンに[USB]ポートがあることを確認してください。

また、その[USB]ポートが使用できる状態に設定されている必要があります。

確認は、Windows Meの場合、「コントロールパネル」画面の[システム]アイコンをダブルクリックして表示される「デバイスマネージャ」で行えます。

パソコンのBIOSにUSB機能を選択する項目がある場合は、それを有効にする必要があります。詳しくは、ご利用のパソコンの取扱説明書でご確認ください。

本製品の[USB]ポートから取り外すには

【Windows 98/98SE/Windows Meの場合】

USBケーブルの取り外しは、必ずプラグの部分を持って行ってください。

ケーブルの部分を持って引っ張ると、本製品のUSBポートやケーブルが破損する恐れがあります。

【Windows 2000の場合】

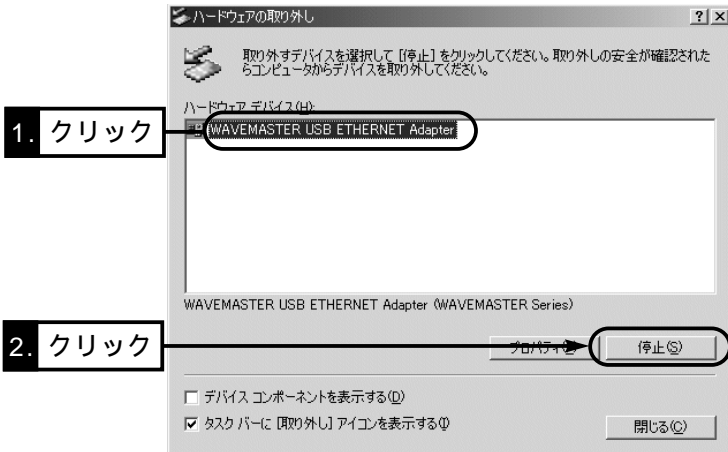
USBケーブルを取り外すには、次の操作を行う必要があります。

【取り外しの手順】

- 1.タスクバー上の[取り外し]アイコンをダブルクリックします。



- 2.[ハードウェアの取り外し]画面に表示された、「WAVEMASTER USB ETHERNET Adapter」をクリックしてから、停止(S) をクリックします。



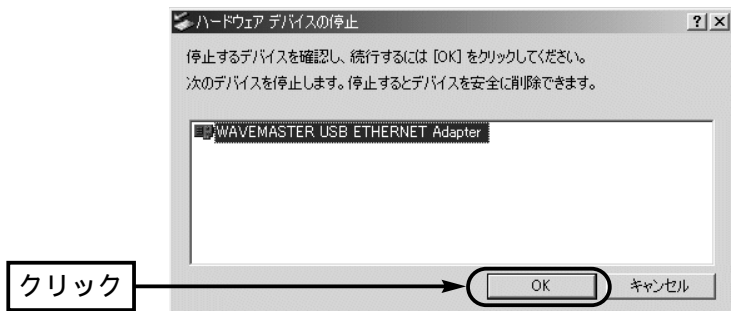
3 パソコンを設定する

3-3 USBで接続する

本製品の[USB]ポートから取り外すには

【Windows2000の場合】(つづき)

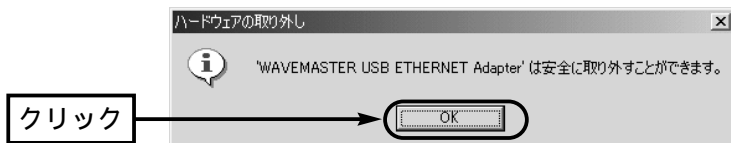
3. OK をクリックします。



4. OK をクリックしてから、USBケーブルを取り外します。

USBケーブルの取り外しは、必ずプラグの部分を持って行ってください。

ケーブルの部分を持って引っ張ると、本製品のUSBポートやケーブルが破損する恐れがあります。



3-4 WWWブラウザを用意する

本製品の設定をWWWブラウザで行うには、Microsoft Internet Explorer4.0以降、またはNetscape Navigator4.0以降が必要です。

有線または無線で接続されたパソコンからインターネットを使う場合は、ブラウザの設定が、「Proxy(プロキシ)サーバ機能」を利用しないようになっていることを確認してください。

Proxyサーバを使いたいときは、次の手順を参考に本製品をProxyの対象外にしてください。

【Microsoft Internet Explorer5.0の場合】

本製品をProxyの対象外にする設定手順について説明します。

- 1.[ツール(T)]メニューから「インターネットオプション(O)」を選択します。
- 2.[接続]タブ LANの設定(L) の順番にマウスを操作します。
- 3.設定画面の「プロキシサーバを使用する(X)」のチェックボックスにチェックを入れて、詳細(C) をクリックします。
- 4.サーバの種類で、「HTTP(H)」のテキストボックスにプロバイダーのProxyサーバアドレスを入力します。
- 5.例外の「次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない(N)」のテキストボックスには、本製品のIPアドレスを入力します。(例：192.168.0.1)

【Netscape Navigator4.7の場合】

本製品をProxyの対象外にする設定手順について説明します。

- 1.[編集(E)]メニューから「設定(E)」を選択します。
- 2.設定画面の「カテゴリ」の中から、「詳細 - プロキシ」をクリックします。
- 3.「手でプロキシを設定する」のラジオボタンにチェックを入れます。
- 4.「HTTP(H)」のテキストボックスにプロバイダーのProxyサーバアドレスを入力します。
- 5.「プロキシなし(N)」のテキストボックスに本製品のIPアドレスを入力します。(例：192.168.0.1)

3 パソコンを設定する

3-5 割り当てられたIPアドレスを確認する

DHCPサーバ機能によってパソコンに自動で割り当てられたIPアドレスを確認する方法について説明します。

ご使用のOSごとに説明する手順で確認を行ってください。

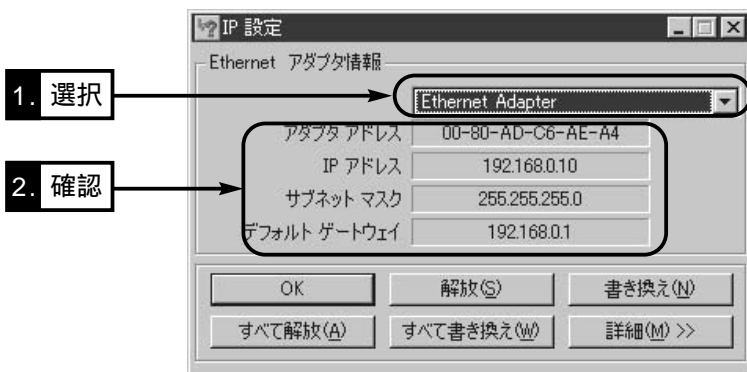
【Windows Meの場合】

インストールされたOSの[Windows]フォルダーに収められた「winipcfg.exe」というアプリケーションで確認します。

確認のしかた

- 1.マウスを スタート [ファイル名を指定して実行(R)]の順番に操作します。
- 2.コマンドラインボックスに「winipcfg」と半角入力して、[ENTER]キーを押します。
- 3.テキストボックスの をクリックして、ご使用のEthernetまたは無線LANカード名を選択します。また、USBで接続しているときは、「WAVEMASTER USB ETHERNET Adapter」と表示しますのでそれを選択します。

- IPアドレスがDHCPサーバからパソコンに割り当てられると、[IPアドレス]の項目に表示されます。



画面の表示項目について

- アダプタアドレス : Ethernetまたは無線LANカードのMACアドレス
IPアドレス : パソコンのIPアドレス
サブネットマスク : パソコンのサブネットマスク
デフォルトゲートウェイ : 本製品のLAN側のIPアドレス

【自動割り当てに失敗したら？】

パソコンのIPアドレスのネットワーク部が、本製品のIPアドレスのネットワーク部(192.168.0.)と異なるときは、IPアドレスの自動割り当てに失敗している可能性がありますので、ご使用のEthernetまたは無線LANカード、USBのTCP/IPプロトコルについての設定およびケーブルの接続を確認してから、パソコンを再起動してみてください。

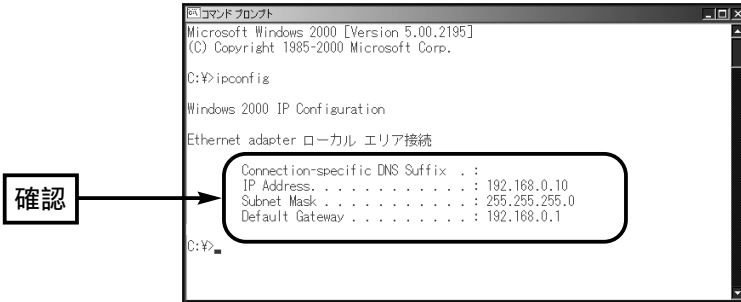
再起動したら、もう一度、上記の手順でIPアドレスを確認してください。

【Windows 2000の場合】

コマンドプロンプト画面から「ipconfig」を実行します。

確認のしかた

- 1.マウスを スタート [プログラム(P)] [アクセサリ] [コマンドプロンプト]の順番に操作します。
- 2.ipconfigとコマンドを入力して、[Enter]キーを押します。
コマンドラインのオプションについては、「ipconfig/?」を実行してご確認ください。
- 3.次に表示された画面に、パソコンに割り当てられてIPアドレスが表示されます。

**【ご参考：プロバイダーへのMACアドレス申請について】**

ご契約のプロバイダーや提供を受けるサービスによっては、本製品を含めインターネット接続できる機器(パソコンなど)のMACアドレスを事前申請する必要がある場合があります。このような場合、MACアドレスの申請および登録が完了するまでインターネットアクセスまたは一部のサービスが受けられないことがあります。

パソコンのMACアドレスは、「winipcfg.exe」または「ipconfig/all」でご確認ください。

本製品のMACアドレスは、「本体MACアドレスの確認方法」(8-9章)をご覧ください。

3 パソコンを設定する

3-5 割り当てられたIPアドレスを確認する(つづき)

【Mac OSの場合】

パソコンを起動後、実際に通信(WWWアクセスまたはメールアクセス)を行うまで、DHCPサーバからIPアドレスを取得しないようになっています。

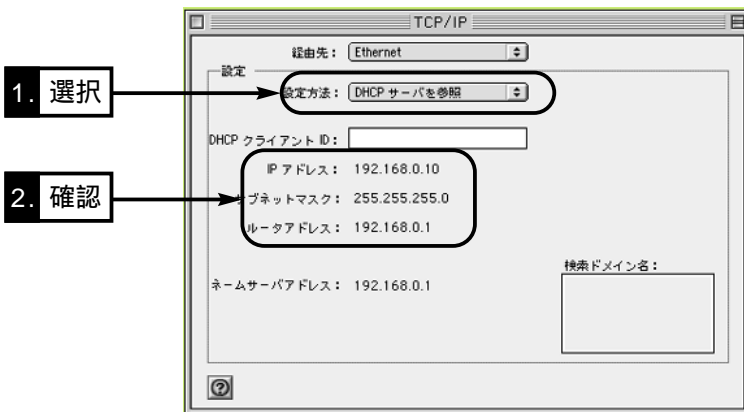
次の手順で表示される画面の各項目に「サーバを参照」と表示されているときは、一度通信を行ったあとにもう一度確認してください。

ご使用のOSによっては、操作画面等が異なる場合があります。

確認のしかた

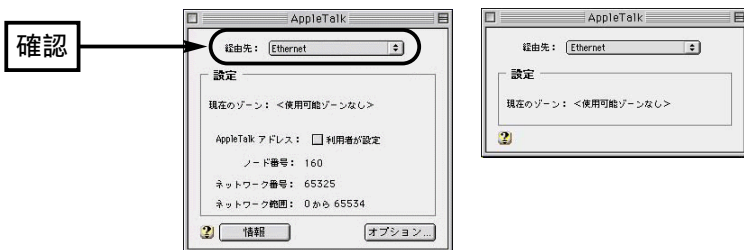
1.[アップルメニュー] [コントロールパネル] [TCP/IP]の順番にマウスを操作します。

- IPアドレスがDHCPサーバからパソコンに割り当てられると、[IPアドレス]の項目に表示されます。



2.MACアドレスの確認は、[アップルメニュー] [コントロールパネル] [AppleTalk]の順番にマウスを操作すると、次のどちらかの画面を表示しますので、[経由先]を「Ethernet」に選びます。

右の画面を表示する場合、メニューバーの[編集]メニュー [利用者モード]で表示する画面から「詳しい情報も指定」を選ぶと、左の画面を表示します。



3. 情報 をクリックします。

右の画面を表示する場合、メニューバーの[ファイル]メニューから、「情報を見る」を選ぶと、右の画面を表示します。



3 パソコンを設定する

3-6 プリンターを使うには

本製品に接続するプリンターをプリントサーバとして、TCP/IPで共有することができます。

ご使用になるプリンターのドライバーを、対象となるWindows95/98/98SE、Windows Me、Windows2000搭載のパソコンにインストールしてから、設定を行う必要があります。また、Windows2000以外のOSでご使用のパソコンには、本製品のLPR Portソフトウェアをインストールする必要があります。

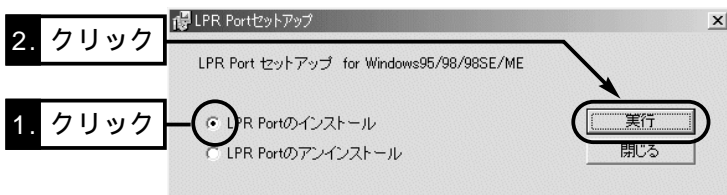
インストールおよび設定を行う前に、「割り当てられたIPアドレスを確認する」(3-5)を参考に本製品のIPアドレスとパソコンのIPアドレスが設定されていることを確認してください。

Windows Meの場合

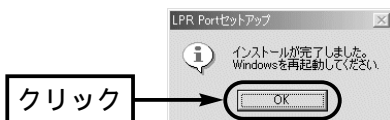
Windows Meを例に、LPR PORTソフトウェアをインストールする手順を説明します。

【LPR Portのインストール手順】

- 1.現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- 2.本製品のCD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブ[D:]に挿入します。
- 3.CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。
4. LPR Port インストール をクリックします。
- 5.「LPR Portのインストール」のラジオボタンをクリックして、実行 ボタンをクリックします。



6. OK をクリックすると、インストールは完了です。



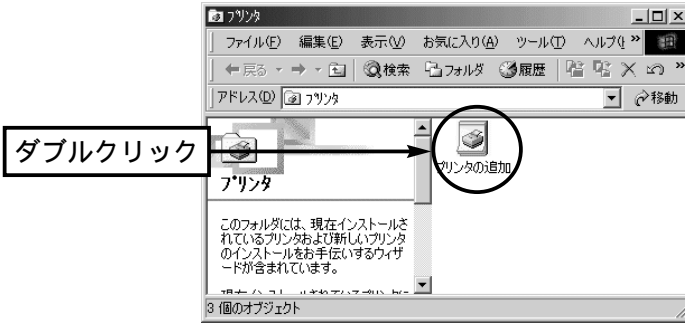
【Auto Run機能が動作しないときは？】

OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

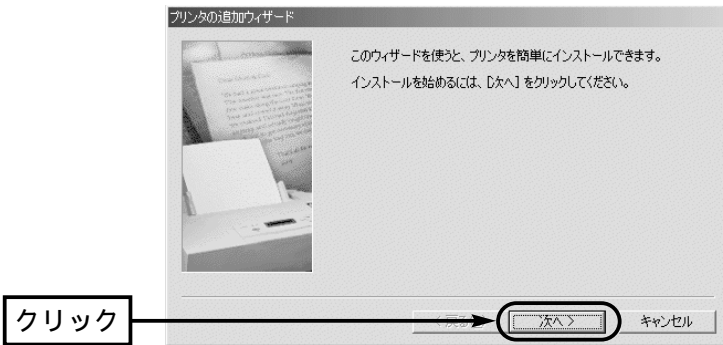
【ドライバーのインストール手順】

LPR Portソフトウェアのインストール(前ページ)が完了したら、次の手順で使用
するプリンタードライバーのインストールを行います。

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [プリンタ(P)]の順番に操作します。
[プリンタの追加]アイコンをダブルクリックします。



- 2.「プリンターの追加ウィザード」が表示されたら、次へ をクリックします。

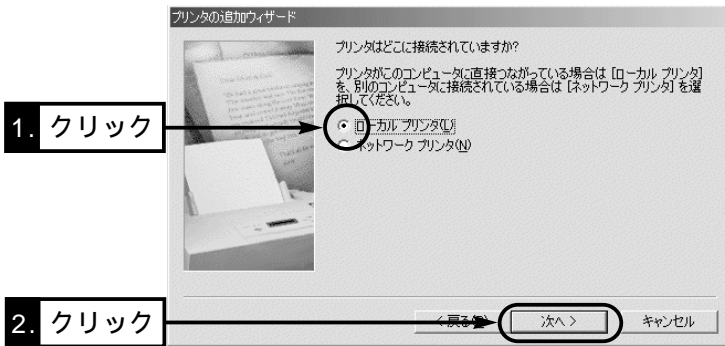


3 パソコンを設定する

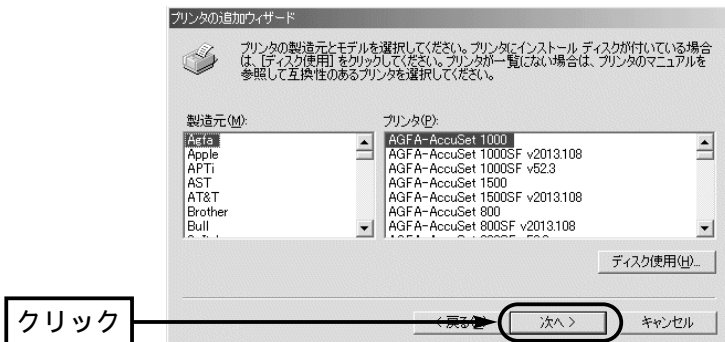
3-6 プリンターを使うには Windows Meの場合

【ドライバーのインストール手順】(つづき)

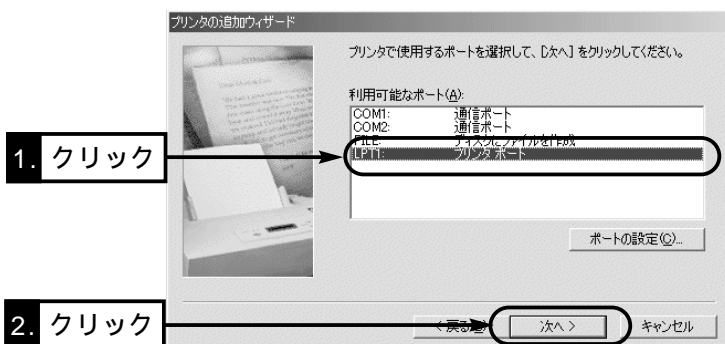
3.[ローカルプリンタ(L)]のラジオボタンをクリックして、次へ をクリックします。



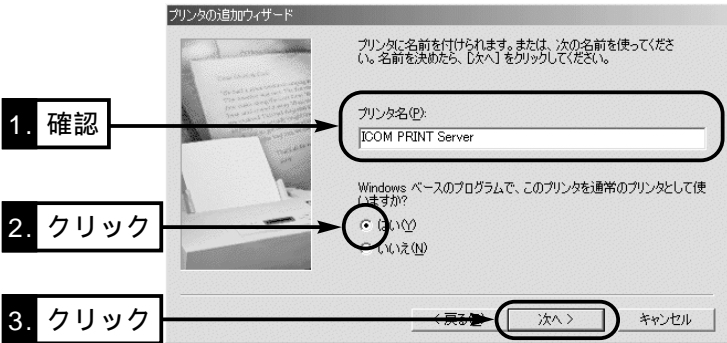
4.ご使用になるプリンターの機種名を選択して、次へ をクリックします。



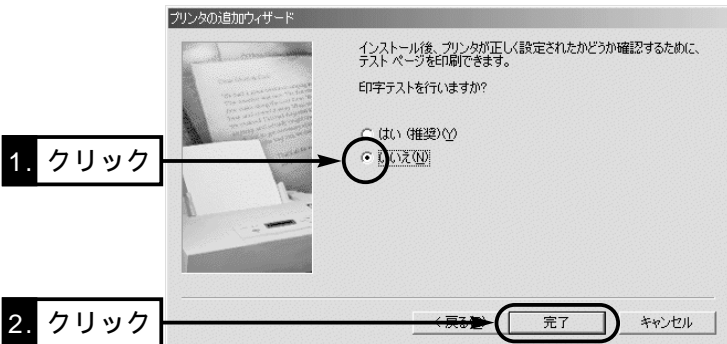
5.「LPT1:プリンターポート」を選択して、次へ をクリックします。



6.[プリンタ名(P)]のテキストボックスにご使用になるプリンターの名前が表示されていることを確認します。さらに、以前パソコンにインストールされたプリンターあるときは、通常使用するプリンターの選択を問うラジオボタンを表示しますので、[はい(Y)]をクリックして、次へ をクリックします。



7.印字テストは、プリンターの設定後に行いますので、ここでは[はい(N)]のラジオボタンをクリックしてから、完了 をクリックすると、インストールが完了です。



3

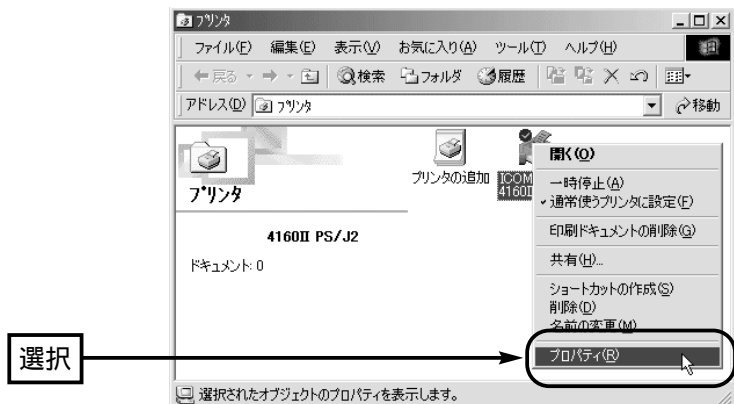
3 パソコンを設定する

3-6 プリンターを使うには Windows Meの場合(つづき)

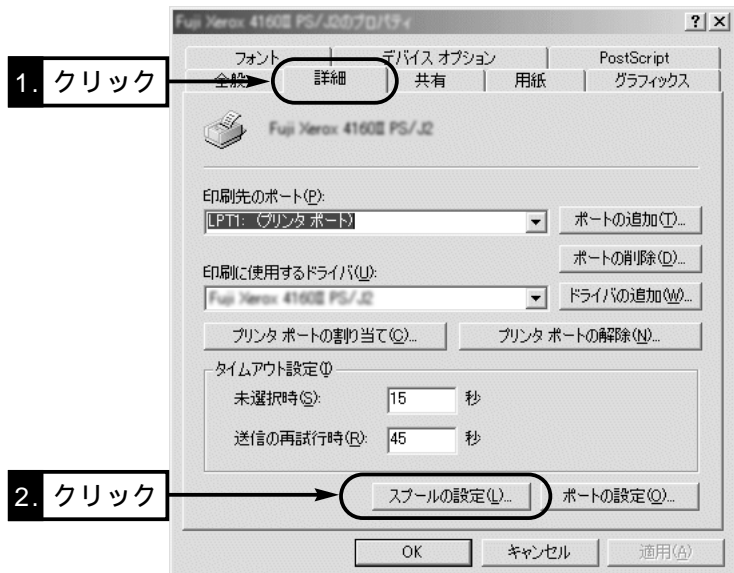
【プリンターの設定手順】

使用するプリンタードライバのインストール(⇒P41)が完了したら、次の手順でプリンターの設定を行います。

1.インストールしたプリンター名の[プリンタ]アイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択します。



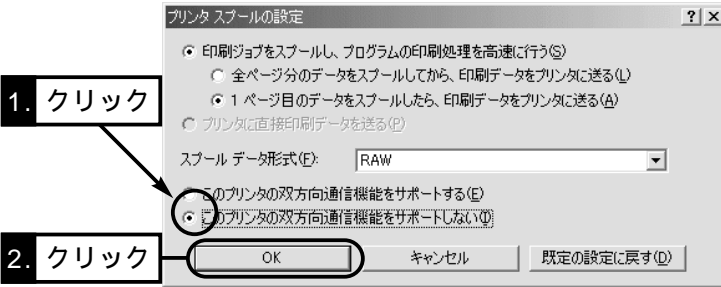
2.[詳細]タブをクリックして、 スプールの設定(L)... をクリックします。



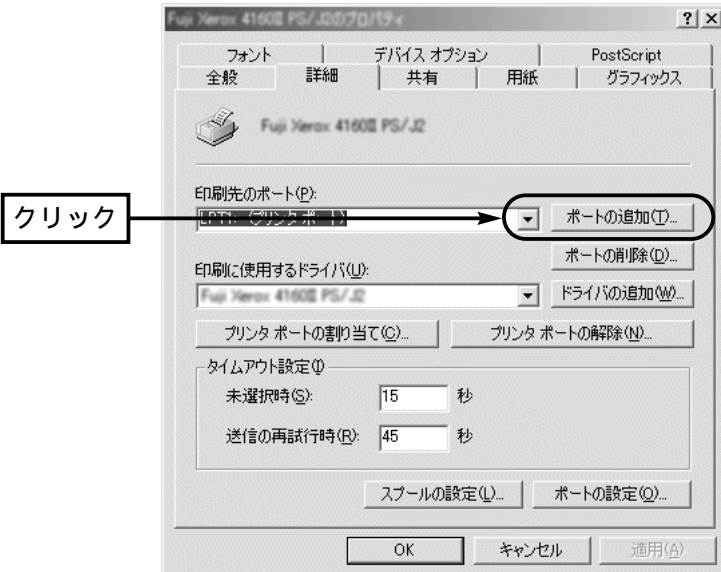
3.ご使用のプリンターが双方向通信機能に対応している場合は、[このプリンターの双方向通信機能をサポートしない(!)]のラジオボタンをクリックしてから、OK をクリックします。

本製品ではプリンターの双方向機能に対応していません。

ご使用のプリンターが双方向機能に対応していないときは、説明のように設定を変更することはできません。



4. ポートの追加(I)... をクリックします。



【△注意】
 本製品では、プリンターの双方向通信モード(WPE : Windows Printing System)に対応していませんので、プリンターに付属のユーティリティー(インク残量計)などは使用できません。

3 パソコンを設定する

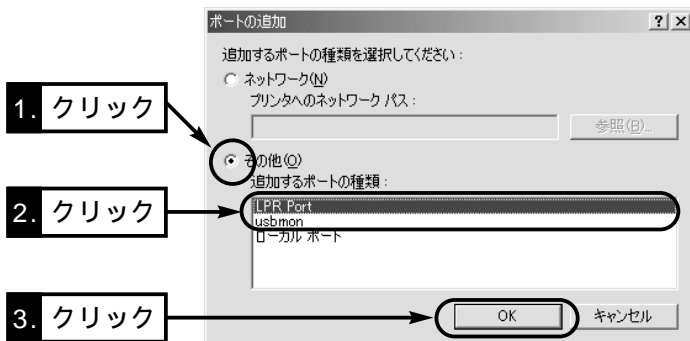
3-6 プリンターを使うには Windows Meの場合

【プリンターの設定手順】(つづき)

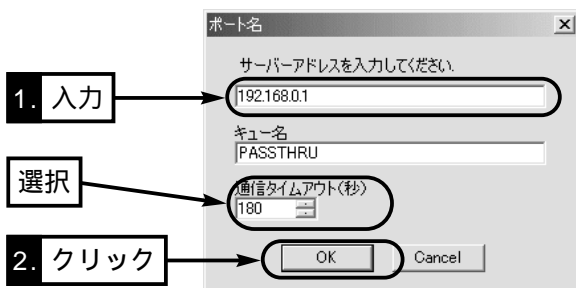
5.[その他(O)]のラジオボタンをクリックして、[追加するポートの種類:]の中から「LPR Port」をクリックします。

OK をクリックします。

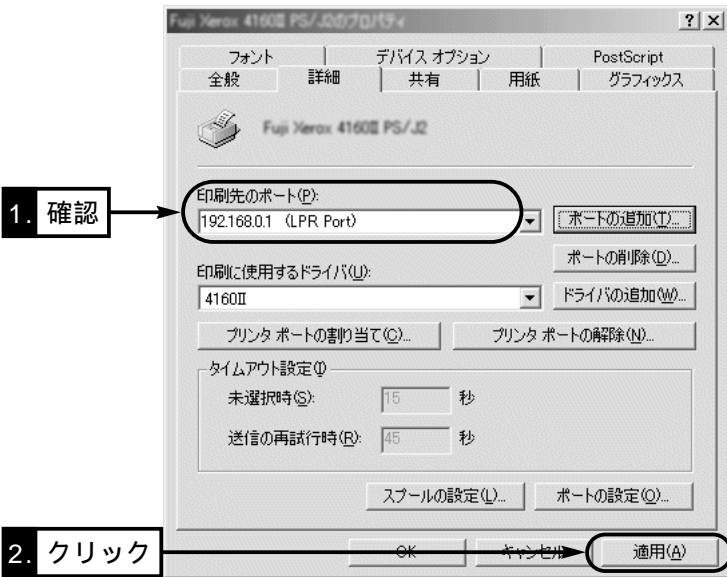
「LPR Port」という項目が表示されていないときは、設定を中止してLPR Portソフトウェア(⇒P40)をインストールしてください。



6.本製品の[LAN]ポートに割り当てたIPアドレス(出荷時の設定: 192.168.0.1)を[サーバーアドレスを入力してください。]のテキストボックスに入力してから、OK をクリックします。Windows 95を除くOSでは、必要に応じて、通信異常が起きたときのタイムアウトを[通信タイムアウト(秒)]欄で設定します。



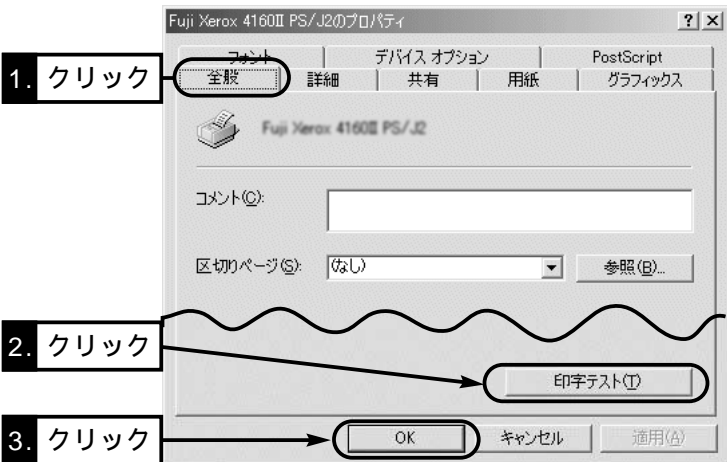
7.[印刷先のポート(P):]欄に、指定したIPアドレスが表示されていることを確認してから、適用(A) をクリックします。



8.[全般]タブをクリックして、印字テスト(I) をクリックします。
プリンターから、正常に出力されれば、インストール完了です。
OK をクリックします。

出力された文字が化けているときは、プリンタードライバーの選択に間違いがないか、ご使用のプリンターの取扱説明書などで確認してください。

3



3 パソコンを設定する

3-6 プリンターを使うには(つづき)

Windows2000の場合

【ドライバーインストールと設定の手順】

次の手順で、使用するプリンタードライバーのインストールを行います。

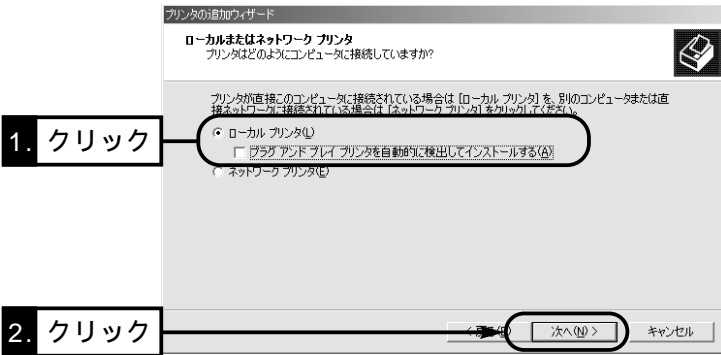
- 1.マウスを スタート [設定(S)] [プリンタ(P)]の順番に操作します。
[プリンタの追加]アイコンをダブルクリックします。



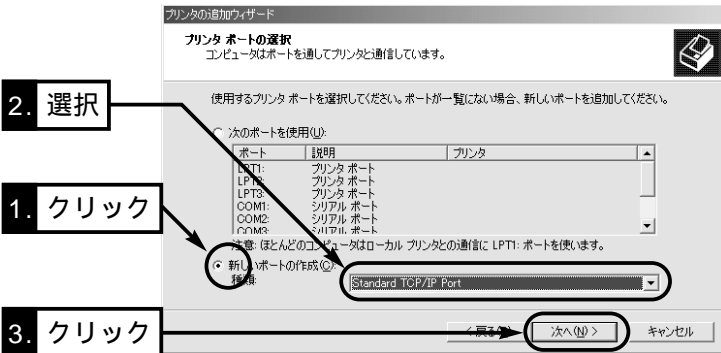
- 2.「プリンターの追加ウィザード」が表示されたら、次へ をクリックします。



3.[ローカルプリンタ(L)]のラジオボタンをクリックします。さらに[プラグ アンド プレイ プリンターを自動的に検出してインストールする(A)]のチェックマークを外して、次へ をクリックします。



4.[新しいポートの作成(C)]のラジオボタンをクリックします。
「Standard TCP/IP Port」を選択して、次へ をクリックします。



3

3 パソコンを設定する

3-6 プリンターを使うには(Windows2000の場合)

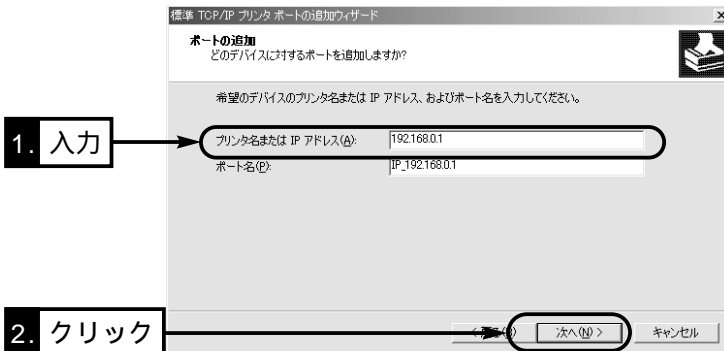
【ドライバーインストールと設定の手順】(つづき)

5. 次へ をクリックします。

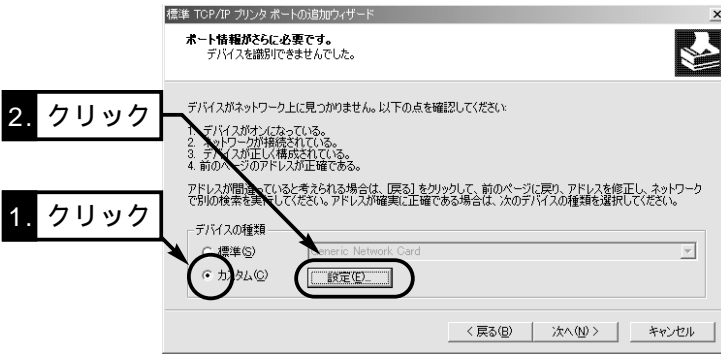


6. 本製品の[LAN]ポートに割り当てたIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)を[プリンタ名またはIPアドレス(A):]に入力してから、次へ をクリックします。

[プリンタ名またはIPアドレス(A):]に入力すると、[ポート名(P):]のテキストボックスは、自動で入力されます。



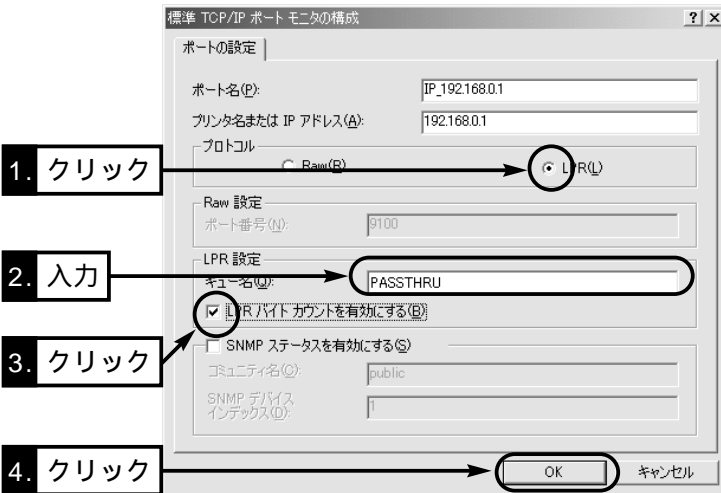
7.[カスタム(C)]のラジオボタンをクリックしてから、設定(E) をクリックします。



8.[プロトコル]欄の[LPR(L)]のラジオボタンをクリックします。

[キュー名(Q):]のテキストボックスに「PASSTHRU」と入力します。

[LPRバイトカウントを有効にする(B)]にチェックマークを付けてから、OK をクリックします。



3 パソコンを設定する

3-6 プリンターを使うには(Windows2000の場合)

【ドライバーインストールと設定の手順】(つづき)

9.手順.7の画面で、次へ をクリックします。

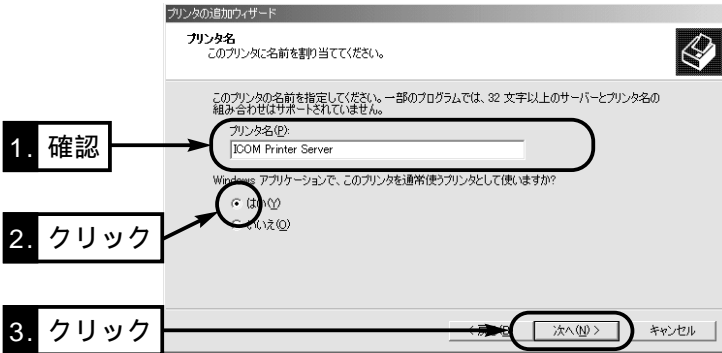
画面の内容を確認して、完了 をクリックします。



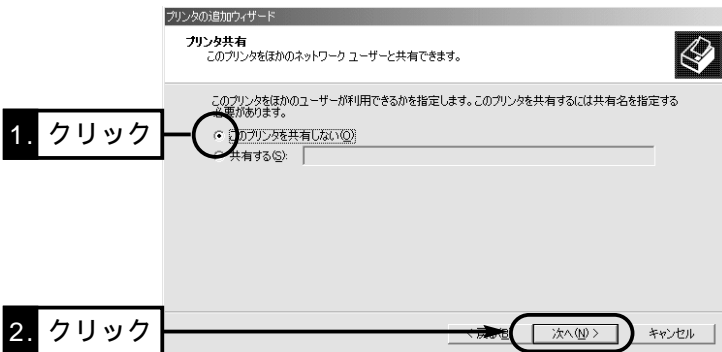
10.ご使用になるプリンターの機種名を選択して、次へ をクリックします。



11. [プリンタ名(P)]のテキストボックスにご使用になるプリンターの名前が表示されていることを確認します。さらに、以前パソコンにインストールされたプリンターがあるときは、通常使用するプリンターの選択を問うラジオボタンを表示しますので、[はい(Y)]をクリックして、次へ をクリックします。



12. [このプリンタを共有しない(Q)]のラジオボタンをクリックしてから、次へ をクリックします。



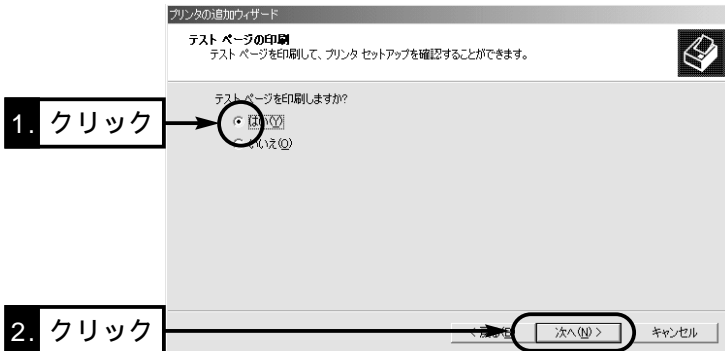
3

3 パソコンを設定する

3-6 プリンターを使うには(Windows2000の場合)

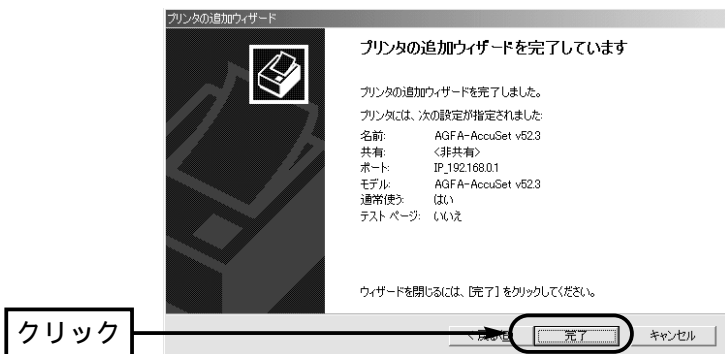
【ドライバーインストールと設定の手順】(つづき)

13. 印字テストを行うため、[はい(Y)]のラジオボタンをクリックして、OK をクリックします。



14. 印刷が開始されて、プリンターから正常に出力されれば、インストール完了です。OK をクリックします。

出力された文字が化けているときは、プリンタードライバーの選択に間違いがないか、ご使用のプリンターの取扱説明書などで確認してください。



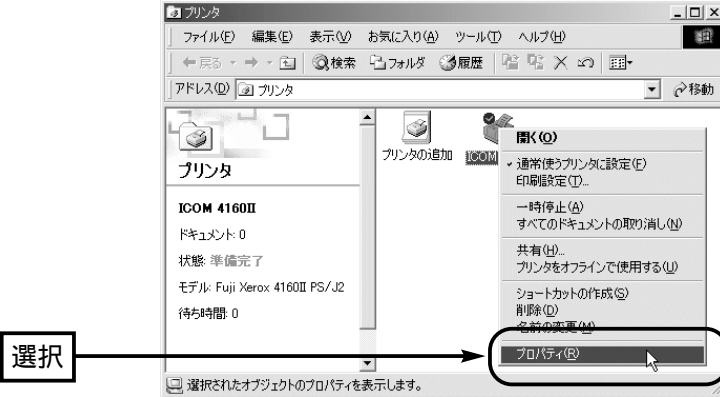
【△注意】

本製品では、プリンターの双方向通信モード(WPE : Windows Printing System)に対応していませんので、プリンターに付属のユーティリティー(インク残量計)などは使用できません。

15.本製品ではプリンターの双方向機能に対応していません。

ご使用のプリンターが双方向通信機能に対応している場合は、次の手順を参考に、双方向通信のサポートを「無効」に設定してください。

16.インストールしたプリンター名の[プリンタ]アイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択します。



17.[ポート]タブをクリックして、[双方向サポートを有効にする(E)]のチェックマークを外します。

OK をクリックして、完了です。



この章では、

Ethernetで本製品に接続するパソコンを例に、ADSL対応プロバイダーへの回線接続設定について、本製品のCD-ROMに収められた「簡単接続設定ウィザード」を使用する方法を説明します。

無線で本製品に接続するパソコンから「簡単接続設定ウィザード」を使用して設定を行う場合は、最初に「無線LANを設定する」(☞5-4章)をご覧ください。パソコン側の無線LAN設定内容が本製品と一致していることと、本製品の設定画面を無線LANから呼び出せることを確認してから、本章で設定を行うことをお勧めします。また、USBで本製品に接続するパソコンからの設定は、あらかじめUSBドライバーのインストール(☞3-3章)が必要です。

契約したプロバイダーへの手動接続操作やネットワークについて詳しく設定したいときは、「WWWブラウザ」を使用します。このときは、「WWWブラウザで設定する」(☞5章)をご覧ください。

4-1.本製品とパソコンの電源を入れる	58
4-2.簡単設定ソフトを起動する	58
4-3.設定をはじめると	59

4 簡単設定ソフトで設定する

4-1 本製品とパソコンの電源を入れる

本製品とモデム、さらに設定に使うパソコンを接続します。

1. 本製品とモデムの電源を入れます。
2. 本製品に接続されたパソコンの電源を入れます。
3. 本製品の[WAN]と[LAN]ランプが点灯していることを確認します。
消灯している場合は、2章を参考に、各機器の電源やケーブルの接続、[PC/HUB]スイッチ(Ethernetで接続する場合)の設定などをご確認ください。
パソコンをUSBで接続する場合は、[LAN]ランプは点灯しません。
4. 本製品からパソコンにIPアドレスが割り当てられている(☞3-5章)ことを確認します。
IPアドレスが割り当てられないときは、本製品の設定画面を呼び出せませんので、もう一度、「パソコンを設定する」(☞3章)でTCP/IPの設定などをご確認ください。

4-2 簡単設定ソフトを起動する

簡単設定ソフトは、本製品のCD-ROMに収められています。

1. 本製品のCD-ROMをご使用のCD-ROMドライブに挿入します。
 - CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。
2. 簡単接続設定ウィザード をクリックします。
 - 「簡単接続設定ウィザード」が起動します。



【インストールについて】

「簡単設定ソフト」をインストールしてご利用になりたいときは、ユーティリティ インストール をクリックして、「ユーティリティのインストール」(☞8-2章)の手順を参考にインストールしてください。

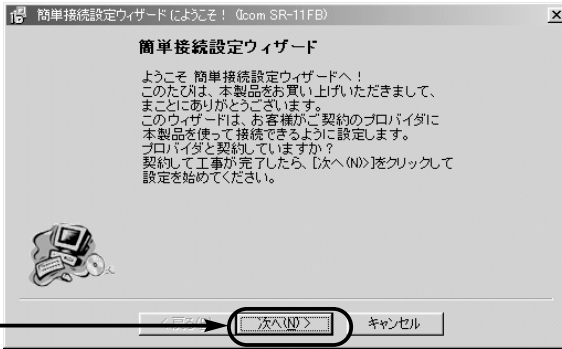
【Auto Run機能が動作しないときは？】

OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

4-3 設定をはじめる

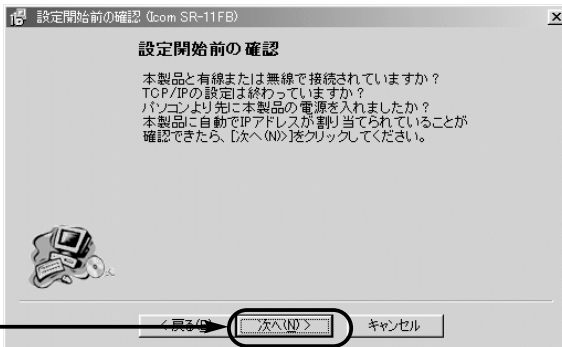
「簡単接続設定ウィザード」を起動したら、つぎの順にしたがって設定を行います。

1. 次の画面が表示されたら、内容を確認して、次へ(N) をクリックします。



2. 内容を確認して、次へ(N) をクリックします。

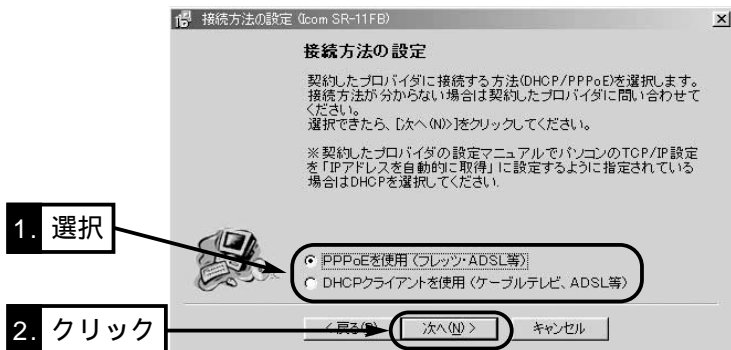
パソコンのIPアドレスをあらかじめ手動で指定しているときは、自動的に取得できるように変更(←3章)してから、やり直してください。



4 簡単設定ソフトで設定する

4-3 設定をはじめめる(つづき)

3.ご契約のプロバイダーが指定する接続方式を選択して、次へ(N) をクリックします。



上記画面で「PPPoEを使用(フレッツ・ADSL等)」を選択した場合は、契約しているプロバイダーから指定された[ユーザーID]と[パスワード]をテキストボックスに入力します。パソコンからホームページやメールを見る操作を行ったときなど、自動的にインターネットへ自動接続をする場合は、「ON」のラジオボタンをクリックしてから、次へ(N) をクリックします。

「DHCPクライアント使用(ケーブルテレビ・ADSL等)」を選択時は、この画面の設定はありません。

「OFF」に設定したときの接続操作は、WWWブラウザの設定画面で行います。

詳しくは、「インターネット接続を開始する」(第6-1章)をご覧ください。



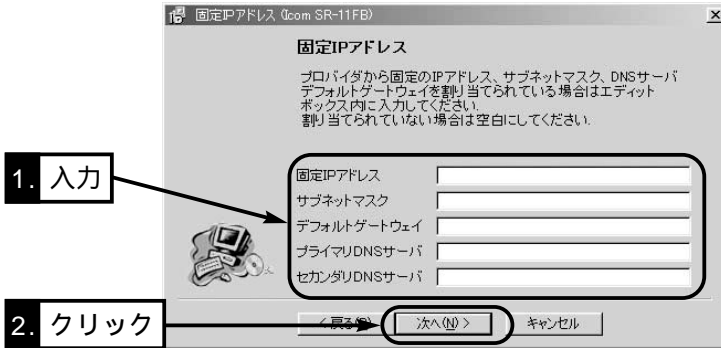
【△注意】

「簡単接続設定ウィザード」では、テキストボックスに入力する文字数制限は、「wwwブラウザ」を使って設定するときの文字数制限と同じです。「簡単接続設定ウィザード」で制限以上の文字を入力されても、制限を超えた分は、破棄されます。

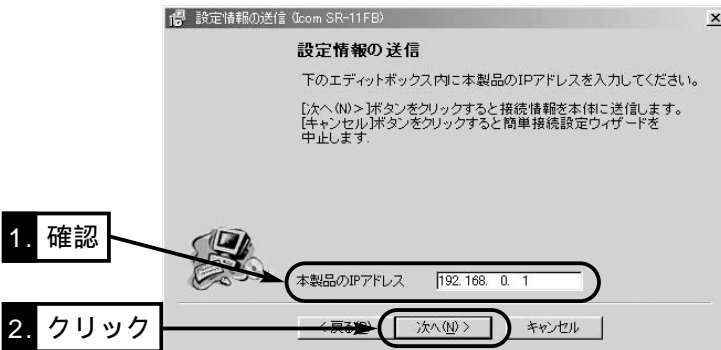
4.プロバイダーからIPアドレスを指定された場合は、そのアドレスとそれ以外に指定された内容を、該当する欄に入力して、次へ(N) をクリックします。

特に指定がない場合は、何も入力しないで、次へ(N) をクリックします。

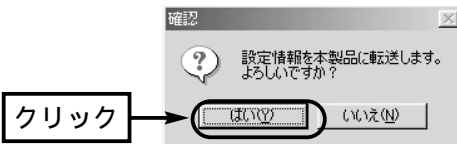
ご不明な場合は、ご契約のプロバイダーにご確認ください。



5.本製品に設定されたIPアドレス(出荷時は、192.168.0.1)が正しいかを確認して、次へ(N) をクリックします。



6.「確認」のダイアログが表示されますので、はい(Y) をクリックします。



4 簡単設定ソフトで設定する

4-3 設定をはじめめる(つづき)

7. 完了 をクリックします。



8. 手順3. で「PPPoEを使用(フレッツ・ADSL等)」を設定したときは、「6. インターネットにつなぐ」に進みます。

手順3. で「DHCPクライアント使用(ケーブルテレビ・ADSL等)」を設定したときは、WAN側とLAN側のIPアドレスが取得できている状態であれば、お好きなURLを起動したWWWブラウザのアドレスバーに入力して、接続を確認してください。

手順6. で、「ユーザー認証」画面が表示されたときは、本製品に設定されている管理者IDを入力します。管理者IDを設定していないのに、以前設定した内容が表示されるときは、その内容を消してから OK をクリックします。



【プロバイダーから配布のPPPoE接続ソフトウェアについて】

本製品でプロバイダーへの接続方式の設定をPPPoE方式に設定する場合は、プロバイダーから配布されるPPPoE接続用ソフトウェアのインストールは不要です。すでに、ご使用のパソコンにインストールされているときは、そのソフトウェアのアンインストールを行うか自動接続設定を無効に変更してから、本製品をご使用ください。

この章では、

Ethernetで本製品に接続するパソコンを例に、プロバイダーへの回線接続設定について、「WWWブラウザ」を使って行う方法を説明します。

無線で本製品に接続するパソコンから「WWWブラウザ」を使用して設定を行う場合は、最初に「無線LANを設定する」(☞5-4章)をご覧ください。パソコン側の無線LAN設定内容が本製品と一致していることと、本製品の設定画面を無線LANから呼び出せることを確認してから、本章で設定を行うことをお勧めします。また、USBで本製品に接続するパソコンからの設定は、あらかじめUSBドライバーのインストール(☞3-3章)が必要です。

本製品のCD-ROMに収められた「簡単接続設定ウィザード」を使って設定を行う場合は、「簡単設定ソフトで設定する」(☞4章)をご覧ください。

5-1.本製品とパソコンの電源を入れる	64
5-2.設定画面を呼び出す	64
5-3.本製品の時計を設定する	66
5-4.無線LANを設定する	67
5-5.インターネットに[PPPoE]方式で接続する	69
5-6.インターネットに[DHCP]方式で接続する	70
5-7.本体IPアドレスを変更するには	72
5-8.自動割り当て開始IPアドレスを変更するには	73

5 WWWブラウザで設定する

5-1 本製品とパソコンの電源を入れる

本製品とモデム、さらに設定に使うパソコンを接続します。

- 1.本製品とモデムの電源を入れます。
- 2.本製品に接続されたパソコンの電源を入れます。
- 3.本製品の[WAN]と[LAN]ランプが点灯していることを確認します。
消灯している場合は、2章を参考に、各機器の電源やケーブルの接続、[PC/HUB]スイッチ(Ethernetで接続する場合)の設定などを確認してください。
パソコンをUSBで接続する場合は、[LAN]ランプは点灯しません。
- 4.本製品からパソコンにIPアドレスが割り当てられている(☞3-5章)ことを確認します。
IPアドレスが割り当てられないときは、本製品の設定画面を呼び出せませんので、もう一度、「パソコンを設定する」(☞3章)でTCP/IPの設定などを確認してください。

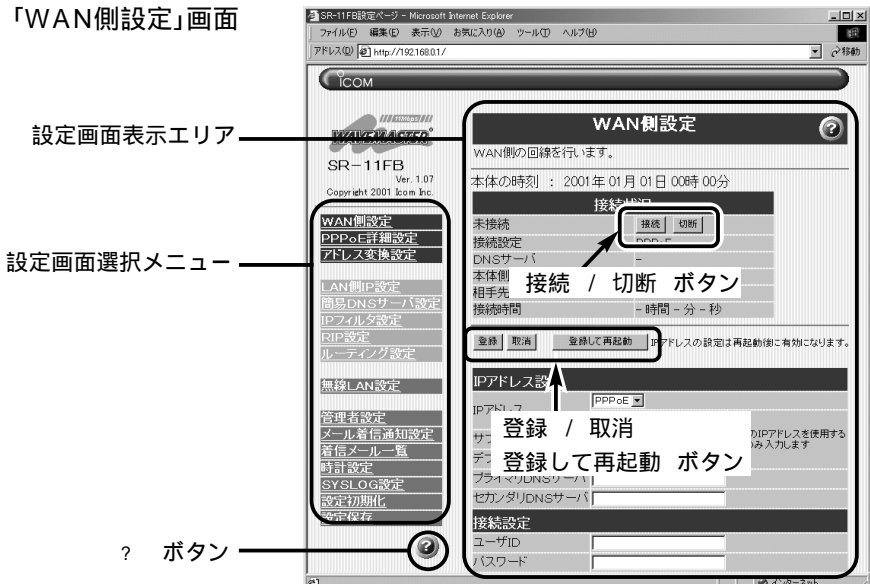
5-2 設定画面を呼び出す

次の手順で本製品のWWWブラウザ設定画面を呼び出します。

操作のしかた

- 1.WWWブラウザを起動します。
本書では、Internet Explorer5.0を使って説明しています。
- 2.本製品のURL「http://192.168.0.1」(出荷時の場合)を指定します。
 - 「WAN側設定」画面を最初に表示します。

「WAN側設定」画面



接続 / 切断 ボタン

回線の手動接続と切断を行います。

登録 / 取消 / 登録して再起動 ボタン
表示しているメニュー画面に設定した内容の登録や取消をします。

再起動して変更内容が有効になる項目は、**登録して再起動** を操作します。

設定画面選択メニュー

設定画面の全タイトルを表示します。カーソルを目的のタイトルの上に移動してクリックすると、目的の画面表示に切り替わります。

WAN側設定

WAN側への回線接続設定、[PPPoE]方式での手動接続および手動切断について設定します。

PPPoE詳細設定

PPPoE方式での自動接続および自動切断について設定します。

アドレス変換設定

グローバルアドレスとプライベートアドレス変換やポート番号の変換について設定します。

LAN側IP設定

本製品のLAN側への接続について設定します。

簡易DNSサーバ設定

本製品のDNSサーバ、簡易DNSサーバについて設定します。

IPフィルタ設定

送信元パケットや送信先パケットの通過、遮断について設定します。

RIP設定

RIPにより経路を動的に作成するときやRIPフィルタについて設定します。

ルーティング設定

パケットの中継経路を意図的に定義するとき設定します。

設定画面表示エリア

設定画面選択メニューで選択されたタイトルの画面表示に切り替わります。

? ボタン

表示しているメニュー画面の各項目について、簡単な説明を表示します。

印刷は、WWWブラウザのファイルメニューから、**印刷** を選んで行います。

無線LAN設定

本製品の無線アクセスポイント機能について設定します。

管理者設定

設定画面への管理者IDと管理者パスワードについて設定します。

メール着信通知設定

着信したメールの通知、転送、表示、フィルタリングについての設定です。

着信メール一覧

着信メールの一覧表示やメール着信通知表示を停止させるとき設定します。

時計設定

本製品の内部時計とタイムサーバへの接続について設定します。

SYSLOG設定

SYSLOG機能でファイルを一括管理するとき設定します。

設定初期化

本製品の設定内容を出荷時の状態に戻るとき設定します。

設定保存

本製品の設定内容を確認したり、設定内容を設定ファイルとして保存するとき操作します。

5 WWWブラウザで設定する

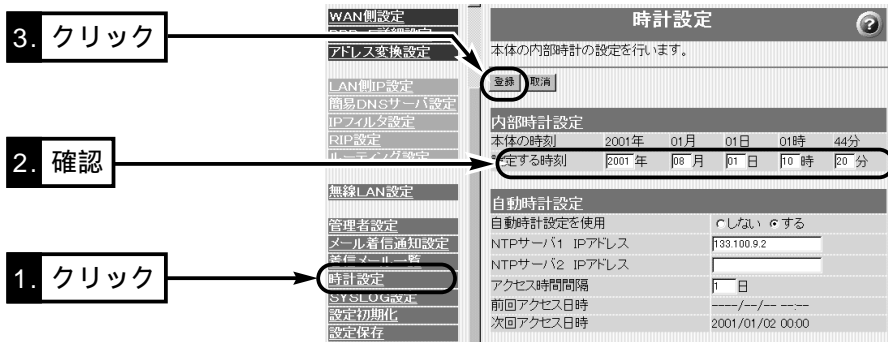
5-3 本製品の時計を設定する

設定画面から、本製品の内部時計の時刻を設定します。

設定を行わないと、[PPPoE]方式で自動接続可能な時間帯や切断でタイマーを使う時間帯などの制限を設定しても正しく動作させることができませんので、なるべく最初に設定を行っておくことをお勧めします。

設定のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.メニューから[時計設定]をクリックします。
 - 「時計設定」画面を表示します。
- 3.内部時計設定の「設定する時刻」欄に、パソコンから自動取得した時刻が設定されているのを確認して、「登録」をクリックします。



【△注意】

本製品の電源を切ると、時計の設定が出荷時の状態に戻ります。

全設定の初期化、停電や不慮の事故で電源が一時的にでも切れたときは、再設定が必要です。

5-4 無線LANを設定する

パソコン(PC/AT互換機)を無線LAN(無線アクセスポイント)で接続する場合の設定です。ここでは、最低限必要と思われる項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になることを前提として説明しています。

さらに詳しく設定を行う場合は、「アクセスポイント機能を使う」(☞7-1章)、またはPDF形式の補足説明書をご覧ください。

出荷時の設定値で無線LANを使うときは、パソコン側の設定値を本製品と同じに変更してください。

パソコンの設定については、「無線LANで接続する」(☞3-2章)をご覧ください。



【基本無線項目】

ESS ID
ESS IDの確認入力
チャンネル

【出荷時の設定値】

半角大文字で「LG」(入力値は、[*]で表示されます。)
半角大文字で「LG」(入力値は、[*]で表示されます。)
14(パソコン側の設定は不要です。)

【基本無線項目について】

ESS ID

無線LAN識別用の名前を任意に設定します。

無線伝送可能エリア内に、無線ワークグループを複数構成していて、ネットワーク情報を他の無線ワークグループから見られたくないとき変更します。また、無線LANへの不正なアクセスを防止するときなどにも使用します。

チャンネル

パソコンと本製品が無線通信に使うチャンネルです。

パソコン側は、本製品で設定したチャンネルを自動的に検知して通信します。

ローミング機能(☞7-2章)や無線アクセスポイントと通信する無線ネットワークグループが複数あるときなど、互いの無線アクセスポイント(本製品)から電波が受信できる無線伝送可能エリア内において、相手側の無線アクセスポイントのチャンネルから4つ以上飛ばして設定することで、電波干渉を完全に避けることができます。(☞補足説明書)

次ページにつづく

【△注意】

Macintoshへの無線接続には、対応していません。
無線接続は、先に本製品とモデムの電源が入った状態で行ってください。

5 WWWブラウザで設定する

5-4 無線LANを設定する(つづき)

設定のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.メニューから[無線LAN設定]をクリックします。
 - 「無線LAN設定」画面を表示します。
- 3.設定項目を変更したときは、登録して再起動 をクリックします。
 - 設定した内容が有効になります。

3. クリック

1. クリック

2. 印：設定する項目
必要に応じて変更します。

無線LAN設定

無線LANを使用するときの設定を行います。

登録して再起動

登録して再起動

無線LAN設定

ESS ID

ESS IDの確認入力

無線詳細設定

チャンネル

Rts/Ctsスレッシュホールド

セキュリティレベル

キージェネレータ

セキュリティレベル カスタム設定

受信パケットの復号

送信パケットの暗号化

WEPファクタ

暗号化ビット数

WEPキー

この項目は再起動前に有効になります。

この項目は再起動前に有効になります。

チャンネルとスレッシュホールドの値は再起動前に有効になります。

この項目はセキュリティレベルを「カスタム」に設定した場合のみ変更が可能です。

5-5 インターネットに[PPPoE]方式で接続する


[PPPoE]方式に対応するプロバイダーにモデム(※2-1章)を使って接続するとき、最低限必要と思われる設定項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になることを前提として説明しています。

設定項目についての説明は、設定画面のヘルプ、または補足説明書でご確認ください。

【プロバイダーから指定される情報の例】

- ユーザID：user(ログインユーザ名またはアカウント名と記載の場合があります。)
- パスワード：userpass(ログインパスワードと記載の場合があります。)
- IPアドレス：172.169.0.5(固定で設定するように指定された場合は必要です。)
- プライマリDNSサーバ：192.169.100.10(DNSサーバIPアドレスと記載の場合があります。)
プライマリ、セカンダリとして、複数指定される場合があります。

設定のしかた

1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(※5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
2. プロバイダーから指定された項目があるときは、画面の  の部分に入力します。
3. 登録して再起動 をクリックします。
 - 設定した内容が有効になります。

印：設定する項目
指定された内容を
入力します。

3. クリック

1. 選択

2. 入力

SR-11FB Ver. 1.07 Copyright 2001 Icom Inc.

WAN側設定
PPPoE詳細設定
アドレス変換設定

LAN側IP設定
簡易DNSサーバ設定
IPフィルタ設定
RIP設定
ルーティング設定
無線LAN設定

管理者設定
メール着信通知設定
着信メール一覧
時計設定
SYSLOG設定
設定初期化
設定保存

WAN側設定

WAN側の回線を行います。

本体の時刻：2001年01月01日00時00分

接続状況

未接続	[接続] [切断]
接続設定	PPPoE
DNSサーバ	-
本体側のIPアドレス	-
相手先のIPアドレス	-
接続時間	- 時間 - 分 - 秒

登録して再起動 IPアドレスの設定は再起動時に有効になります。

IPアドレス設定

IPアドレス

サブネットマスク

デフォルトゲートウェイ

プライマリDNSサーバ

セカンダリDNSサーバ

接続設定

ユーザID

パスワード

固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します

5 WWWブラウザで設定する

5-6 インターネットに[DHCP]方式で接続する

[DHCP]方式(ご契約のプロバイダーからIPアドレスの指定がない)に対応するプロバイダーに、ADSLモデムまたはCATVケーブルモデム(☞2-1章)を使って接続するとき、最低限必要と思われる設定項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になられたことを想定して説明しています。設定項目についての説明は、設定画面のヘルプ、または補足説明書でご確認ください。

【プロバイダーから指定される情報の例】

ご契約のプロバイダーから下記の項目についての指定がないときは、[WAN側設定]画面で接続方式[DHCP]だけを設定します。

- IPアドレス(指定された場合は入力します。)
- サブネットマスク(指定された場合は入力します。)
- デフォルトゲートウェイのIPアドレス(指定された場合は入力します。)
- DNSサーバのIPアドレス(指定された場合は入力します。)
- ドメイン名：設定不要(指定された場合でも本製品では設定不要です。)
- ホスト名：host(本製品名を指定されたときは、本体名称に「SR-11FB(出荷時の設定)」と入力します。)

設定のしかた

1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
2. プロバイダーから指定された項目があるときは、画面の 印の部分に入力します。
3. 「DHCP」を選択して、「登録して再起動」をクリックします。
 - 設定した内容が有効になります。

印：設定する項目例
指定された内容を入力します。

3. クリック

2. 選択

1. 入力

WAN側設定

WAN側の回線を行います。

本体の時刻：2001年01月01日00時33分

接続状況	
未接続	接続 切断
接続設定	DHCP
DNSサーバ	
本体側のIPアドレス	
相手側のIPアドレス	
接続時間	時間 - 分 - 秒

登録 取消 登録して再起動 (IPアドレスの設定は再起動後に有効になります。)

IPアドレス設定

IPアドレス [DHCP]

サブネットマスク

デフォルトゲートウェイ

プライマリDNSサーバ

セカンダリDNSサーバ

接続設定

ユーザID

パスワード

● 印のIPアドレスを使用するときのみ入力します

4.メニューから[LAN側IP設定]をクリックします。

- 「LAN側IP設定」画面を表示します。

5.プロバイダからホスト名を指定された場合は、その内容を[本体名称]欄に入力(例：host)します。特に指定がない場合は、空白になっていないことを確認します。

6. 登録して再起動 をクリックします。

- 設定した内容が有効になります。



7.WAN側とLAN側のIPアドレスが取得できている状態であれば、お好きなURLを起動したWWWブラウザのアドレスバーに入力して、接続を確認してください。

5 WWWブラウザで設定する

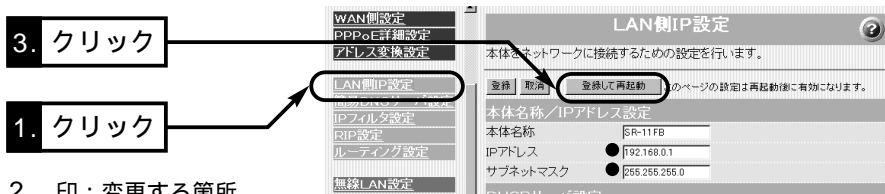
5-7 本体IPアドレスを変更するには

既存のLANに接続する場合、本製品を出荷時の状態で使うと、既存のネットワーク機器に割り当てられているIPアドレスと重複する可能性があります。ここでは、本製品のIPアドレスを変更する手順について説明します。

IPアドレスの「ネットワーク部」を変更するときは、「自動割り当て開始IPアドレスを変更する」(☞5-9章)を参考に、自動割り当て開始IPアドレスの「ネットワーク部」も併せて変更する必要があります。

変更のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.メニューから[LAN側IP設定]をクリックします。
 - 「LAN側IP設定」画面を表示します。
- 3.本製品のIPアドレスを変更して、「登録して再起動」をクリックします。
接続するほかのネットワークと「ネットワーク部」が重複しないようにしてください。
 - 設定した内容が有効になります。



2. 印：変更する箇所

- 4.本製品のDHCPサーバ機能を使っている場合は、「winipcfg.exe」(☞3-5章)を使ってIPアドレスを取り直すが、パソコンを再起動してください。また、手動でパソコンにIPアドレスを割り当てている場合は、パソコンのネットワーク部のIPアドレスを本製品と同じに変更してください。

【IPアドレスの割り当てかた】

IPアドレスは、「ネットワーク部」と「ホスト部」の2つの要素から成り立っています。出荷時の本製品のIPアドレス「192.168.0.1」(クラスC)を例とすると、最初の「192.168.0.」までが「ネットワーク部」で、残りの「1」を「ホスト部」といいます。「ネットワーク部」が同じIPアドレスを持つネットワーク機器(パソコンなど)は、同じネットワーク上にあると認識されます。

さらに「ホスト部」によって同じネットワーク上にある各ネットワーク機器を識別しています。

以上のことから、IPアドレスを割り当てるときは、次のことに注意してください。

- 同じネットワークに含めたいネットワーク機器に対しては、「ネットワーク部」をすべて同じにする
- 同じネットワーク上の機器に対して、「ホスト部」を重複させない
- ネットワークアドレス(ホスト部の先頭および「0」)を割り当てない
- ブロードキャストアドレス(ホスト部の末尾および「255」)を割り当てない

5-8 自動割り当て開始IPアドレスを変更するには

本製品のDHCPサーバ機能を使うときなど、本製品のIPアドレスの「ネットワーク部」を変更しているときは、自動割り当て開始IPアドレスの「ネットワーク部」も併せて変更する必要があります。

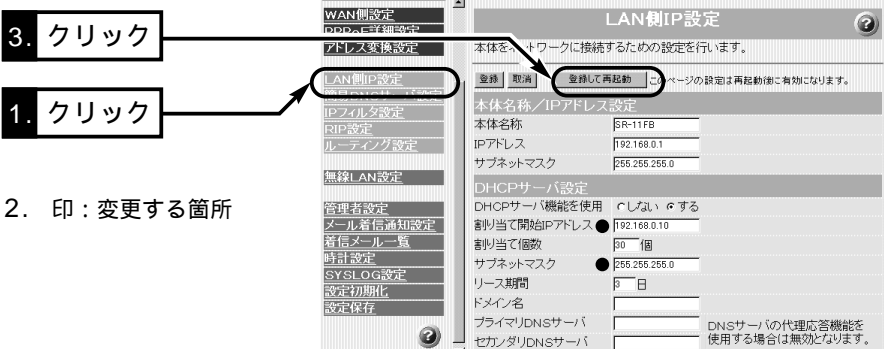
ここでは、自動割り当て開始IPアドレスを変更する手順について説明します。

変更のしかた

1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
2. メニューから[LAN側IP設定]をクリックします。
 - 「LAN側IP設定」画面を表示します。
3. [自動割り当て開始IPアドレス]を変更して、登録して再起動 をクリックします。

自動割り当て開始IPアドレスは、本製品のIPアドレスのネットワーク部と同じになるように設定してください。

 - 設定した内容が有効になります。



【DHCPサーバ機能について】

本製品のDHCPサーバ機能を有効(出荷時の設定)すると、パソコンが本製品に接続したときに、本製品からIPアドレスを自動的に取得することができます。

本製品を既存のLANにつなぐ場合、本製品が自動で割り当てるIPアドレスの範囲が、既存のネットワーク機器(パソコンなど)の固定で割り当てたIPアドレスと重複しないように設定してください。

【自動割り当て回数について】

本製品が自動で割り当てできるIPアドレスの個数は、5～128個(無線LANを含む)までです。

出荷時の割り当て開始IPアドレスとサブネットマスクの設定値の場合、理論上割り当て可能なIPアドレスの個数は、最大254個までですが、128個を超える分については、手動でクライアントに割り当ててください。

この章では、

本製品に登録した[PPPoE]方式対応のプロバイダーへ自動または手動で接続する方法について説明します。

[DHCP]方式対応のプロバイダーへの接続は、WAN側とLAN側のIPアドレスが取得できている状態であれば、お好きなURLを起動したWWWブラウザのアドレスバーに入力すると接続されます。

6-1.インターネット接続を開始する	76
手動で接続する	76
自動で接続する	77
意図しない自動接続が発生する原因について	77
6-2.インターネット接続を終了する	78
自動で切断する	78
手動で切断する	79

6 インターネットにつなぐ

6-1 インターネット接続を開始する

本製品は、ネットワーク内の情報を監視して、インターネットへのアクセス要求があると自動的に接続する機能を備えています。

出荷時の状態から[自動接続]の設定を「する」に変更すると、パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的にインターネットの自動接続が行われます。なお、[自動接続]の設定は、[PPPoE]方式で接続するプロバイダーに対して有効です。

【△注意】

[自動接続]や[自動切断]の設定を出荷時の状態から変更したときは、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となるおそれがありますのでご注意ください。

手動で接続する

[自動接続]の設定が「しない」(出荷時の設定)のときは、次の手順で接続を行います。

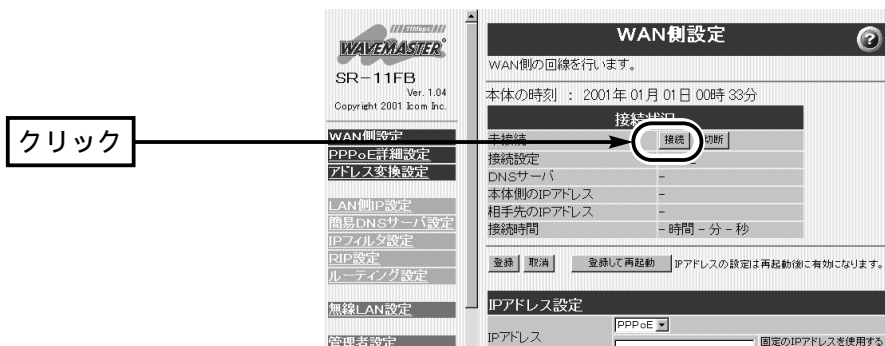
接続のしかた

1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。

- 「WAN側設定」画面を表示します。

2. 「接続状況」画面に表示された **接続** をクリックします。

- 前面パネルの[WAN]ランプが点灯して、各項目にそのときの状態が表示されます。



3. WWWブラウザを起動して、お好きなURLをアドレスバーに入力します。

- 通信中は、手順2.で点灯しているランプが点滅に替わります。

4. アドレスバーに入力したURLのホームページが表示されたことを確認します。

- 手順3.で点滅しているランプが点灯に替わります。

自動で接続する

次の手順で[自動接続]の設定を「する」に変更すると、パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的にインターネットの自動接続が行われますので、接続の操作は必要ありません。

[自動接続]設定を「する」に変更するには
変更のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.メニューから[PPPoE詳細設定]をクリックします。
 - 「PPPoE詳細設定」画面を表示します。
- 3.[自動接続]欄の「する」のラジオボタンをクリックして、登録 をクリックします。



意図しない接続が発生する原因について

設定やシステムを変更したときは、知らないうちに自動発信を繰り返すことがあります。次のような場合は、注意してください。

プロバイダーから配布されたPPPoE接続ソフトウェアの自動接続機能が有効になっているとき

本機のプロバイダー接続設定を変更したとき

無線LANの設定を変更したとき

ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続したとき

インストールしているソフトウェアに自動アップデートの機能が設定されているとき

メールソフトに自動送受信の機能が設定されているとき

メールソフトに新着メールを定期的にチェックするように設定しているとき

ホームページ上にバナー広告が表示されているとき

6 インターネットにつなぐ

6-2 インターネット接続を終了する

本製品は、ネットワーク内からインターネットへ接続されているとき、新たにアクセス要求をしない状態が続くと、自動的に切断する機能を備えています。

出荷時の状態では、タイマーの設定値(出荷時の設定：10分)にしたがって自動切断が行われます。

【△注意】

[自動接続]や[自動切断]の設定を出荷時の状態から変更したときは、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となるおそれがありますのでご注意ください。

自動で切断する

[自動切断]の設定が「する」(出荷時の設定)のときは、ブラウザによるアクセスやメールソフトでの送受信操作を行わない状態が10分(タイマ：出荷時の状態)以上続くと、自動的に切断しますので、切断の操作は必要ありません。

[自動切断]設定を「しない」に変更するには
変更のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.メニューから[PPPoE詳細設定]をクリックします。
 - 「PPPoE詳細設定」画面を表示します。
- 3.[自動切断]欄の「しない」のラジオボタンをクリックして、登録 をクリックします。



手動で切断する

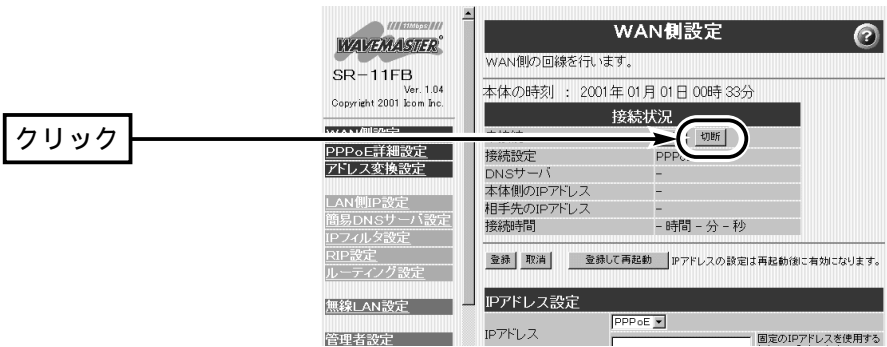
[自動切断]の設定が「しない」のときは、ブラウザによるアクセスやメールソフトでの送受信操作を行わない状態が続いても、切断操作が行われるまで自動的に回線を切断しません。

出荷時設定では、[自動切断]が「する」に設定変更されていますので、「[自動切断]設定を「しない」に変更するには」の手順で設定を変更してください。

回線を切断するときは、次の手順で行います。

切断のしかた

1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
2. 「接続状況」画面に表示された **切断** をクリックします。
 - 前面パネルの[WAN]ランプが消灯して、各項目にそのときの状態が表示されます。



この章では、

PC/AT互換機で無線LANを構築する際に知っておいていただきたい機能について説明します。また、そのLANを構築する際の手順についても説明しています。

7-1. アクセスポイント機能を使う	82
7-2. ローミング機能を使う	83
設定時のご注意	83

7 無線LANを構築する

7-1 アクセスポイント機能を使う

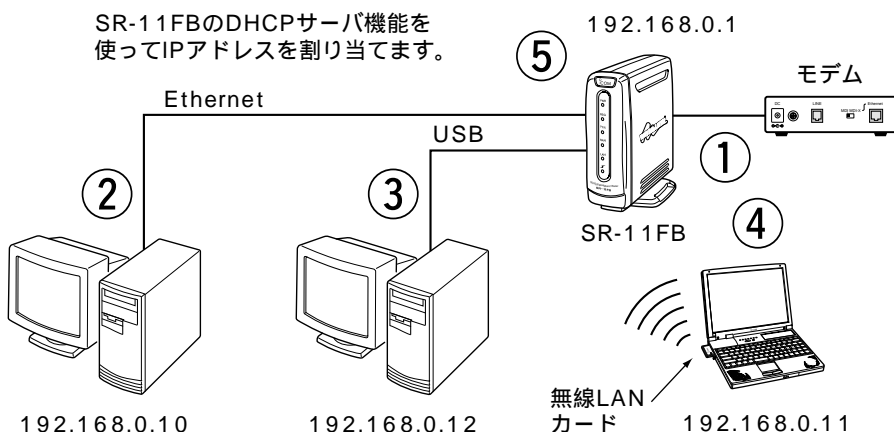
本製品に内蔵の無線アクセスポイントを使うことによって、本製品を経由して無線LAN どちらのデータをやりとりしたり、本製品の[ETHERNET]や[USB]ポートと既存の有線LANをEthernetケーブルでつなぐことによって、無線LANと有線LANのデータを自由にやりとりしたり、無線端末を使って、回線に接続された本製品を中継してインターネットに接続できます。

本製品の無線LANに多くのパソコンが同時にアクセスすると、通信速度が著しく低下することがあります。

同時に使える無線端末の数は、最大64台までですが、10台以下とすることをお勧めします。

本製品に装着する無線LANカードは、付属の製品またはその製品と同じものをご使用ください。

[WEP]機能を使って本製品と無線通信を行うには、弊社製の無線LANカード(SL-1100、SL-1105、SL-11、SL-110)をパソコン側に装着してください。



図に示す番号は、LANを構築するときの手順です。

本書の該当する部分をご覧になりながら、順番に設定をしてください。

Step ① 2-1章：[WAN]ポートへのモデム接続、2-6章：既存のLANに接続する前に

Step ② 2-2章：[LAN]ポートへのパソコン接続、3-1章：Ethernetで接続する

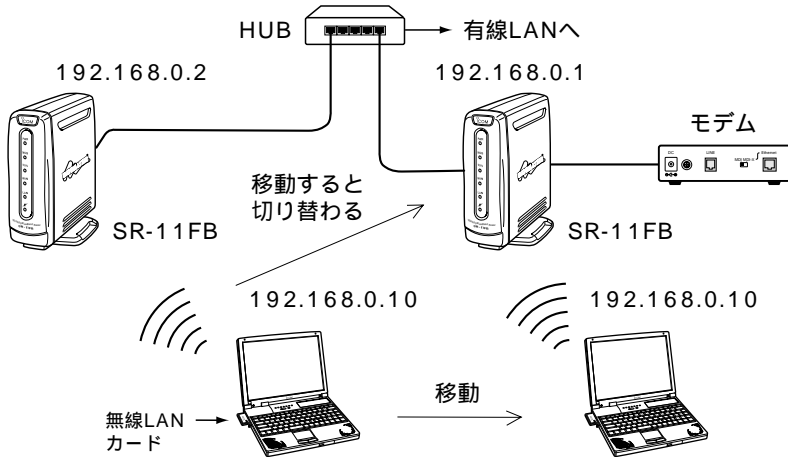
Step ③ 2-3章：[USB]ポートへのパソコン接続、3-3章：USBで接続する

Step ④ 3-2章：無線LANで接続する、5-4章：無線LANを設定する

Step ⑤ 5章：簡単設定ソフトで設定する、6章：WWWブラウザで設定する

7-2 ローミング機能を使う

本製品を2台以上用意して、それぞれを有線LANに接続することにより、無線端末を移動させても、自動的に電波の状況のよいアクセスポイント(本製品)に切り替えることによって、無線伝送エリアが広がり、工場や倉庫のように広い場所で移動しながら無線LANが利用できるようになります。



設定時のご注意

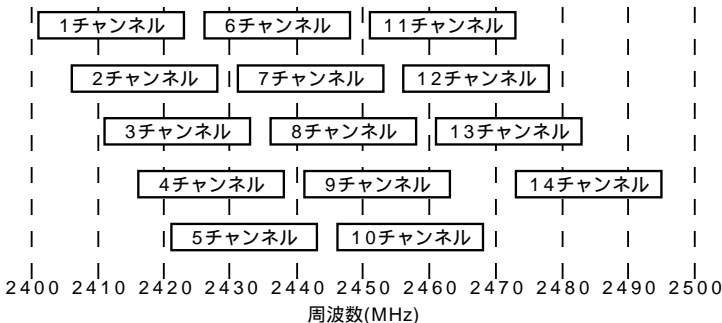
IPアドレスの重複を回避するため、回線と接続された本製品以外のネットワーク機器は、DHCPサーバ機能を無効にしてください。

ローミングエリア内で通信を行うすべての無線端末は、[ESS ID]、[WEP]の設定をすべて同じにしてください。設定が異なると通信できません。

電波干渉を避けるため、「チャンネル」を変更するときは、相手側の無線アクセスポイントのチャンネルから4つ以上飛ばして設定してください。

それ以下のときは、図に示すように帯域の1部が重複するため混信する可能性があります。

例えば、お互いの設定が、1-6-11チャンネルに設定すると混信しません。



この章では、

本製品の設定画面への接続制限、設定内容保存、設定内容初期化、ファームウェアの更新、ソフトウェアのアンインストール、本体MACアドレスの確認を行う手順について説明しています。必要なときにお読みください。

8-1.付属のCD-ROMについて	86
Auto Run機能について	86
対応OSについて	86
内容について	86
8-2.ユーティリティーのインストール	87
8-3.アンインストールについて	89
8-4.設定画面へのアクセスを制限するには	90
8-5.設定内容の確認または保存	91
8-6.保存された設定の書き込み	92
8-7.設定を出荷時の状態に戻す	93
A) MODE ボタンを使う.....	93
B)設定画面を使う	95
C)Utilityを使う	96
8-8.本製品をバージョンアップする	97
ファームウェアについて	97
バージョンアップのしかた	99
8-9.本体MACアドレスの確認方法	100
8-10.故障のときは	100

8 保守について

8-1 付属のCD-ROMについて

本製品のCD-ROMは、PC/AT互換機でご使用になれます。

本製品のCD-ROMの内容とその概要やインストールについて説明しています。

Auto Run機能について

本製品のCD-ROMは、ご使用のPC/AT互換機のCD-ROMドライブに挿入すると、自動的にソフトウェアを準備するためのメニュー画面を表示するようになっています。

対応OSについて

本製品のCD-ROMに収められたソフトウェアは、以下のOSでご使用ください。

Windows98、Windows98SE、Windows2000、WindowsMe

PDF形式の補足説明書は、Macintoshでもご利用になれます。

内容について

- 取扱説明書(本書：PDF形式)

- 補足説明書(PDF形式)

本製品に付属のソフト(IP Name)と本製品の設定項目について説明しています。

- Acrobat Reader(Windows用)

CD-ROMに収められたPDF形式のファイルを開覧するためのソフトウェアです。(インストーラに表示される画面にしたがってインストールしてください。)

- 簡単設定ソフト(Windows用)

WWWブラウザを使わないで、PPPoEまたはDHCPクライアントに対応するプロバイダーへの回線接続設定がウィザード形式で行えるソフトウェアです。

- IP Name(Windows用)

本製品の簡易DNSサーバ機能を使う際、ホスト名からIPアドレスを検索したり、その逆引きができるソフトです。

- SR-11FB Utility(Windows用)

本製品のバージョンアップや全設定内容の初期化を行うソフトです。

8-2 ユーティリティのインストール

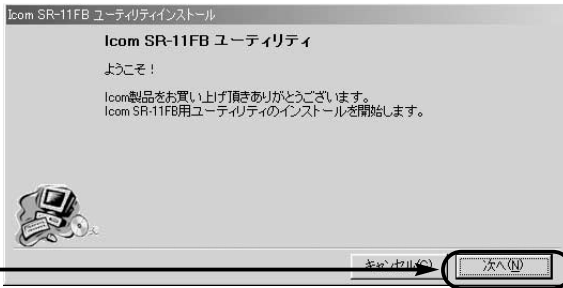
本製品のCD-ROMに収められているソフトウェアのインストールのしかたについて説明します。

手順にしたがって操作すると、次の3つのソフトウェアが一度にインストールされます。

- 簡単設定ソフト
- SR-11FB Utility
- IP-Name

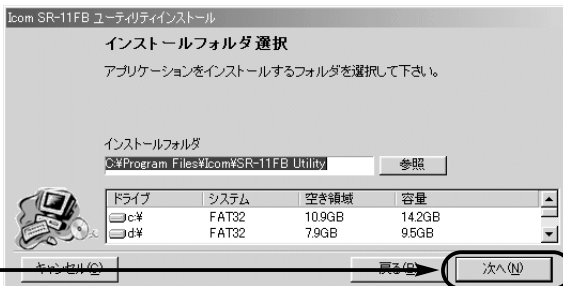
【インストールの手順】

1. 起動しているアプリケーションをすべて終了します。
2. 本製品のCD-ROMを、ご使用のPC/AT互換機のCD-ROMドライブに挿入します。
 - CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。
3. ユーティリティ インストール をクリックします。
4. 次へ(N) をクリックします。



5. このユーティリティのインストール先のフォルダーを指定して、次へ(N) をクリックします。

表示されているインストール先を変更したいときだけ、参照 をクリックして変更先のフォルダーを指定します。



【Auto Run機能が動作しないときは？】

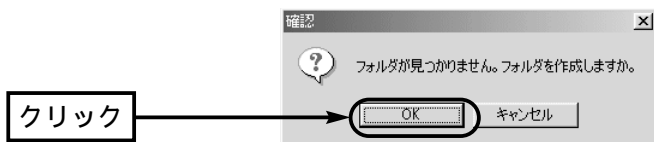
OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

8 保守について

8-2 ユーティリティーのインストール

【インストールの手順】(つづき)

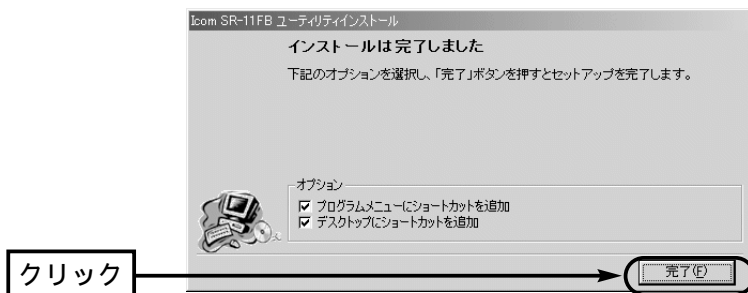
6. OK をクリックします。



7. インストール(I) をクリックします。



8. 完了(E) をクリックして、インストールが完了です。



8-3 アンインストールについて

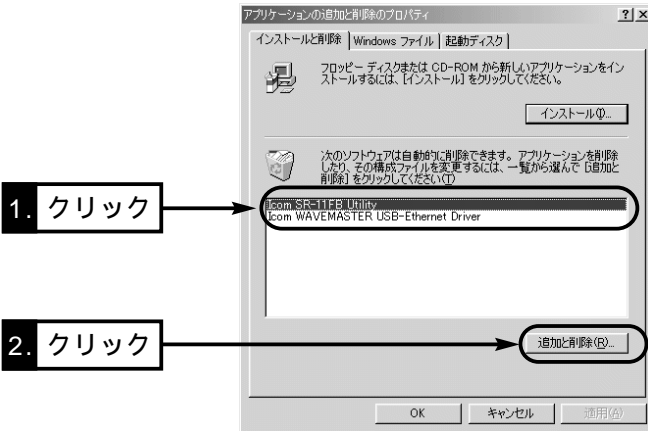
本製品のCD-ROMに収められているソフトウェア(ユーティリティー、USBドライバー)のアンインストールのしかたについて、Windows98を例に説明します。

LPR Portソフトウェアは、「プリンターを使うには(LPR Portのインストール)」(☞3-6章)で表示される画面から行えます。

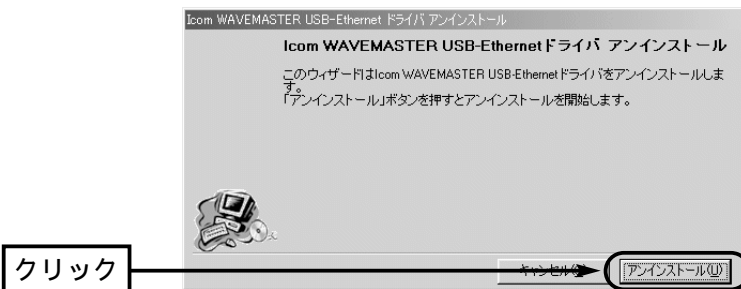
そのほかのOSをご使用の場合は、この手順を参考に、そのOSでアンインストールするときの手順にしたがってください。

【アンインストールの手順】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [アプリケーションの追加と削除]の順番に操作します。
- 2.「Icom SR-11FB Utility」 追加と削除(R)... の順番にクリックします。
USBドライバーの場合は、「Icom WAVEMASTER USB-Ethernet Driver」を選択します。



3. アンインストール(U) をクリックして、そのあと表示する画面にしたがいます。

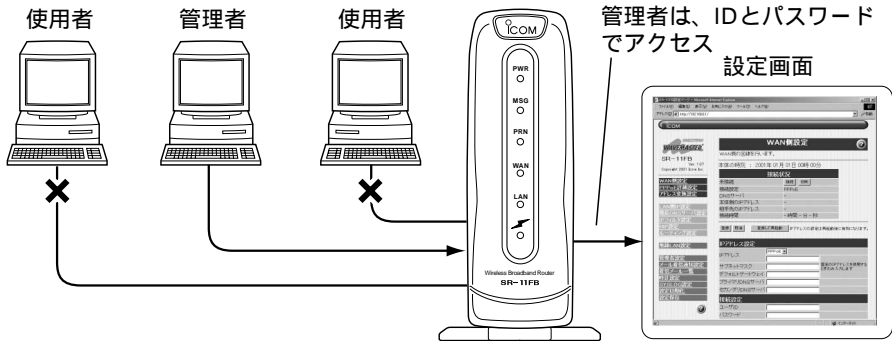


8 保守について

8-4 設定画面へのアクセスを制限するには

管理者用の[管理者ID]と[管理者パスワード]を設定することで、管理者以外がWWWブラウザで本製品の設定画面を変更できないようにします。

[管理者ID]と[管理者パスワード]が設定されていると、アクセスのとき[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]の入力を求める画面が表示されるようになります。



設定のしかた

管理者は、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力してください。

- WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(⇨5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- メニューから[管理者設定]をクリックします。
 - 「管理者設定」画面を表示します。
- 管理者IDを[管理者ID]欄に入力します。(入力例：user)
- 管理者パスワードを[管理者パスワード]欄と[パスワードの確認入力]に入力します。
入力した文字は、すべて「*(アスタリスク)」で表示されます。(入力例：userpass)
(表示例：*****)
- 登録 をクリックすると、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]をを求める画面が表示されますので、ここで設定した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力します。



8-5 設定内容の確認または保存

本製品の各設定画面ごとに設定されている内容を確認したり、ハイパーテキスト (HTML)形式のファイルに保存できます。

設定を保存しておく、と、不用意な事故によって設定内容が失われたときに利用できます。

確認と保存のしかた

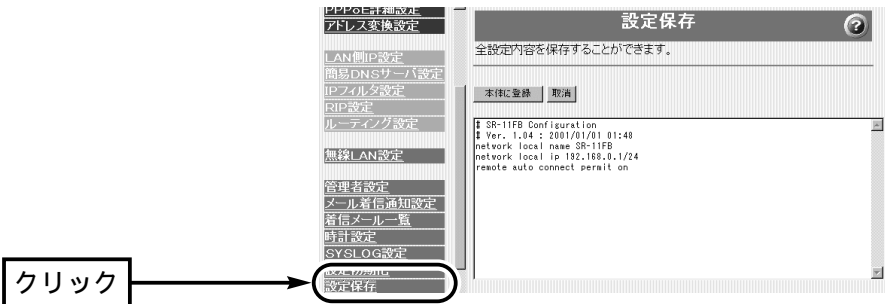
1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。

- 「WAN側設定」画面を表示します。

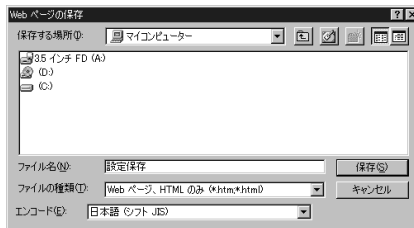
2. メニューから[設定保存]をクリックします。

- 「設定保存」画面に、設定されている内容の一覧が表示されます。

テキストボックス内の内容は、直接削ったり書き替えたりしないでください。



3. 「設定保存」画面が表示された状態で、WWWブラウザの「ファイル(F)」メニューから、[名前を付けて保存(A)]をクリックします。



4. [保存する場所(I)]を指定して、任意の名前を[ファイル名(N)]ボックスに入力します。
「Netscape Navigator」の場合、拡張子を[.htm]が[.html]に変更してください。

5. [ファイルの種類(I)]は、「Web ページ、完全 (*.htm, *.html)」を選択します。

(Internet Explorer)

保存ファイルの漢字コードを選択できる場合は、JISを選択して保存してください。

6. 保存(S) をクリックすると、指定した場所に設定ファイルが保存されます。

「設定保存」画面でのパスワード表示

「設定保存」画面内に表示される、相手先パスワード、着信パスワード、管理者パスワード、キージェネレータ(暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化して表示しますので、保存した設定ファイルよりパスワードが外部に漏れることはありません。

8 保守について

8-6 保存された設定の書き込み

8-5章で保存した設定ファイルを本製品の設定画面に書き込む手順を説明します。

書き込みのしかた

1. 本製品に接続したパソコンから、保存された「htm」の拡張子がついた設定ファイルの上にカーソルを移動して、ダブルクリックします。

- 「設定保存」画面を表示します。

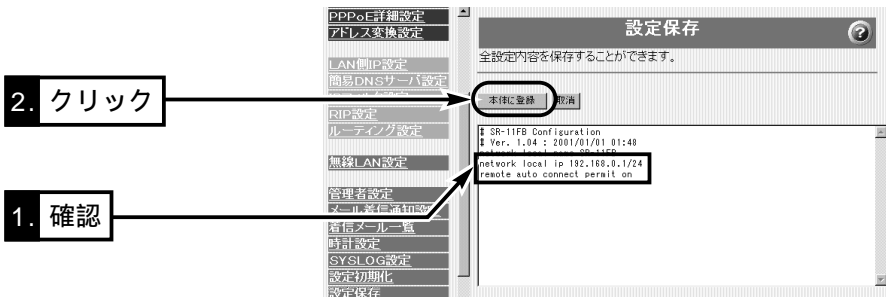


SR-11FB設定
ページ.htm

2. テキストボックス内で、本製品のIPアドレスを確認します。

表示されているIPアドレスが、設定されている本製品のIPアドレスと異なるときは、設定ファイル内の本製品のIPアドレスを、現在設定されている本製品のIPアドレスに変更してください。なお、それ以外の項目は変更しないでください。

3. 本体に登録 をクリックします。



4. 本体に登録 をクリックすると、設定ファイルの内容が本製品に書き込まれます。設定を書き込んだあと続いて設定を行うときは、設定書き込みのために開いた画面を使用すると誤動作の原因になります。新たに起動したWWWブラウザから、設定画面にアクセスをやり直すようにしてください。

【△注意】

本製品で作成した設定ファイルを同じ機種どうしや本製品以外の機種に書き込まないでください。

8-7 設定を出荷時の状態に戻す

ネットワーク構成を変更するときなど、本製品の設定をはじめからやりなおしたり、既存の設定データをすべて消去したいなど、そのときの状況に応じて次の3とおりの方法で設定内容を出荷時の状態に戻す(初期化する)ことができます。

A) MODE ボタンを使う

B) 設定画面を使う(☞P95)

C) Utilityを使う(☞P96)

Utilityで出荷時の状態に戻すには、付属のCD-ROMからUtilityをインストールする必要があります。

インストールのしかたについては、「ユーティリティのインストール」(☞8-2)をご覧ください。

A) MODE ボタンを使う

この方法で初期化を実行すると、すべての設定項目が出荷時の状態になります。

本製品に設定されたIPアドレスが不明なときなど、本製品の設定画面が呼び出せないときに、次の手順で初期化が行えます。

初期化のしかた

- 1.本製品に接続するDCコネクタを外して、電源を切ります。
- 2.本製品に接続するすべてのネットワーク機器を外します。
- 3.DCコネクタを本製品につないで、電源を入れます。
4. MODE ボタンを押しながら、 RESET ボタンだけを短く押し離します。
- 5.[MSG]ランプと[PRN]ランプが交互に点滅を繰り返す状態から同時点滅に切り替わったら、 MODE ボタンを離します。
 - 「設定初期化」モードに移行して動作を開始します。
- 6.パソコンを本製品に有線または無線で接続して、OSを起動します。
- 7.「WWWブラウザ」を起動して、本製品の出荷時のIPアドレス(192.168.0.1)を指定します。(無線での接続は、ESS IDの設定を「LG(出荷時の設定)」にしてください。)

【「設定初期化」モードについて】

MODE ボタンの操作で「設定初期化」モードに移行すると、実際に初期化操作(上記手順8.以降の操作)が行われるまで、一時的に本製品のIPアドレスやESS IDを出荷時の設定に置き換えます。手順8.以降の操作をしないで、本製品の電源を再投入すると、元の状態に戻ります。

8 保守について

8-7 設定を出荷時の状態に戻す

A) MODE ボタンを使う

初期化のしかた (つづき)

8.[設定初期化モード]画面が表示されたら、初期化実行 をクリックします。



9. 再起動 をクリックします。



10.本製品のランプが「設定初期化」モードに以降する前の状態に戻って、[WAN側設定]画面を表示したら、初期化が完了です。

- 再起動中は、次の画面を表示します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

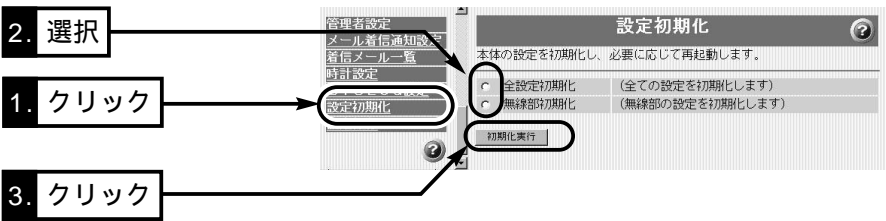
8-7 設定を出荷時の状態に戻す(つづき)

B) 設定画面を使う

本製品に設定されたIPアドレスがわかっていて、そのIPアドレスで設定画面にアクセスできるときは、本製品の設定画面を使って初期化を実行すると、全設定または無線部、というように範囲を選んで初期化できます。

初期化のしかた

1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
2. メニューから[設定初期化]をクリックします。
 - [設定初期化]画面を表示します。
3. 初期化したい条件に該当するラジオボタンをクリックします。
4. 初期化実行 をクリックします。
 - 選択した条件に該当する内容を出荷時の状態に戻して、[WAN側設定]画面に戻ります。



初期化範囲について

全設定初期化

本製品に設定されたすべての内容を出荷時の設定に戻します。

無線部初期化

「無線LAN設定」画面の項目を出荷時の状態に戻します。

8 保守について

8-7 設定を出荷時の状態に戻す(つづき)

c) Utilityを使う

Utilityは、本製品のCD-ROMに収められています。

ここでは、Utilityを使って初期化する手順について説明しています。

インストールのしかたについては、「ユーティリティのインストール」(⇒8-2)をご覧ください。

Utilityを使う前に

Utilityを使って本製品の設定を出荷時の状態に戻すには、「Utility使用」モードに切り替えてください。切り替えないときは、Utilityを使って初期化できません。また、あらかじめ本製品にアクセスして、使用するパソコンにIPアドレスを割り当てておいてください。

切り替えかた

- 1.本製品に接続するDCコネクタを外して、電源を切ります。
- 2.本製品に接続するすべてのネットワーク機器を外します。
- 3.DCコネクタを本製品につないで、電源を入れます。
4. MODE ボタンを押しながら、RESET ボタンだけを短く押して離します。
- 5.[MSG]ランプと[PRN]ランプが交互に点滅を繰り返す状態から同時点滅に切り替わるまでに、MODE ボタンを離します。

- 「Utility使用」モードに移行して動作を開始します。

初期化のしかた

- 1.本製品が「Utility使用」モードで動作していることを確認したら、1台のパソコンを本製品に有線または無線で接続して、OSを起動します。

- 2.「SR-11FB Utility」を起動します。

マウスを スタート [プログラム(P)] [Icom SR-11FB] [ファーム更新ユーティリティ]の順番に操作します。

- Utilityの操作画面を表示します。(次ページの画面参照)

- 3.[ユーザーデータの初期化]のラジオボタンをクリックします。

[SR-11FBのIPアドレス]のテキストボックスに本製品のIPアドレスを指定します。

実行 をクリックします。(次ページの画面参照)

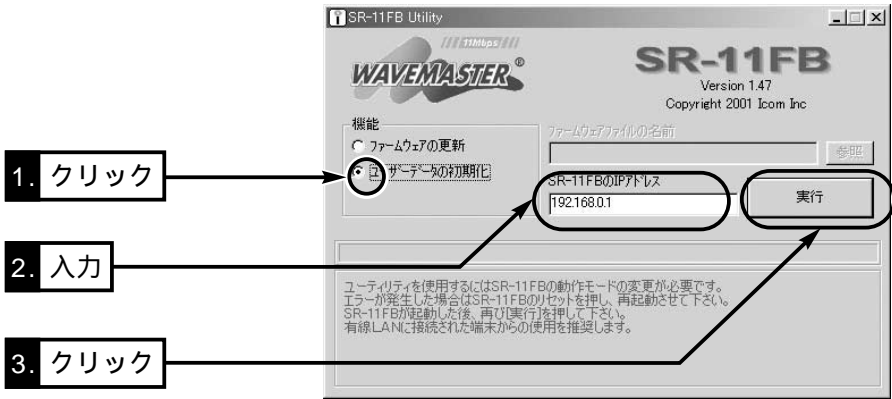
- 4.「ユーザーデータの初期化が完了しました」というメッセージが「SR-11FB Utility」の画面に表示されたら、本製品の電源を入れなおすと初期化が完了します。

【「Utility使用」モードについて】

MODE ボタンの操作で「Utility使用」モードに移行すると、実際にUtilityで操作が行われるまで、一時的に本製品の無線LANセキュリティー(WEP機能)の設定を無効に変更します。無線端末でUtilityを使うとき、WEP機能をパソコン側に設定しているときは、「無効」してください。

c) Utilityを使う

初期化のしかた (手順3.の操作)



【△注意】

Utility実行中は、Utilityを終了したり、本製品の電源を切ったりしないでください。
途中で作業を中断すると、データの消失や誤動作の原因になりますのでご注意ください。
画面に「.....が完了しました」と表示されるまでお待ちください。

8-8 本製品をバージョンアップする

付属のCD-ROMに収められているUtilityを使用します。

ここでは、Utilityを使ってバージョンアップ(ファームウェアを更新)する手順について説明しています。インストールのしかたについては、「ユーティリティのインストール」(8-2)をご覧ください。

ファームウェアについて

ファームウェアは、本製品を動作させるために、出荷時から本製品のフラッシュメモリーに書き込まれているプログラムです。

このプログラムは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップを行うことがあります。バージョンアップの作業を行う前に、本製品の設定画面にアクセスして、次のフレーム内に表示するバージョン情報を確認してください。

バージョンアップをすると、機能の追加など、本製品を最良の状態に保つことができます。



8 保守について

8-8 本製品をバージョンアップする

ファームウェアについて(つづき)

Utilityを使う前に

Utilityを使って本製品のファームウェアを更新するには、「Utility使用」モードに切り替えてください。切り替えないときは、Utilityを使って更新できません。また、あらかじめ本製品にアクセスして、使用するパソコンにIPアドレスを割り当てておいてください。

切り替えかた

- 1.本製品に接続するDCコネクターを外して、電源を切ります。
- 2.本製品に接続するすべてのネットワーク機器を外します。
- 3.DCコネクターを本製品につないで、電源を入れます。
4. MODE ボタンを押しながら、 RESET ボタンだけを短く押し離します。
- 5.[MSG]ランプと[PRN]ランプが交互に点滅を繰り返す状態から同時点滅に切り替わるまでに、 MODE ボタンを離します。
 - 「Utility使用」モードに移行して動作を開始します。

更新操作についてのご注意

ファームウェア転送時のエラー防止のため、Utilityがインストールされたパソコン(有線または無線で本製品に接続できること)を本製品と1対1で接続してください。

本製品とパソコンをEthernetで接続できる環境がある場合は、できるだけEthernetで接続することをおすすめします。

- 無線で接続する場合は以下のことを守ってください。

パソコン側の無線LANセキュリティ(WEP機能)を「無効」に設定してください。

EthernetおよびUSBケーブルを本製品に接続しているときは、取り外してください。

本製品との無線通信距離は、1m以内にしてください。

記載する操作の結果については、自己責任の範囲となりますので、次のことを守って作業を始めてください。

本製品のCD-ROM(Acrobat Readerを除く)は、本機専用ですので、本機以外の製品で使用しないでください。

本製品の設定ファイルや弊社ホームページより提供されるファームウェアアップデート用データファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、変更や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

8-8 本製品をバージョンアップする(つづき)

バージョンアップのしかた

1.本製品が「Utility使用」モードで動作していることを確認したら、1台のパソコンを本製品に有線または無線で接続して、OSを起動します。

2.「SR-11FB Utility」を起動します。

マウスを スタート [プログラム(P)] [Icom SR-11FB] [ファーム更新ユーティリティ]の順番に操作します。

●Utilityの操作画面を表示します。

(画面参照)

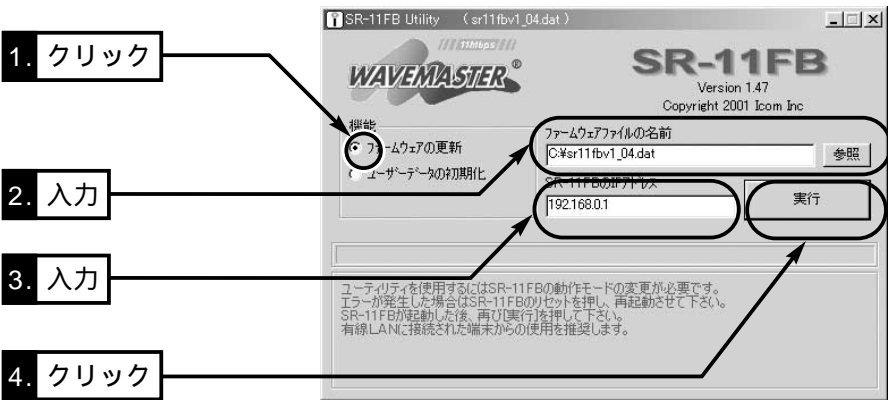
3.[ファームウェアの更新]のラジオボタンをクリックします。

ダウンロードした本製品の新しい設定ファイル(拡張子: dat)へのリンク先を[ファームウェアファイルの名前]のテキストボックスに直接入力するか、参照 をクリックして選択します。

[SR-11FBのIPアドレス]のテキストボックスに本製品のIPアドレスを指定します。

実行 をクリックします。

(画面参照)



4.「ファームウェアの更新が完了しました」というメッセージが「SR-11FB Utility」の画面に表示されたら、本製品の電源を入れなおすと初期化が完了します。

【更新にかかる時間について】

ファームウェアのデータファイルを本製品に転送して再起動にかかるまでの時間の目安です。

- 転送 = 30～60秒
- 再起動 = 30秒

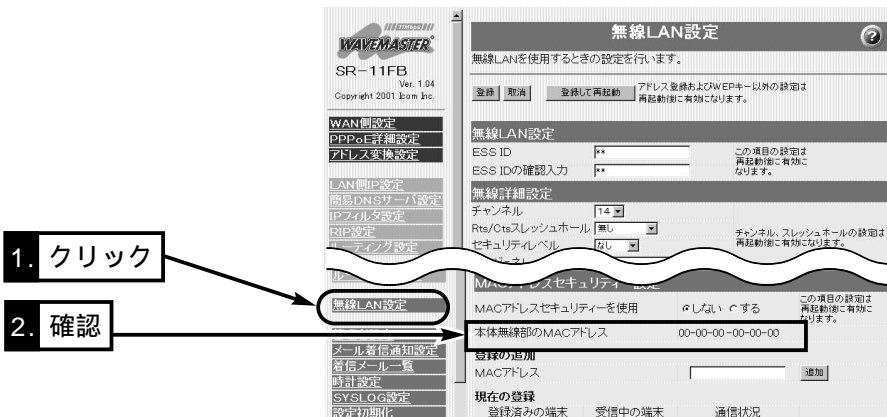
8 保守について

8-9 本体MACアドレスの確認方法

ご契約のプロバイダーにMACアドレスの申請および登録が必要な場合(☞1-7章)など、次の手順を参考に本製品のMACアドレスを確認してください。

確認のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(☞5-2章)します。
 - 「WAN側設定」画面を表示します。
- 2.メニューから[無線LAN設定]をクリックします。
 - [無線LAN設定]画面を表示します。



8-10 故障のときは

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とパソコンの設定などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

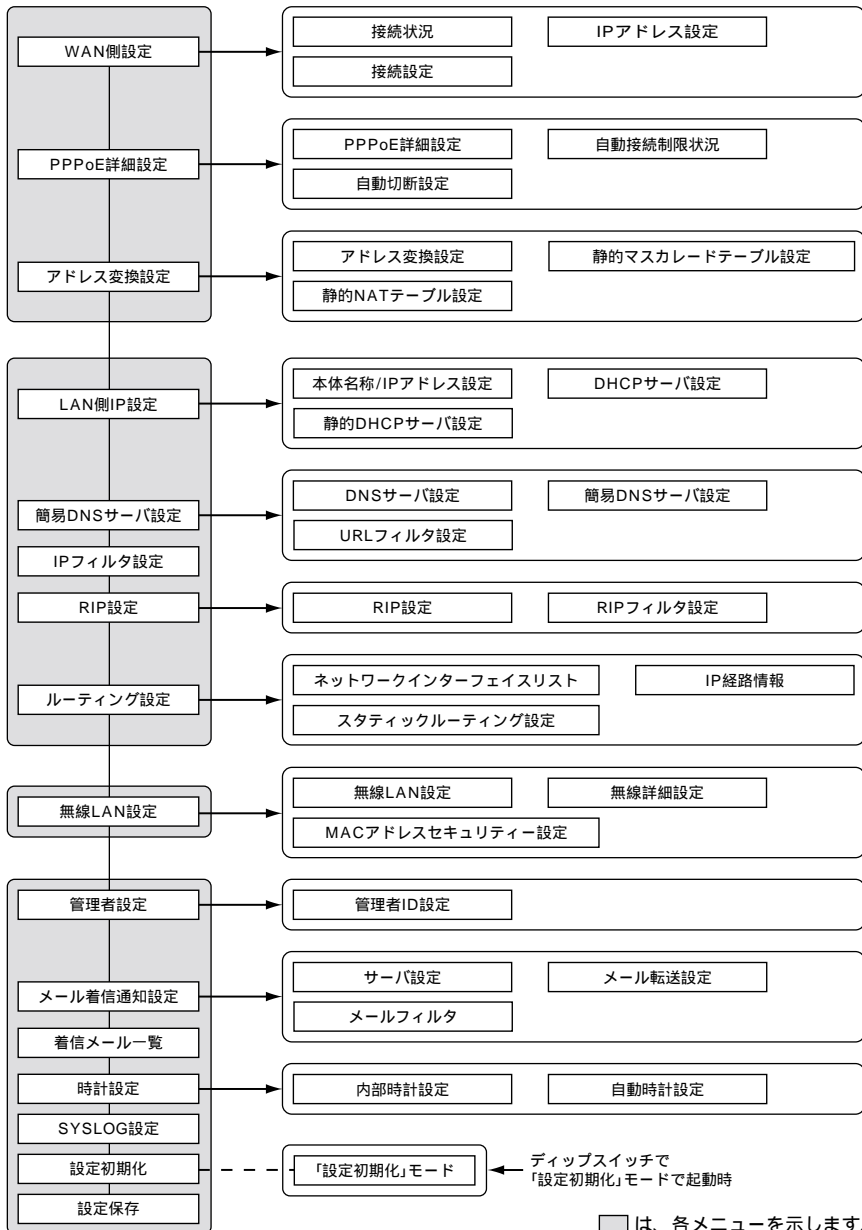
この章では、
設定画面の構成、設定項目の初期値、定格について説明しています。

9-1.設定画面の構成について	102
9-2.設定項目の初期値一覧	103
9-3.機能一覧	104
9-4.各種ポート仕様	104
9-5.定格	105
9-6.用語解説	107

9 ご参考に

9-1 設定画面の構成について

WWWブラウザに表示される本製品の設定画面の構成について説明しています。
各画面の詳しい説明については、WWWブラウザ上の ? をクリックしてください。



9-2 設定項目の初期値一覧

本製品のWWWブラウザの設定画面について、設定項目の初期値を示します。

[WAN側設定]メニュー

IPアドレス設定

- IPアドレス：PPPoE

[PPPoE詳細設定]メニュー

PPPoE詳細設定

- 自動接続：しない
- 接続回数による制限：0回/日
- 通算接続時間による制限：0分
- 接続可能な時間帯：00：00～00：00
- 終了時刻で強制切断：しない

自動切断設定

- 自動切断：する
- タイマ：10分

[アドレス変換設定]メニュー

アドレス変換設定

- アドレス変換：する

[LAN側IP設定]メニュー

本体名称/IPアドレス設定

- 本体名称：SR-11FB
- IPアドレス：192.168.0.1
- サブネットマスク：255.255.255.0

DHCPサーバ設定

- DHCPサーバ機能を使用：する
- 割り当て開始IPアドレス：192.168.0.10
- 割り当て個数：30個
- サブネットマスク：255.255.255.0
- リース期間：3日

[簡易DNSサーバ設定]メニュー

DNSサーバ設定

- DNSサーバの代理応答：する

[IPフィルタ設定]メニュー

- 61番(本体への不正パケット防止)
- 62番(プライベートIPアドレスへの不正パケット防止)
- 63、64番(Windowsが行う定期的な通信によって起こる「意図しない自動接続」を防止)

[RIP設定]メニュー

RIP設定

- LAN側にRIPを使用：する
- WAN側にRIPを使用：しない

[無線LAN設定]メニュー

無線LAN設定

- ESS ID：* *(半角大文字LG)
- ESS IDの確認入力：* *(半角大文字LG)

無線詳細設定

- チャンネル：14
- Rts/Ctsスレッシュホールド：無し
- セキュリティレベル：なし
- MACアドレスセキュリティ設定
- MACアドレスセキュリティを使用：しない

[メール着信通知設定]メニュー

サーバ設定

- メール着信通知機能を使用：しない
- 確認時刻(時：分)/間隔(分)：00：00

メール転送設定

- メール転送機能を使用：しない

[時計設定]メニュー

自動時計設定

- 自動時計設定を使用：する
- NTPサーバ1 IPアドレス：133.100.9.2
- アクセス時間間隔：1日

[SYSLOG設定]メニュー

SYSLOG設定

- DEBUGを使用：する
- INFOを使用：する
- NOTICEを使用：しない
- ファシリティ：1

9 ご参考に

9-3 機能一覧

無線LAN機能

- アクセスポイント機能
- ローミング機能
- MACアドレスセキュリティー
- WEP(Wired Equivalent Privacy)
- ESS ID(Extended Service Set Identifier)

ルータ機能

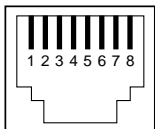
- 自動接続/自動切断機能(PPPoE方式)
- 各種接続制限機能
- PPPoE、DHCP接続方式に対応
- ルーティングプロトコル
 - TCP/IP(RIP スタティック)
- セレクトルーティング機能
- スタティックルーティング機能
- IPフィルター機能
- RIP機能
- セキュリティー(PAP、CHAP)
- 静的IPマスカレード
- NAT/IPマスカレード
- DNS代理応答機能
- DHCPクライアント機能(WAN側)
- DHCPサーバ機能(LAN側)
- DHCPスタティック機能
- 簡易DNSサーバ機能
- SYSLOG
- RADIUS
- メール着信通知機能
- 内部時計自動設定

その他

- WWWメンテナンス
- ファームウェアの更新
- TELNETメンテナンス
- プリンターサーバ機能
- 4ポートスイッチングHUB

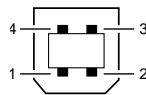
9-4 各種ポート仕様

[LAN/WAN]ポート(RJ-45型)



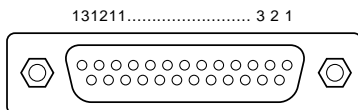
- 1.送信(+)
- 2.送信(-)
- 3.受信(+)
- 4.未使用
- 5.未使用
- 6.受信(-)
- 7.未使用
- 8.未使用

[USB]ポート(B-TYPE)



- 1.VCC
2. - Data
3. + Data
- 4.Ground


[PRINTER]ポート(D-Sub25)




- 1.データ取り込み同期信号
- 2.送信データ・ビット0
- 3.送信データ・ビット1
- 4.送信データ・ビット2
- 5.送信データ・ビット3
- 6.送信データ・ビット4
- 7.送信データ・ビット5
- 8.送信データ・ビット6
- 9.送信データ・ビット7
- 10.データ取り込み完了
- 11.プリンターが受信不能
- 12.ペーパー・エンド
- 13.プリンターの選択状態
- 14.印刷後自動改行
- 15.プリンター・エラー
- 16.プリンター初期化
- 17.プリンター選択
18. ~ 25.Ground

9-5 定格

一般仕様

- 入力電圧 : DC7.5V標準(DC7.125 ~ 7.825V)
ACアダプター(付属品)は、AC100V \pm 5%
- 消費電流 : 1.2A(最大)
- 接地方式 : マイナス接地
- 使用環境 : 温度0 ~ +40、湿度5 ~ 95%(結露状態を除く)
- 外形寸法 : 52.0(W)×155.0(H)×144.4(D)mm
(突起物、スタンドを除く)
- 重量 : 約0.5kg(付属品を除く)
- 適合規格 : クラスA情報技術装置(VCCI) JATE
- 電取認可番号 :  91-55188[ACアダプター(付属品)]

有線部

- WANインターフェイス : [WAN]部 : [Ethernet]ポート(RJ-45型)×1
IEEE802.3/10BASE-T準拠
- LANインターフェイス : [LAN]部 : [Ethernet]ポート(RJ-45型)×4
極性反転スイッチ有り
IEEE802.3/10BASE-T準拠
IEEE802.3u/100BASE-TX準拠
[USB]部 : [USB]ポート(アップストリーム型)×1
- アナログインターフェイス : [パラレル]ポート(D-Sub25pin)×1
- ユーザインターフェイス : 状態表示ランプ(PWR、MSG、PRN、WAN、LAN、)、[HUB/PC]スイッチ、MODE ボタン、RESET ボタン
- 適用回線 : CATV、xDSL、ローカル
- 通信速度 : [WAN]部 : 10Mbps(全二重)
[LAN]部 : 10/100Mbps(自動切り替え/半二重)
[USB]部 : 12Mbps(最大)

定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。

9 ご参考に

9-5 定格(つづき)

無線部

- 国際規格 : IEEE802.11/IEEE802.11b準拠
- 国内規格 : ARIB STD-33/ARIB STD-T66
- 通信方式 : 単信方式
- 電波方式 : 直接スペクトラム拡散
- 変調方式 : DPSK、DQPSK、(バーガー/CCK符号)
- 使用周波数範囲 : 2400 ~ 2497MHz
- チャンネル数 : 1ch ~ 14ch
- 通信速度 : 11Mbps(最大)
- 伝送距離 : 屋内約50m、屋外約150m(見通し)
11Mbps通信時
屋内約30m、屋外約70m(見通し)
- セキュリティ : WEP(Wired Equivalent Privacy)
ESS ID(Extended Service Set Identifier)
- 内蔵アンテナ : ダイバーシティ対応スロットアンテナ
- 送信出力 : 10mW/MHz以下
- 受信感度 : -70dBm以下(フレームエラーレート = 8%)[11Mbps]
-80dBm以下(フレームエラーレート = 8%)[2Mbps]
- 復調方式 : デジタル復調(マッチドフィルタ方式)
- 対応機種 : PC/AT互換機(DOS/V)
- 対応OS : Windows 98、Windows 98 Second Edition、
Windows Millennium Edition、Windows 2000

対応無線LANカードについて

本製品と無線で通信を行うパソコンの無線LAN製品は、弊社指定のもの(SL-1100、SL-1105、SL-11、SU-11、SL-110)をご使用ください。(2001年8月現在)

定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。
伝送距離は、通信速度や環境によって異なります。

9-6 用語解説

ADSL(Asymmetric Digital Subscriber Line)

加入者電話回線を使って数Mbps～数十Mbpsのデジタル伝送を行う通信方式です。

基本的に常時接続で、データの送信と受信で通信速度が違い受信側が高速となっている。

ADSLでは従来の音声通話とは違った周波数を用いるため電話局の交換機を使用できず、電話局側にもADSLモデムを設置する必要がある。

ADSLモデム

パソコンやルータをADSL回線に接続するために使用する通信機器。本機とはEthernetケーブルで接続します。

CATV(Cable Television)

電波ではなく銅線などの物理的な線を使用したテレビ放送を家庭に配信する仕組み。

電波よりもチャンネル数が多いため、通常のテレビ放送以外にCATV会社が番組を独自に配信したり、衛星放送を配信していることもある。

この放送用のチャンネルを使用してインターネット接続サービスを行うCATVの会社があり、このサービスをCATVインターネットサービスという。

DHCPサーバ

DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)は、TCP/IPというネットワーク上で、クライアントがサーバから必要な情報を自動的に取得するプロトコルです。

DHCPサーバは、ネットワーク情報として、“IPアドレス”、“デフォルトゲートウェイ”、“ドメイン名”などを管理しています。

DHCPサーバ機能を持つ本製品は、DHCPクライアント(パソコン)が起動すると、IPアドレスやデフォルトゲートウェイ、DNSアドレスなどを割り振ります。

DMZ(De-Militarized Zone)

プライベートネットワーク内で、ファイアウォールで外部ネットワークからも内部ネットワークからも隔離された領域。

DNS(Domain Name System)

TCP/IPネットワークにおける名前解決サービスのことで。

DNSにしたがって、ドメインネームサーバにコンピューター名やドメイン名を登録して、ドメインネームサービスを提供しています。

ドメインネームサービスを利用すると、IPアドレスなどの数字ではなく、分かりやすいドメイン名やホスト名で、目的のサイトを指定できます。

ESS-ID(Extended Service Set-Identifier)

無線LANで、複数のネットワークグループを通信可能なエリア内に形成するときの識別用の名前です。本製品と通信する無線ネットワークグループは、無線端末を本製品と同じ識別名に設定します。

ETHERNET

ゼロックス社、DEC社、インテル社によって開発されたLANの通信方式です。使用するケーブルによって、10BASE-T、100BASE-TX、10BASE-5、10BASE-2などのタイプがあります。

FTP(File Transfer Protocol)

ネットワーク上のクライアントとホストコンピューターとの間で、ファイルの転送を行なうためのプロトコルです。

HTML(Hyper Text Markup Language)

WWWサーバでのドキュメントを記述するための言語で、通常文書の中にタグを埋め込んでいく方式で作成されます。

WWWページを記述する言語として利用されています。

HTTP(Hyper Text Transfer Protocol)

HTMLの転送に使うプロトコルです。WWWブラウザでURLを入力すると、HTTPを使ってWWWサーバからパソコンのWWWブラウザへHTML文書が転送されます。転送された文書は、WWWブラウザによって解釈して画面に表示されます。

HUB

ハブを参照

Internet Explorer

WindowsやMac OSに標準で付属しているブラウザソフトのことです。

9 ご参考に

9-6 用語解説(つづき)

IP

インターネットで使われるプロトコルです。IPを中心にして、その上位にはアプリケーション寄りのプロトコルがあり、下位には通信回線寄りのプロトコルが積層されることでインターネットを形成しています。

IP Masquerade

LAN側で使用しているプライベートIPアドレスをWAN側で使用しているグローバルIPアドレスに、[複数：1]で変換する機能です。

IP(Internet Protocol)アドレス

TCP/IPプロトコルを使用して、構築されたネットワークにおいて、接続しているすべての機器を区別するために付ける32ビットのアドレスです。

通常は、8ビットずつ4つに区切って、10進数の数字列で表されます。(例：192.168.0.1) また、プライベートIPアドレスは、ネットワークの管理者が独自に設定するIPアドレスです。アドレス管理機関やプロバイダーに、申請を行う必要はありませんが、以下の規則したがって割り振らなければなりません。

外部のネットワークと接続する場合にはアドレス変換を行い、グローバルIPアドレスに変換する必要があります。

次のIPアドレスをプライベートIPアドレスとして、自由に使用できます。

クラスA：10.0.0.0～10.255.255.225

クラスB：172.16.0.0～172.31.255.225

クラスC：192.168.0.0～

192.168.255.225

IPCP(Internet Protocol Control Protocol)

PPPはLCP(Link Control Protocol)とNCP(Network Control Protocol)の二つの部分から構成されています。NCPはLCPに続くデータ通信の次段階(IPなど)の準備を行います。

IPのためのNCPがIPCPです。PPPのNCPフェーズにおいて、IP(Internet Protocol)のリンクを確立するためのプロトコルです。

ISP(Internet Service Provider)

プロバイダーを参照

LAN(Local Area Network)

同一フロアや敷地内の比較的小さな規模のネットワークのことです。

MACアドレス

(Media Access Control Address)

個々の有線または無線LANカードに設定されている物理アドレスです。

このアドレスは、LANカードの製造メーカーが世界中で重複しない独自の番号で管理しています。Ethernetや無線LANカードでは、このアドレスを元にしてフレームの送受信をしています。

NAT(Network Address Translator)

LAN側で使用しているプライベートIPアドレスをWAN側で使用しているグローバルIPアドレスに1対1で変換する機能です。

PPP(Point to Point Protocol)

WANにおいて端末が1対1で通信を行うためのプロトコルです。

PPPoE(PPP over Ethernet)

PPPフレームを直接Ethernet上にマッピングして転送するプロトコルです。

RIP(Routing Information Protocol)

ルータ間で、経路情報を交換するTCP/IPネットワークで使用されるプロトコルです。

この情報をもとに、ルータはパケットを正しい相手に送出します。

SYSLOG

システムメッセージをネットワーク上に出力する機能です。

この機能に対応していると、UNIXなどのSYSLOGサーバによって、ログ情報を管理できます。

TCP/IP

Windows 98、Windows 2000など、主要なOSでサポートする現在最も普及したインターネットの基本プロトコルです。

SMTP、FTPなどは、このプロトコルを利用しています。

Open Transportを搭載したMacintoshには、TCP/IPコントロールパネルが標準で搭載されています。

TELNET

ほかのパソコンを遠隔操作するためのプロトコルです。本製品もTELNETにより遠隔操作が行えます。

URL(Uniform Resource Locator)

インターネット上のホームページなどにアクセスするために指定します。

弊社URLは、<http://www.icom.co.jp/>です。

USB(Universal Serial Bus)

高速シリアルインターフェイスです。

ホットプラグに対応していますので、パソコンを使用中の接続や取り外しができます。

転送速度は、最大12Mbit/sをサポートしています。

WAN(Wide Area Network)

LANどうしを一般電話回線、ADSL、CATVなどで結ぶことのできる比較的大規模なネットワークです。

WEP(Wired Equivalent Privacy)

無線LANの通信を暗号化して送受信する機能です。

無線LAN通信の盗聴を防止できます。

本製品は、64/128ビット暗号化に対応しています。

WWWブラウザ

WWWホームページを閲覧したり、WWWサーバを検索に使うアプリケーションです。

アプリケーションには、「Internet Explorer」や「Netscape Navigator」があります。

10BASE-T

Ethernetの規格の1つで、ツイストペアケーブルを用いた、10Mbit/sの速度をもつものです。本製品の[Ethernet]ポートは、この規格に対応しています。

100BASE-TX

Ethernetの規格の1つで、カテゴリ5のツイストペアケーブルを用いた100Mbit/sの速度をもつものです。

本製品のLAN側の[Ethernet]ポートは、この規格に対応しています。

アクセスポイント

プロバイダー経由でインターネットを利用するとき、その拠点の総称です。

イーサネット

ETHERNETを参照

インターネット

世界中のパソコンをIPを使って接続したネットワークの総称です。

クライアント

ネットワークにおいて、サーバに対し情報の提供などのサービスを要求し、その返答を受ける端末またはアプリケーションの総称です。

グローバルIPアドレス

インターネット上のどの機器とも重複するものがない世界で唯一のアドレスです。

サブネットマスク

1つのIPアドレスをネットワークアドレスとホストアドレスに区別するために使用します。

あるホストのIPアドレスが「192.168.0.1」、サブネットマスクが「255.255.255.0」とすると、IPアドレスとサブネットマスクを2進数にして掛け合わせると、ネットワークアドレス「192.168.0.0」となり、のこり「1」がホストアドレスになります。

ドメイン名

IPアドレスの状態では人間には理解しにくいので、IPアドレスの所属グループをドメインとしてドメイン名が割り当てられます。

例)icom@bbb.co.jpという電子メールアドレスの場合、bbb.co.jpがドメイン名です。

トラフィック

ネットワーク上のパケットの流れやネットワークの回線にかかる負荷(データ量)のことです。

トラフィックが大きくなると、データ転送の遅れやデータ欠落が起こる可能性があります。

認証

インターネットなどを利用して、ネットワークにアクセスしてくるユーザーが、パスワードとユーザーIDを入力して、アクセスの権利があるかどうかを確認することです。

ネットワーク

データなどを転送するために、サーバ、ワークステーション、パソコンなどの機器が、ケーブルやADSL回線を介して、通信網と接続された状態をいいます。

9 ご参考に

9-6 用語解説(つづき)

バケット

データが送受信される際の単位です。送受信に必要な情報を持つヘッダ部と、送りたいデータそのものであるデータ部から構成されています。

パスワード

ネットワークセキュリティ上、ユーザーがネットワークにアクセスするために入力する鍵となる文字列で、パスワードを設定すると、ユーザーがあらかじめ設定された文字列を正しく入力したとき、アクセスが可能になります。

ハブ(HUB)

本製品などを使用して、ネットワークを構築するときに必要になる装置です。

10BASE-Tまたは100BASE-TXケーブルを使って本製品と接続します。

100Mbpsで通信をするときは、カテゴリ5のツイストペアケーブルを使用すると同時に、HUBも100BASE-TXに対応している必要があります。

フラッシュメモリー

本製品が持つ書き込みが可能な記憶装置です。ここに貯えられた情報は電源を切っても消えないで保存されます。

ブラウザ

WWWサーバからHTML文書を手して、表示する機能を持ったアプリケーションです。

本製品では、代表的なInternet Explorerを使って説明しています。

プロトコル

通信で、データの送受信を行うときにしたがうべき手順を定義したものを。

ブロードキャスト

同一ネットワーク内のすべてのハードウェアへバケットを一斉に送信(同報通信)することです。

プロバイダー

インターネットサービスプロバイダー(ISP)の略で、インターネットへの接続サービスを提供する業者のことです。

ポート番号

TCPやUDPでアプリケーションを識別するための番号です。例えば、WWWは、TCPの80番、メールは、TCPの25番というように決められています。

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211



Wireless Broadband Router
SR-11FB

本製品の設定項目など、取扱説明書に記載のない内容について説明しています。
本書と併せてご覧ください。

第1章	WAN側設定	3
第2章	PPPoE詳細設定	7
第3章	アドレス変換設定	11
第4章	LAN側IP設定	15
第5章	簡易DNSサーバ設定	19
第6章	IPフィルタ設定	23
第7章	RIP設定	29
第8章	ルーティング設定	31
第9章	無線LAN設定	35
第10章	管理者設定	43
第11章	メール着信通知設定	45
第12章	着信メール一覧	49
第13章	時計設定	51
第14章	SYSLOG設定	53
第15章	設定初期化	55
第16章	設定保存	57
第17章	IP Name	59

はじめに

本書は、本製品の各設定項目についての詳細説明を中心として、付属CD-ROMに収められた[取扱説明書](PDF形式)に記載のない内容について説明しています。

本製品をお使いになるときには、PDF形式の[取扱説明書]の内容と併せてご覧ください。

本書の説明に使用する設定画面は、お使いのディスプレイによって本製品の設定画面の色合いとは、異なることがあります。

表記について

補足説明書は、次の規則にしたがって表記しています。

「 」表記.....本製品の設定画面名称やその画面にある各項目の設定値などを(「 」)で囲んで表記します。

[]表記.....本製品の設定メニューや設定項目の名称などを([])で囲んで表記します。

表記.....本製品の設定画面にあるコマンドボタンの名称を()で囲んで表記します。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、iCOMロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。

Netscape Navigatorは、Netscape Communications Corporationの商標です。

Adobe、Acrobatは、アドビシステムズ社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。



補足説明書



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第1章 WAN側設定

WAN側への回線接続設定、[PPPoE]方式での手動接続および手動切断について設定します。

1-1	接続状況	4
1-2	IPアドレス設定	5
1-3	接続設定	5

1 WAN側設定

1-1.接続状況

登録された回線への接続状況を表示します。

接続状況		
未接続	①	接続 切断
接続設定	②	PPPoE
DNSサーバ	③	-
本体側のIPアドレス	④	-
相手先のIPアドレス	⑤	-
接続時間	⑥	- 時間 - 分 - 秒

- ① 接続/切断 ボタン 本製品に登録した相手先への手動接続および手動切断を行うボタンです。そのときの接続状況を左側に表示します。
相手先への接続方式が[DHCP]の場合は、接続する相手先からIPアドレスを手動で解放するときだけ使用します。
- ②接続設定 「PPPoE」と表示する場合
WAN側の接続に[PPPoE]を使用していることを意味します。
「DHCP」と表示する場合
WAN側の接続に[DHCP]クライアントを使用していることを意味します。
- ③DNSサーバ 契約するプロバイダーのDNSサーバIPアドレスが表示されます。
- ④本体側のIPアドレス 本製品のWAN側に設定されたIPアドレスを表示します。
- ⑤相手先のIPアドレス 接続している相手先のIPアドレスを表示します。
- ⑥接続時間 回線に接続を開始してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。最新の接続時間を表示させるときは、WWWブラウザの 更新 ボタンをクリックします。

1-2.IPアドレス設定

ご契約のプロバイダへの接続方法を選択します。

IPアドレス設定	
IPアドレス ①	PPPoE ▼
サブネットマスク ②	<input type="text"/>
デフォルトゲートウェイ ③	<input type="text"/>
プライマリDNSサーバ ④	<input type="text"/>
セカンダリDNSサーバ ⑤	<input type="text"/>

固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します

- ①IPアドレス 「PPPoE」：WAN側のIPアドレスを[PPPoE]で取得します。
「DHCP」：WAN側のIPアドレスを[DHCP]クライアントで取得します。
テキストボックスには、ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたとき、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。
- ②サブネットマスク ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたとき、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。
- ③デフォルトゲートウェイ ... ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたとき、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。
- ④プライマリDNSサーバ プロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。
(入力例：123.114.101.34)
- ⑤セカンダリDNSサーバ プロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。

1-3.接続設定

ご契約のプロバイダから指定されたときだけ入力します。

接続設定	
ユーザID ①	<input type="text"/>
パスワード ②	<input type="text"/>

- ①ユーザID プロバイダーから指定されたログインユーザー名またはアカウント名を大文字/小文字表記に注意して、入力します。
- ②パスワード プロバイダーから指定されたログインパスワードを大文字/小文字表記に注意して、入力します。



補足説明書



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第2章 PPPoE詳細設定

[PPPoE]方式での自動接続および自動切断について設定
します。

2-1	PPPoE詳細設定	8
2-2	自動接続制限状況	9
2-3	自動切断設定	9

2 PPPoE詳細設定

2-1.PPPoE詳細設定

自動接続とその詳細設定を行います。

PPPoE詳細設定		
自動接続	①	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
接続回数による制限	②	0 回 / 日
通算接続時間による制限	③	0 分
接続可能な時間帯	④	00 : 00 ~ 00 : 00
終了時刻で強制切断	⑤	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

- ①自動接続 ネットワーク上のパソコンから、インターネットへのアクセス操作をすると、自動で回線を接続するかどうかを選択します。「する」を設定した場合、パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的にADSL回線に接続します。
- ②接続回数による制限 一定期間当たりの自動接続の回数を制限できます。積算された接続回数が制限を超えると、自動接続できなくなります。0(回数制限なし)回～65535回まで入力できます。積算の期間は、「日」「週」「月」の中から選択できます。積算期間を過ぎた時点で、設定した積算回数に対する制限は自動的に再始動します。
- ③通算接続時間による制限 ... 期間を制限せず、自動接続の時間を制限できます。0(時間制限なし)分～65535分まで入力できます。回線接続中に制限時間を経過した場合であっても、回線は強制切断されません。
- ④接続可能な時間帯 自動接続を可能とする時間帯を、24時間制で設定します。開始時刻より終了時刻が早い時間の場合、終了時刻は次の日の時刻となります。
- ⑤終了時刻で強制切断 接続可能な時間帯を超えると、通信中でも強制的に自動切断するかどうかを選択します。

2-2.自動接続制限状況

制限事項に対する現在の状況を表示します。

自動接続制限状況		リセット ①
回数制限(回数/リセット時刻)	②	0回 / 2001/01/01 00:00
時間制限(通算接続時間)	③	0分

- ① リセット ボタン 制限状況表示を出荷時の状態「0」に戻して、そのときの時刻を[リセット時刻]として表示します。
本製品の時計が最初に設定されていないときは、操作をしてもリセット時刻が表示されません。

- ②回数制限
(回数/リセット時刻) 表示された日時以降の自動接続回数を表示します。

- ③時間制限(通算接続時間) ... [リセット時刻]欄に表示された日時以降に自動接続した通信時間(分)を表示します。

2-3.自動切断設定

自動切断についての設定を行います。

自動切断設定	
自動切断	① <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
タイマ	② 10 分

- ①自動切断 接続中の回線を自動で切断するか、接続状況欄の 切断 ボタンをクリックするまで、切断しないかを選択します。
自動切断を「する」に設定すると、10分(出荷時の設定)以上、回線上で通信がなかったときは、自動的に切断されます。

- ②タイマ 自動切断を「する」に設定時、回線に流れるデータの無い状態が続いた時点から、自動切断されるまでの時間を設定します。



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第3章 アドレス変換設定

グローバルアドレスとプライベートアドレス変換やポート番号の変換について設定します。

3-1	アドレス変換設定	12
3-2	静的マスカレードテーブル設定	12
3-3	静的NATテーブル設定	13

3 アドレス変換設定

3-1.アドレス変換設定

アドレス変換とそのIPアドレスを設定します。

アドレス変換設定	
アドレス変換	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する ①
マスカレードIPアドレス	<input type="text"/> ② 本体WAN側IPを使用する場合は記載不要です。
DMZホストIPアドレス	<input type="text"/> ③

- ①アドレス変換 NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかしないかを選択します。
- ②マスカレードIPアドレス ... IPマスカレードでWAN側に使用するグローバルIPアドレスを指定するときに入力します。
プロバイダーから自動で取得したIPアドレスをマスカレードIPアドレスとして使用する場合は、入力の必要はありません。
- ③DMZホストIPアドレス 静的マスカレードの設定から漏れたパケットが届くホストのIPアドレスを指定するときに入力します。

3-2.静的マスカレードテーブル設定

IPマスカレード変換を静的に行う設定です。

静的マスカレードテーブル設定					
登録の追加					
ローカルIP	プロトコル	ポート	開始ポート	終了ポート	
<input type="text"/>	TCP	指定	<input type="text"/>	<input type="text"/>	追加
現在の登録					
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート		

- 静的マスカレードとは WANを起点としたパケットに対して、そのパケットのポート番号からローカルホストを特定します。
マスカレードIP(アクセスポイントのグローバルIP)に対して、WANを起点としてアクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。
本機は、最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。
ローカルIP：プライベートIPアドレスを入力します。
プロトコル：TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
ポート：「開始ポート」、「終了ポート」に番号を入力するときは、「指定」を選択します。番号で指定しないときは、表示されるアプリケーション名から選択します。
開始ポート：選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
終了ポート：選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。
入力後は、「追加」をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認して、「登録」をクリックしてください。

3-3.静的NATテーブル設定

グローバルとプライベートのIPアドレス変換を行う設定です。

静的NATテーブル設定			
登録の追加			
グローバルIP	-	ローカルIP	
<input type="text"/>	-	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録			
グローバルIP	-	ローカルIP	

静的NATテーブル設定

プロバイダーとの契約などで、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。

本機では、最大32個のNATテーブルを設定できます。

グローバルIP：指定されたグローバルIPアドレスを入力します。

ローカルIP：任意のプライベートIPアドレスを入力します。

入力後は、追加 をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認して、登録 をクリックしてください。



補足説明書



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第4章 LAN側IP設定

本製品のLAN側への接続について設定します。

4-1	本体名称/IPアドレス設定	16
4-2	DHCPサーバ設定	17
4-3	静的DHCPサーバ設定	18

4 LAN側IP設定

4-1.本体名称/IPアドレス設定

本製品の名称とそのアドレスを設定します。

本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	① SR-11FB
IPアドレス	② 192.168.0.1
サブネットマスク	③ 255.255.255.0

- ①本体名称 ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。
設定した名前は、ネットワーク上の有線または無線で接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使えます。 (出荷時の設定：SR-11FB)
入力形式：[http://web.本体名称/]
この場合、[簡易DNSサーバ設定]の「DNSサーバの代理応答」を「する」(出荷時の設定)に設定しておく必要があります。また、ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A～Z、0～9、-)、31文字以内で設定します。
全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNSサーバの代理応答機能は利用できません。
- ②IPアドレス 本製品のIPアドレスを入力します。
(出荷時の設定：192.168.0.1)
本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークIPアドレスに変更してください。
DHCPサーバ機能による自動割り当てIPアドレスの設定についてもネットワーク部を同じに設定してください。
- ③サブネットマスク 本製品のサブネットマスクを設定します。
(出荷時の設定：255.255.255.0)
LAN側のIPアドレスに対するサブネットマスクです。
本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。

4-2.DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能についての設定です。

DHCPサーバ設定		
DHCPサーバ機能を使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	①
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10	②
割り当て個数	30 個	③
サブネットマスク	255.255.255.0	④
リース期間	31 日	⑤
ドメイン名		⑥
プライマリDNSサーバ		⑦
セカンダリDNSサーバ		⑧
プライマリWINSサーバ		⑨
セカンダリWINSサーバ		⑩

⑦⑧ DNSサーバの代理応答機能を有効する場合は無効となります。

- ①DHCPサーバ機能を使用 ... 本製品をDHCPサーバとして使用するかしないかを設定します。本製品に有線および無線で直接接続しているパソコンのTCP/IP設定を、「IPアドレスを自動的に取得する」と設定している場合、本製品のDHCPクライアントになります。この機能によって、自動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。
- ②割り当て開始IPアドレス ... 本製品に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。
- ③割り当て個数 上記[割り当て開始IPアドレス]に設定されたIPアドレスから連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数は、5～128(無線LANやUSB接続のパソコンを含む)までです。出荷時の[割り当て開始IPアドレス]と[サブネットマスク]の設定値の場合、理論上割り当て可能なIPアドレスの個数は最大254個ですが、128個を超える分については、手動でクライアントに割り当ててください。
- ④サブネットマスク 上記[割り当て開始IPアドレス]に対するサブネットマスクです。
- ⑤リース期間 DHCPサーバが自動でローカルIPアドレスを定期的に、クライアントに割り当てなおす期限を日数で指定します。
- ⑥ドメイン名 Ethernetでドメイン名を使用しているときなど必要があれば、DHCPサーバがクライアントに通知するネットワークアドレスのドメイン名を入力します。

4 LAN側IP設定

4-2.DHCPサーバ設定(つづき)

DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能を使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する ①
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10 ②
割り当て個数	30 個 ③
サブネットマスク	255.255.255.0 ④
リース期間	31 日 ⑤
ドメイン名	⑥
プライマリDNSサーバ	⑦ DNSサーバの代理応答機能を ⑧ 併用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ	
プライマリWINSサーバ	⑨
セカンダリWINSサーバ	⑩

- ⑦プライマリDNSサーバ 「DHCPサーバ機能を使用」を「する」に設定し、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先するどちらか一方を入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
- ⑧セカンダリDNSサーバ 上記「プライマリDNSサーバ」と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。
- ⑨プライマリWINSサーバ ... Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。WINSサーバのアドレスが2つある場合は、どちらか一方を入力します。
- ⑩セカンダリWINSサーバ ... 上記「プライマリWINSサーバ」と同様、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

4-3.静的DHCPサーバ設定

特定のパソコンに割り当てるIPアドレスを固定するときの設定です。

静的DHCPサーバ設定	
登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/> <input type="button" value="追加"/>
現在の登録	
MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>

- 静的DHCPサーバ設定 DHCPサーバ機能を使用して自動的に割り当てるIPアドレスを、特定のパソコンに固定するとき、パソコンのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。
入力後は、追加 をクリックしてください。
この欄には、最大16個の組み合わせまで登録できます。
登録するパソコンのIPアドレスは、DHCPサーバ機能で割り当てることができる範囲外のアドレスを指定してください。



補足説明書



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第5章 簡易DNSサーバ設定

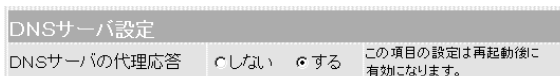
本製品のDNSサーバ、簡易DNSサーバについて設定します。

5-1	DNSサーバ設定	20
5-2	簡易DNSサーバ設定	20
5-3	URLフィルタ設定	21

5 簡易DNSサーバ設定

5-1.DNSサーバ設定

DNSサーバの代理応答についての設定です。



DNSサーバの代理応答

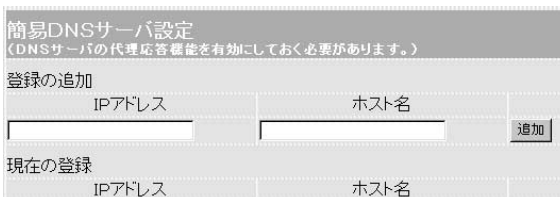
本製品を代理DNSサーバとして代理応答するかしないかの設定です。

代理DNS機能とは、プロバイダー側のDNSサーバアドレスを検出したり、パソコンからのDNS要求をDNSサーバへ転送したりする機能です。

代理DNS機能を利用すると、有線または無線ネットワーク上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定すると異なるプロバイダーに接続するときでもDNSサーバのアドレスを変更する必要がありませんので便利です。

5-2.簡易DNSサーバ設定

パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組み合わせの登録を登録します。



簡易DNSサーバ設定

代理DNSサーバ機能を使うとき、本製品を簡易DNSサーバとして使用できます。

簡易DNSサーバを使用する場合、パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。

簡易DNSサーバ機能を使用すると、UDP/53によるドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応じます。

ホスト名として「ホスト名.ドメイン名」を登録しておく、ホスト名のみ一致する場合でも応答が返されます。

入力後は、追加 ボタンをクリックしてください。

ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静的DHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。

5-3.URLフィルタ設定

特定Webの閲覧を制限するときなどに登録を行います。

URLフィルタ設定			
登録の追加			
相手先URL	発信元IP	動作	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	破棄する	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録			
相手先URL	発信元IP	動作	
<input type="text"/>	<input type="text"/>		

URLフィルタ

この画面に登録されたURL情報や発信元のIPアドレスをもとに、特定の発信先からのデータを遮断します。

[相手先URL]の欄には、ワイルドカードとして、「?」「*」が使用できます。また、「?」は任意の1文字、「*」は任意の文字列として認識されます。たとえば、「*.icom.co.jp」を指定したときは、「www.icom.co.jp」や「mail.icom.co.jp」へのデータが遮断されま

す。
この機能を利用するときは、本製品のDNS代理応答機能を併用してください。



補足説明書



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第6章 IPフィルタ設定

送信元パケットや送信先パケットの通過、遮断について設定します。

6-1 IPフィルタ設定	24
6-2 IPフィルタ登録状況	27

6 IPフィルタ設定

6-1.IPフィルタ設定

特定条件を満たす内部または外部からのパケットを通過させたり、通過を阻止させるフィルターの設定です。

- ① 追加 ボタン この画面で作成、または編集した内容をフィルタとして追加するボタンです。
- ②番号 最大64件のフィルターを本機に登録できます。
フィルターを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに、登録されたフィルターと比較します。
この項目では、フィルターを比較する順位を指定します。フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。
フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。
編集 ボタン
設定済みのフィルターを編集するボタンです。
登録された中から編集するフィルター番号を入力して、編集 ボタンをクリックします。
- ③フィルタ方向 パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルターの対象となる方向を設定します。
以下の中から選択してください。
- OUT : 本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
フィルタリング処理は、アドレス変換の前に行います。
 - IN : WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
フィルタリング処理は、アドレス変換のあとに行います。
 - BOTH : 本製品がWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。

- ④フィルタ方法 フィルタリングの方法として、以下の3通りがあります。
以下の中から選択してください。
- 遮断：回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
 - 透過：回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。
 - 透過(接続中)：回線がすでに接続されている状態で、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットを通過させますが、回線が接続されていない場合には、そのパケットを破棄します。このように、パケットの送信をきっかけに自動発呼することを防止するときに設定してください。
- ⑤プロトコル フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。
- ALL：すべてのプロトコルの条件に一致します。
 - TCP：TCPプロトコルの条件だけに一致します。
 - TCP_FIN：TCP_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
 - TCP_EST：TCP_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
 - UDP：UDPプロトコルの条件だけに一致します。
 - ICMP：ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
 - その他：右のテキストボックスに、IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。プロトコル番号は、10進数で0～255までの半角数字を入力してください。
- ⑥ポート番号 フィルタリングの対象となるTCP/UDPポート番号を入力する項目です。
- 印をクリックし、対象となるポートが「宛先」、「発信元」、もしくは「宛先/発信元」なのかを指定して、番号を始点から終点まで連続で入力します。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけまたは、始点/終点に同一の番号を入力してください。
- 入力できるポート番号は、10進数で1～65535までの半角数字です。なお、「宛先/発信元」を選択した場合は、宛先、発信元のどちらかが一方が一致すると、フィルタリングの対象とします。

6 IPフィルタ設定

6-1.IPフィルタ設定(つづき)

IPフィルタ設定① 追加

番号 ② 編集

フィルタ方向 ③ OUT

フィルタ方法 ④ 遮断

プロトコル ⑤ ALL その他選択時

ポート番号 ⑥ 宛先 ~

発信元IPアドレス ⑦

始点IPアドレス	始点サブネットマスク
<input type="text"/>	255.255.255.255
終点IPアドレス	終点サブネットマスク
<input type="text"/>	255.255.255.255

宛先IPアドレス ⑧

始点IPアドレス	始点サブネットマスク
<input type="text"/>	255.255.255.255
終点IPアドレス	終点サブネットマスク
<input type="text"/>	255.255.255.255

⑦発信元IPアドレス IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

【始点IPアドレス/終点IPアドレス】

発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。

何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。

【始点サブネットマスク/終点サブネットマスク】

この項目で指定したIPアドレスのサブネットマスクを設定します。IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

⑧宛先IPアドレス IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

【始点IPアドレス/終点IPアドレス】

宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。

始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。

【始点サブネットマスク/終点サブネットマスク】

この項目で指定したIPアドレスのサブネットマスクを設定します。IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

【発信元/宛先IPアドレスの設定例】

IPアドレスに192.168.1.0

サブネットマスクに255.255.255.252

フィルターの対象となるIPアドレスは、192.168.1.0から192.168.1.3までとなります。

6-2.IPフィルタ登録状況

現在登録されているIPフィルタを表示および削除を行います。

	番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号		
					宛先	方向	始点
削除	61	IN	遮断	TCP_EST	宛先		*
削除	62	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元		*
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139

発信元IPアドレス			
IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク
*	255.255.255.255	-	255.255.255.255
*	255.255.255.255	-	255.255.255.255
*	255.255.255.255	-	255.255.255.255
*	255.255.255.255	-	255.255.255.255

宛先IPアドレス			
IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク
*	255.255.255.255	-	255.255.255.255
192.168.0.1	255.255.255.0	-	255.255.255.255
*	255.255.255.255	-	255.255.255.255
*	255.255.255.255	-	255.255.255.255

工場出荷時に設定されているフィルターについて
出荷時の設定として、あらかじめフィルターが登録されています。
設定されているフィルターの目的は、以下のとおりです。

- 61番：本体への不正パケット防止
- 62番：プライベートIPアドレスへの不正パケット防止
- 63、64番：Windowsが行う定期的な通信によって起こる「意図しない自動接続」を防止



補足説明書



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第7章 RIP設定

RIPにより経路を動的に作成するときやRIPフィルターについて設定します。

7-1 RIP設定	30
7-2 RIPフィルタ設定	30

7 RIP設定

7-1.RIP設定

RIP機能についての設定を行います。

RIP設定		
LAN側にRIPを使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
WAN側にRIPを使用	②	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

RIP設定..... RIPを使用することで隣接ルータと経路情報を交換して、経路を動的に作成します。
RIP使うと、RIPパケットがそのアクセスポイントのブロードキャストアドレスを使って、約30秒毎にブロードキャストされます。

①LAN側にRIPを使用 LAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。

②WAN側にRIPを使用 WAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。

7-2.RIPフィルタ設定

RIPフィルタについての設定を行います。

RIPフィルタ設定		
登録の追加		
フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク
無視する	<input type="text"/>	<input type="text"/> <input type="button" value="追加"/>
現在の登録		
フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク

RIPフィルタ設定..... 同一サブネットで使う複数のルータにおいて、特定のルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。
最大20件の登録が可能です。

入力後は、追加 をクリックしてください。



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第8章 ルーティング設定

パケットの中継経路を意図的に定義するとき設定します。

8-1	ネットワーク インターフェイス リスト	32
8-2	IP経路情報	32
8-3	スタティックルーティング設定	33

8 ルーティング設定

8-1. ネットワーク インターフェイス リスト

「8-2.IP経路情報」の[経路]を参照してください。

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	サブネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

8-2.IP経路情報

IP経路情報						
宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	経路	作成	メトリック	
192.1(①).0	255.25(②).55.0	192.16(③).1	k(④) s(⑤)c	⑥	0	
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

- IP経路情報 ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータまたは端末に配送すべきかの情報を表示します。
この画面には、「スタティックルーティング設定」で追加した経路も表示されます。
- ①宛先 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ②サブネットマスク ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するサブネットマスクを表示します。
- ③ゲートウェイ ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④経路 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。その詳細は、この画面の最上部に「ネットワーク インターフェイス リスト」として表示します。
- ⑤作成 どのように経路情報が作られたかを表示します。
 - static : スタティック(定義された)ルートにより作成されています。
 - rip : ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成されています。
 - misc : ブロードキャストに関するフレーム処理で作成されています。
- ⑥メトリック 経路のコストを表示します。

8-3.スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。登録できるのは、最大20件までです。

入力後は、追加 をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。また、その内容は、上記の「IP経路情報」にも表示されます。

- ①経路
 - local : 登録する経路情報がLAN側の場合です。
 - wan : 登録する経路情報がWAN側の場合です。

- ②宛先

経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。

経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。

- ③サブネットマスク

対象となる宛先のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。

- ④ゲートウェイ

ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。

- ⑤メトリック

宛先までのコストを表す数値を入力します。

数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。

0～15まで入力できます。

- ⑥ 追加 ボタン

設定した内容で「経路情報」画面に登録します。



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第9章 無線LAN設定

本製品の無線アクセスポイント機能について設定します。

9-1	無線LAN設定	36
9-2	無線詳細設定	36
9-3	セキュリティレベルカスタム設定	39
9-4	MACアドレスセキュリティー設定	42

9 無線LAN設定

9-1.無線LAN設定

無線部のESS IDを設定します。

無線LAN設定		
ESS ID	①	**
ESS IDの確認入力	②	**
		この項目の設定は再起動後に有効になります。

①ESS ID

ワイヤレス接続による本製品、およびローカルネットワークへの不正なアクセスなどを防止するための識別用IDを入力します。同じESS IDが設定された本製品と無線端末のあいだでのみ、無線接続できます。

大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。 (出荷時の設定：LG)

また、入力した文字は、すべて「*」で表示されます。

(表示例：* *)

②ESS IDの確認入力

「ESS ID」の入力間違いを防ぐために、ESS IDを再入力します。

大文字/小文字の区別に注意してください。 (表示例：* *)

9-2.無線詳細設定

無線部についての詳細設定です。

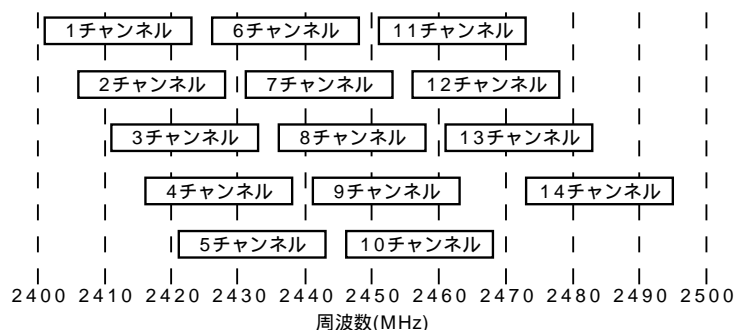
無線詳細設定		
チャンネル	①	14
Rts/Ctsスレッシュホールド	②	無し
セキュリティレベル	③	なし
キージェネレータ	④	
		チャンネル、スレッシュホールドの設定は再起動後に有効になります。

①チャンネル

本製品の無線アクセスポイント接続に使用する無線通信用チャンネルを設定します。無線端末側は、本製品のチャンネルを自動的に検知して通信します。 (出荷時の設定：14)

無線伝送エリア内に、別の無線アクセスポイントなどの機器が存在する場合は、相互の電波干渉を避けるために、相手側の無線アクセスポイントのチャンネルから4つ以上飛ばして設定してください。

それ以下のときは、各チャンネルの帯域の一部が隣接するチャンネルの帯域の一部と重複するため混信する可能性があります。例えば、お互いの無線アクセスポイントが、1 - 6 11チャンネルに設定されていると、混信しません。



9-2.無線詳細設定(つづき)

無線詳細設定	
チャンネル	① 14
Rts/Ctsスレッシュホールド	② 無し
セキュリティレベル	③ なし
キージェネレータ	④

チャンネル、スレッシュホールドの設定は再起動後に有効になります。

②Rts/Ctsスレッシュホールド

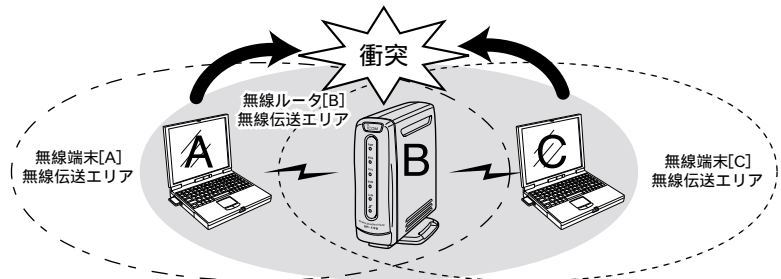
ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。

(出荷時の設定：無し)

Rts/Cts(Request to send/Clear to send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。

隠れ端末とは、下図のように、それぞれが無線ルータ[B]と通信できても、互いが直接通信できない無線端末[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。

通信の衝突を防止するには、送信要求(Rts)信号を受信した無線ルータ[B]が、無線伝送エリア内にある無線端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線端末に無線ルータ[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。これにより、Rts信号を送信していない無線端末[A]または[C]は、無線ルータ[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



③セキュリティレベル

無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、データを暗号化するレベルを設定します。(出荷時の設定：なし)

暗号化の方式には、WEP(Wired Equivalent Privacy)を使用しています。

ここで選択したレベル(低・中・高)にしたがって、「セキュリティレベル カスタム設定」(⇒9-3章)の項目(以下、①番～④番)を自動設定します。

「セキュリティレベル カスタム設定」から設定値(以下、①番～④番)を変更するときは、「カスタム」を選択してから、その番号の項目について任意に設定できます。

通信の対象となる相手間で同じセキュリティレベルを設定することをおすすめします。

なお、通信の対象となる相手間で、一方が「低」で、もう一方が「中」の場合についてだけ、その間の通信は可能です。

9 無線LAN設定

9-2.無線詳細設定(つづき)

④キージェネレータ

暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を設定します。入力する文字は、すべて「*」で表示します。(表示例：**)
ここで入力した文字列に基づいて、「セキュリティレベル カスタム設定」(9-3章)の項目(⑤番)を自動生成します。

通信の対象となる相手間で同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号)を設定します。

異なる文字列の場合、暗号化されたデータを復号できません。

「セキュリティレベル カスタム設定」(⑤番)から設定値を設定するときは、ここには何も表示されません。

9-3.セキュリティレベル カスタム設定

[セキュリティレベル]を「カスタム」に選んだとき、設定します。

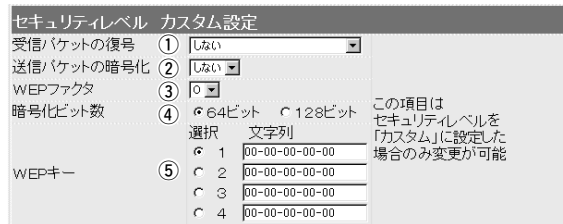
セキュリティレベル カスタム設定	
受信パケットの復号	① <input type="button" value="し"/> ない
送信パケットの暗号化	② <input type="button" value="し"/> ない
WEPファクタ	③ <input type="button" value="0"/>
暗号化ビット数	④ <input checked="" type="radio"/> 64ビット <input type="radio"/> 128ビット
WEPキー	⑤ 文字列 <input type="radio"/> 1 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 2 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 3 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 4 00-00-00-00-00

この項目はセキュリティレベルを「カスタム」に設定した場合のみ変更が可能

- ①受信パケットの復号 …………… 「無線詳細設定」(☞9-2)の[セキュリティレベル]で「カスタム」を選択するときの設定で、受信したパケットの復号化処理について設定します。
(出荷時の設定：しない)
- ②送信パケットの暗号化 ……… 「無線詳細設定」(☞9-2)の[セキュリティレベル]で「カスタム」を選択するときの設定で、送信したパケットの暗号化処理について設定します。
(出荷時の設定：しない)
- ③WEPファクタ …………… 「無線詳細設定」(☞9-2)の[セキュリティレベル]で「カスタム」を選択するときの設定で、「0」を選択すると、一番セキュリティが高くなります。
(出荷時の設定：0)
各値の暗号化レベルは、つぎのようになります。
「0」= 1パケットごとに内部暗号キーを変更する
「1」= 10パケットごとに内部暗号キーを変更する
「2」= 50パケットごとに内部暗号キーを変更する
「3」= 100パケットごとに内部暗号キーを変更する
- ④暗号化ビット数 …………… 「無線詳細設定」の[キージェネレータ]に入力した文字列を暗号化するビット数を設定します。
(出荷時の設定：64ビット)
「64ビット」を選択すると、[キージェネレータ]に入力した文字列より生成されたキーの下位40ビット(16進数：10文字)を「WEPキー」のテキストボックスに表示します。また、10文字までこのテキストボックスに直接入力することもできます。
「128ビット」を選択すると、[WEPキー]のテキストボックスには、下位104ビットを表示します。また、26文字までこのテキストボックスに直接入力することもできます。
[WEPキー]のテキストボックスに直接入力する場合、文字列は、「キージェネレータ」のテキストボックスに表示されません。また、先頭の24ビットは、常に表示されません。

9 無線LAN設定

9-3.セキュリティレベル カスタム設定(つづき)



⑤ WEPキー

暗号化に使うキーとその文字列を設定します。(出荷時の設定：1) チェックマークを入れたキーのテキストボックスに表示された16進数の英数字を暗号化に使用します。

相手側では、キー番号(1～4)の右にあるテキストボックスのどれかに同じ16進数の英数字が設定されている場合だけ復号化(正しく受信)できます。

各テキストボックスには、通信の対象となる相手間で暗号化および復号化に使うキー(半角英数字)を16進数で直接入力してください。なお、通信の対象となる相手間で[暗号化ビット数]の設定が異なったり、暗号化および復号化に使うテキストボックスの内容が異なるときは通信できません。

各テキストボックスには、通信の対象となる相手間で同じ内容に設定されることをおすすめします。そのようにしておく、相手間でキー番号の設定が異なっても、そのテキストボックスの内容が同じなので通信できます。

「無線詳細設定」の[キージェネレータ]のテキストボックスに何も入力しないときは、[WEPキー]の各テキストボックスに直接入力することもできます。(この場合、[キージェネレータ]のテキストボックスに文字列は、表示されません。)

WEPキーの設定例

[例：WEPキーが64ビット暗号化に設定されているとき]



9-3.セキュリティレベル カスタム設定(つづき)

[セキュリティレベル]と[カスタム]設定項目の関係

		WEP設定			WEP ファクター	暗号化ビット数
		受信パケットを復号化する	暗号化されていないパケットを破棄する	送信パケットを暗号化する		
セキュリティレベル	無し	復号化しない	設定無効	暗号化しない	無効	無効
	低	復号化する	破棄しない	暗号化する	3	64ビット暗号化
	中	復号化する	破棄する	暗号化する	0	64ビット暗号化
	高	復号化する	破棄する	暗号化する	0	128ビット暗号化

セキュリティレベルの設定

[セキュリティレベル]を設定している端末同士が通信可能な[セキュリティレベル]は、以下の表のとおりです。

(: 通信可能 x : 通信不可能)

[セキュリティレベル]が同じでも、通信対象となる相手間で[キージェネレータ]の文字列が異なるときは、通信できません。

セキュリティレベル	無し	低	中	高
無し		x	x	x
低	x			x
中	x			x
高	x	x	x	

9 無線LAN設定

9-4.MACアドレスセキュリティ設定

本製品のMACアドレス表示、無線端末のMACアドレスを登録してセキュリティ設定を行います。

MACアドレスセキュリティ設定			
MACアドレスセキュリティを使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	この項目の設定は再起動後に有効になります。
本体無線部のMACアドレス	②	00-90-C7-2F-00-3C	
登録の追加	③	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録	④		
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況	
	00-90-C7-33-00-14	通信中	<input type="button" value="追加"/>

①MACアドレスセキュリティを使用

あらかじめ、登録しておいたMACアドレスと同じ無線端末だけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。

この項目の設定を変更したあとは、<登録して再起動>をクリックすると、変更した設定内容に変更されます。

②本体無線部のMACアドレス

本製品の無線部に登録されたMACアドレスを表示します。また、このMACアドレスが、本製品のMACアドレスにもなりますので、ご契約のプロバイダーに本製品のMACアドレスを申請する必要がある場合は、このアドレスを報告してください。

③登録の追加

この欄に対象となる無線LANカードのMACアドレスを入力して追加 をクリックすると、[登録済みの端末]欄に登録されます。MACアドレスセキュリティが有効なとき、[登録済みの端末]欄に表示されたMACアドレスをもつ無線LANカードとだけ通信できます。

最大256台分のMACアドレスが登録できます。

入力は、半角文字で12桁を入力します。

入力後は、追加 をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

MACアドレスを次のように入力すると、すべて同じアドレスとして処理します。

(入力例：11-11-11-22-33-33、111111223333)

④現在の登録

本製品と無線で通信している端末の状況や登録済みの無線端末のMACアドレスを表示します。

登録されているMACアドレスは、削除 で登録の削除が行えます。

受信中の端末欄に表示されている登録されていないMACアドレスは、追加 が表示されますので、それをクリックすると、MACアドレスが登録できます。



補足説明書



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第10章 管理者設定

設定画面への管理者IDと管理者パスワードについて設定します。

管理者ID設定 44

10 管理者設定

管理者ID設定

本製品の設定画面へのアクセスを制限するとき、設定を行います。

管理者ID設定	
管理者ID	① <input type="text"/>
管理者パスワード	② <input type="text"/>
パスワードの確認入力	③ <input type="text"/>

- ①管理者ID 本製品の設定ページへのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (入力例：SR11)
[管理者ID]を設定すると、次回のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに[管理者ID]を入力します。
- ②管理者パスワード [管理者ID]に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。
入力した文字は、すべて「*(アスタリスク)」で表示されます。
(表示例：****)
[管理者パスワード]を設定すると、次回のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに[管理者パスワード]を入力します。
- ③パスワードの確認入力 [管理者パスワード]の入力間違いを防ぐために、パスワードを再入力します。
(表示例：****)



補足説明書



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第11章 メール着信通知設定

着信したメールの通知、転送、表示、フィルタリングについて設定します。

11-1	サーバ設定	46
11-2	メール転送設定	47
11-3	メールフィルタ	48

11 メール着信通知設定

11-1.サーバ設定

ご使用のメールサーバについての設定を行います。

サーバ設定		
メール着信通知機能を使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
メールサーバ(POP)	②	<input type="text"/>
メールアカウント	③	<input type="text"/>
メールパスワード	④	<input type="text"/>
確認時刻(時:分)/間隔(分)	⑤	00:00

サーバ設定

本製品が、接続先(プロバイダーなど)のメールサーバに自動接続して、着信メールの有無を確認するための情報を設定する画面です。

PPPoE方式に対応する接続先の設定が「手動接続」であっても、着信メールの自動接続を行います。

対応するプロトコルは、POP3だけです。

①メール着信通知機能を使用

メール着信通知機能を使用するかしないかを選択します。

この機能を使用すると、着信メールがあるときは、本製品の[MSG]ランプを高速で点滅すると同時に、その内容を[着信メール一覧]に表示します。

②メールサーバ(POP)

メールサーバのサーバ名を入力します。

ドメイン名は、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。

ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。

③メールアカウント

メールサーバ上のユーザーIDまたはメールアカウントを入力します。入力は、任意の英数字、半角127文字以内です。

ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。

④メールパスワード

メールサーバにアクセスするときのパスワードまたはメールパスワードを入力任意の英数字、半角31文字以内でします。

⑤確認時刻(時:分)/間隔(分)

メールサーバに自動接続する時刻、または間隔を設定します。

時刻を指定するときは24時間制、間隔を指定するときは分単位で入力します。

時刻で指定したときは、「時計設定」メニューの[内部時計設定]で設定された時刻を基準に動作します。

11-2.メール転送設定

ご使用のメールサーバに着信したメールを別のメールサーバに転送するときの設定を行います。

メール転送設定	
メール転送機能を使用	① <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
転送先メールサーバ(SMTP)	② <input type="text"/>
転送先メールアドレス	③ <input type="text"/>
発信元メールアドレス	④ <input type="text"/>

転送機能制限事項

表示可能文字数

転送されるメール内容は、半角1023(全角511)文字までです。
制限を超えた文字列については、表示されません。

①メール着信通知機能を使用

メール転送機能を使用するかしないかを選択します。

(出荷時の設定：しない)

メール着信通知機能の設定も併せて行わないと、機能しません。

②転送先メールサーバ
(SMTP)

転送先メールサーバ(SMTPサーバ)の名前を、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。

接続先のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。

③転送先メールアドレス

転送先のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。

④発信元メールアドレス

メール発信者のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。

11 メール着信通知設定

11-3.メールフィルタ

メール着信通知機能を使って[着信メール一覧]に表示、または転送するメールを限定したい場合に、その比較対象にする条件を設定します。

- ①番号 最大6(5 + 1)件のフィルターを登録できます。
フィルターを複数使う場合、着信メールとフィルターの設定内容をこの番号の小さな順に比較します。
01～05番の条件に該当しない場合は、最下欄の[該当しないメールを]で指定する内容にしがいます。
- ②使用 指定のフィルター条件を有効にする場合は、該当する番号欄のチェックボックスをクリックします。
- ③フィルタ動作 比較する対象になる条件を、この欄の 印をクリックして表示するプルダウンメニューから選択します。
下記の[A]～[D]のプルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。
[A]の[B]が[C]と一致[D]メールを[E]をする
- [A]：比較対象条件
To：宛先の文字列が対象
CC：カーボンコピー(同報通信)の文字列が対象
From：差出人の文字列が対象
Subject：件名の文字列が対象
 - [B]：比較対象条件
一部：文字列の一部が対象
先頭：文字列の先頭が対象
末尾：文字列の末尾が対象
 - [C]：比較対象条件
入力できる文字列は、任意の英数字、半角127(全角63)文字以内です。
 - [D]：比較対象条件
する ：比較対象条件と一致するメールが対象
しない ：比較対象条件と一致しないメールが対象
 - [E]：比較対象条件 / 該当しないメールを
転送 + 表示 ：対象となるメールを転送して表示する
表示 ：対象となるメールを表示する
無視 ：対象となるメールを表示しない
新しい着信メールがあると、本製品の[MSG]ランプを高速で点滅して、着信したことを通知します。



補足説明書



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第12章 着信メール一覧

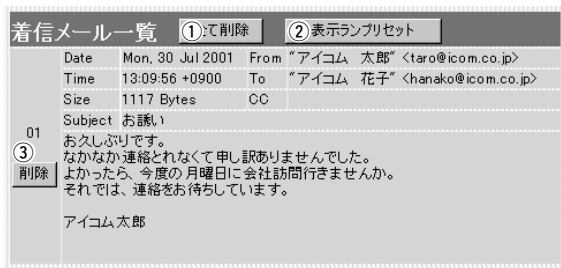
着信メールの一覧表示やメール着信通知表示を停止させる
とき操作します。

着信メール一覧 50

12 着信メール一覧

着信メール一覧

着信したメールの一覧を表示したり、着信通知表示を停止するとき使します。



① 全て削除

この画面に表示するメールをすべて削除します。
削除してもメールサーバのメールは削除されません。

② 表示ランプリセット

クリックすると、[MSG]ランプの着信通知表示が通常状態に戻ります。

③ 削除

このボタンのフレーム内のメールだけを消去します。
削除してもメールサーバのメールは削除されません。

制限事項

最大表示件数：16件

表示が17件以上になると古い順に消去されます。

メールサーバに20件のメールがあると、新着順に16件表示して、残りの4件については、受信を行いません。

表示可能文字数

To/Cc/From/Subjectの各欄については、半角255(全角127)文字まで表示します。

着信メールの本文表示欄については、半角1023(全角511)文字まで表示します。

制限を超えた文字列については、表示されません。

メールフィルターが有効な場合は、その部分の文字列が、[メールフィルタ]で設定する条件と比較対象外として処理します。

メール転送機能が有効な場合、「表示可能文字数」の範囲内の内容しか転送できません。



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第13章 時計設定

本製品の内部時計とタイムサーバへの接続について設定します。

13-1	内部時計設定	52
13-2	自動時計設定	52

13 時計設定

13-1.内部時計設定

本製品の内部時計の設定を行います。

内部時計設定					
本体の時刻	①	2001年	01月	01日	02時 47分
設定する時刻	②	2001年	07月	30日	14時 53分

- ①本体時刻 本製品に設定されている時刻を表示します。
- ②設定する時刻 本製品の設定ページにアクセスしたとき、パソコンの時計設定を取得して表示します。
表示する時間は、「時計設定」画面アクセス時の時間です。
正確に設定したいときは、「時計設定」メニューをクリックしてから、登録 をクリックしてください。

13-2.自動時計設定

本製品の内部時計を自動設定するとき、アクセスするタイムサーバの設定を行います。

自動時計設定	
自動時計設定を使用	① <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
NTPサーバ1 IPアドレス	② 133.100.9.2
NTPサーバ2 IPアドレス	③
アクセス時間間隔	④ 1 日
前回アクセス日時	⑤ ----/--/-- --:--
次回アクセス日時	⑥ 2001/01/02 00:00

- ①自動時計設定を使用 インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせを行い、内部時計を自動設定します。
- ②NTPサーバ1 IPアドレス ... 最初にアクセスさせたいタイムサーバのIPアドレスを入力します。
- ③NTPサーバ2 IPアドレス ... [NTPサーバ1 IPアドレス]の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
返答がないときは、再度[NTPサーバ1 IPアドレス]で設定したタイムサーバにアクセスします。
- ④アクセス時間間隔 タイムサーバにアクセスさせる間隔を、日数で設定します。
最大99日まで設定できます。
PPPoE方式による手動接続では、前回アクセスした日から設定した日数が経過している場合は、接続時にアクセスします。
常時接続では、設定した日数にしたがってアクセスします。
- ⑤前回アクセス日時 タイムサーバにアクセスした日時を表示します。
- ⑥次回アクセス日時 タイムサーバにアクセスする予定日時を、[前回アクセス日時]と[アクセス時間間隔]で設定された日数より算出して表示します。



補足説明書



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第14章 SYSLOG設定

SYSLOG機能でファイルを一括管理するとき設定します。
SYSLOG設定54

14 SYSLOG設定

SYSLOG設定

指定したホストアドレスにログ情報などを出力する設定を行います。

SYSLOG設定		
DEBUGを使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
INFOを使用	②	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
NOTICEを使用	③	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
ホストアドレス	④	<input type="text"/>
ファシリティ	⑤	<input type="text"/>

- ①DEBUGを使用 PPPoEなどの各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ②INFOを使用 INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ③NOTICEを使用 NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ④ホストアドレス SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
ホストは、SYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。
- ⑤ファシリティ SYSLOGのファシリティを入力します。
0～23の値を設定してください。
通常「1」を使用します。



補足説明書



Wireless Broadband Router
SR-11FB

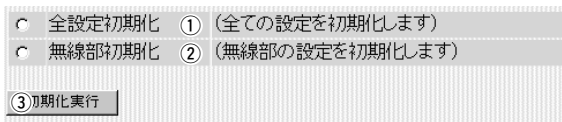
第15章 設定初期化

本製品の設定内容を出荷時の状態に戻すとき設定します。
設定初期化56

15 設定初期化

設定初期化

選択した初期化条件で本製品の設定内容を初期化します。



- | | |
|---------------|---|
| ①全設定初期化 | 設定した本製品の全内容を、出荷時の設定に戻します。 |
| ②無線部初期化 | 無線LAN(無線アクセスポイント)に関係のある設定だけを、出荷時の設定に戻します。 |
| ③ 初期化実行 | ラジオボタンがクリックされた[初期化条件]にしたがって、初期化を開始します。 |



補足説明書



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第16章 設定保存

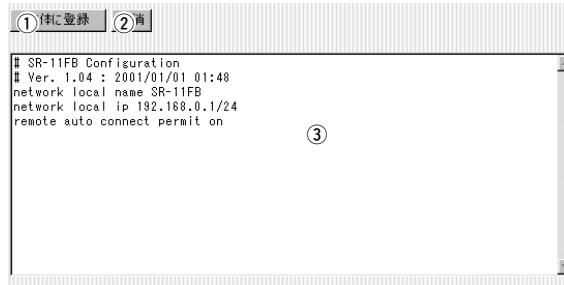
本製品の全設定内容を確認したり、設定内容を設定ファイルとして保存するとき操作します。

設定保存 58

16 設定保存

設定保存

本製品の全設定内容を確認したり、設定した内容を設定ファイルとして保存を行います。



- ① 本体に登録 「内容表示」画面に表示された内容を、設定ページに書き込みます。
- ② 取消 「内容表示」画面に表示された内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。
- ③ 「内容表示」画面 全設定(変更含む)内容を表示します。
この画面内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。なお、各画面で設定されたパスワードや、キージェネレーター(無線LAN通信用暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されます。そのため、保存されたファイルよりそれらが外部へ漏れることはありません。



補足説明書



Wireless Broadband Router
SR-11FB

第17章

IP Name

ホスト名に対応するIPアドレス検索およびその逆を行うソフトウェアです。

付属のユーティリティをインストールするとご使用になれます。

IP Name 60

17 IP Name

IP Name

本製品の簡易DNSサーバ機能を利用する際、あらかじめパソコンのホスト名に対応するIPアドレスを登録しておく必要があります。IP Nameを使うと、このホスト名に対応するIPアドレスを検索することができます。また、IPアドレスからホスト名を検索(逆引き)することも可能です。



ご参考

グローバル環境のホスト名解決には、インターネットへ接続して外部DNSへ問い合わせを行う必要があります。

よって、PPPoEで自動接続を設定していると、検索のためにインターネットに自動接続されます。

- | | |
|-----------------------|--|
| ① Host Name | 目的の名前を、「ホスト名.(ドット)ドメイン名」の書式で入力/表示します。
(入力/表示例：www.icom.co.jp) |
| ② IP Addressに変換 | 入力したホスト名のIPアドレス検索を開始します。 |
| ③ IP Address..... | 目的のIPアドレスを入力/表示します。 |
| ④ Host Nameに変換 | 入力したIPアドレスのホスト名検索を開始します。 |
| ⑤ Class表示 | 検索された/検索したIPアドレスが所属するクラスを表示します。
一般的に、A～Cクラスに分けられています。 |
| ⑥ 中止 | 検索中に表示されるボタンです。
途中で、検索を中止したい場合にクリックします。 |
| ⑦ 閉じる | IP Nameを終了します。 |

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本 社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

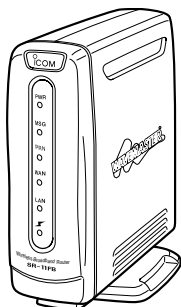
インターネット接続ガイド



Wireless Broadband Router **SR-11FB**

このガイドは、はじめて本製品を使って高速インターネットを始めるまでの基本的な手順を詳しく説明しています。

接続は、無線やUSBでも行えますが、Ethernetでパソコンに接続することを例に説明します。



順番にご覧ください。

接続手順

Ethernetカードの装着

Step 1

本製品とパソコンの接続

Step 2

IPアドレスを設定する

Step 3

IPアドレスの確認

Step 4

本製品とモデムの接続

Step 5

プロバイダー情報の設定

Step 6

インターネットに接続する

Step 7

困ったときは

Step 8

もくじ

1. Ethernetカードの装着	1
デスクトップ型パソコンの場合	1
ノートブック型パソコンの場合	1
2. 本製品とパソコンの接続	2
2-1.[LAN]ポートへのパソコン接続	2
[LAN]ポート[2]～[4]に接続する場合	2
[LAN]ポート[1]に接続する場合	2
2-2.アース線と電源の接続	3
2-3.電源を入れる	3
3. IPアドレスを設定する	4
3-1.Windows Meの場合	4
3-2.Windows 2000の場合	6
3-3.Mac OSの場合	8
4. IPアドレスの確認	9
4-1.Windows Meの場合	9
4-2.Windows 2000の場合	10
4-3.Mac OSの場合	11
5. 本製品とモデムの接続	12
5-1.ADSLインターネットの場合	12
5-2.CATVインターネットの場合	13
6. プロバイダー情報の設定	14
6-1.プロバイダーとの契約について	14
「DHCP」方式に対応している場合	14
「PPPoE」方式に対応している場合	14
ご契約への申請事項	14
6-2.プロバイダー情報を設定する	15
7. インターネットに接続する	19
7-1.インターネット接続を開始する	19
7-2.インターネット接続を終了する	20
8. 困ったときは	21

Ethernetカードの装着 1

パソコンと本製品を付属のEthernetケーブルで接続するために必要なEthernetカードの導入について説明します。

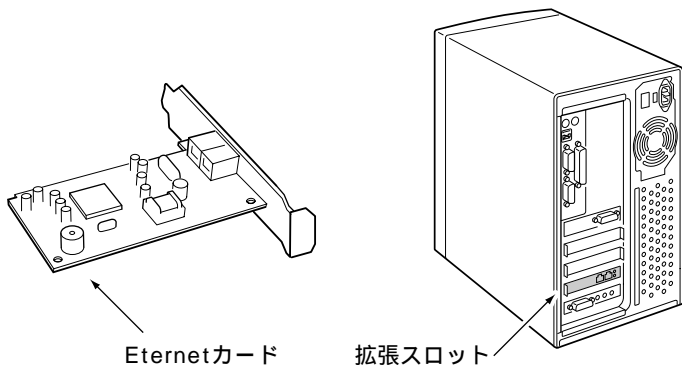
本製品を有線LANでご使用になる場合は、[Ethernet]ポートが必要です。

ご使用のパソコンに[Ethernet]ポートがない場合は、本製品の設置を始める前に、Ethernetカードを取り付けてください。

取り付けたあとは、Ethernetカードの取扱説明書にしたがってドライバーをインストールが完了したら、正常に動作することを確認してください。

デスクトップ型パソコンの場合

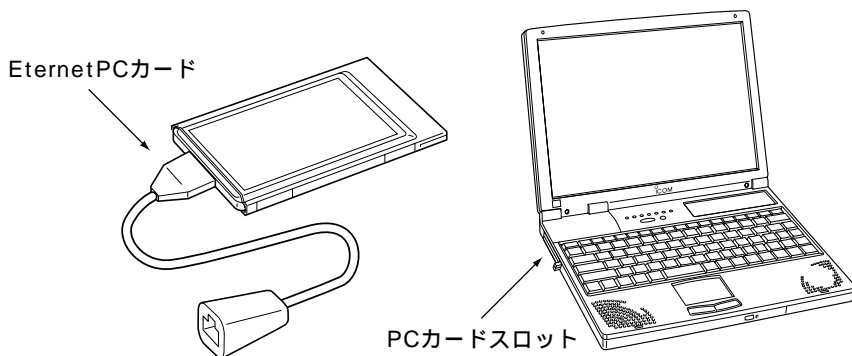
デスクトップ型パソコンの場合は、拡張スロットにEthernetカードを取り付けます。拡張スロットには、PCIやISAなどの種類がありますので、ご使用のパソコンで空いているスロットをお調べになってから、Ethernetカードを取り付けてください。



ノートブック型パソコンの場合

ノートブック型パソコンの場合は、PCカードスロットにEthernetカードを取り付けます。

PCカードスロットの規格に注意して、ご使用のパソコンに対応したPCカード型Ethernetカードを取り付けてください。



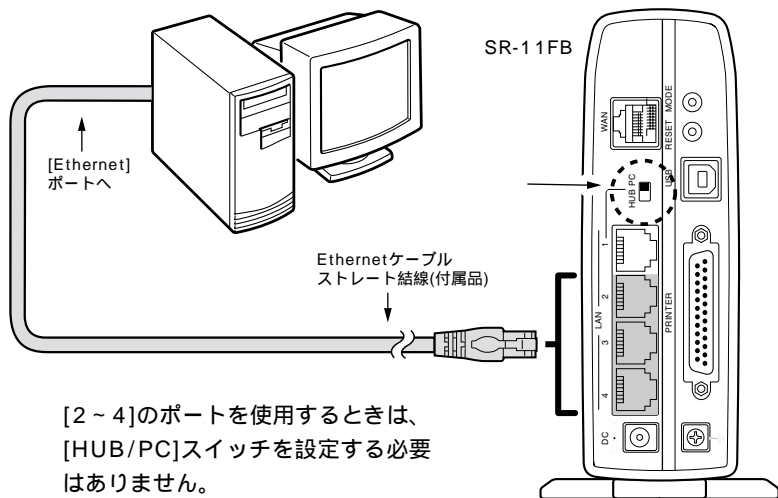
2

本製品とパソコンの接続

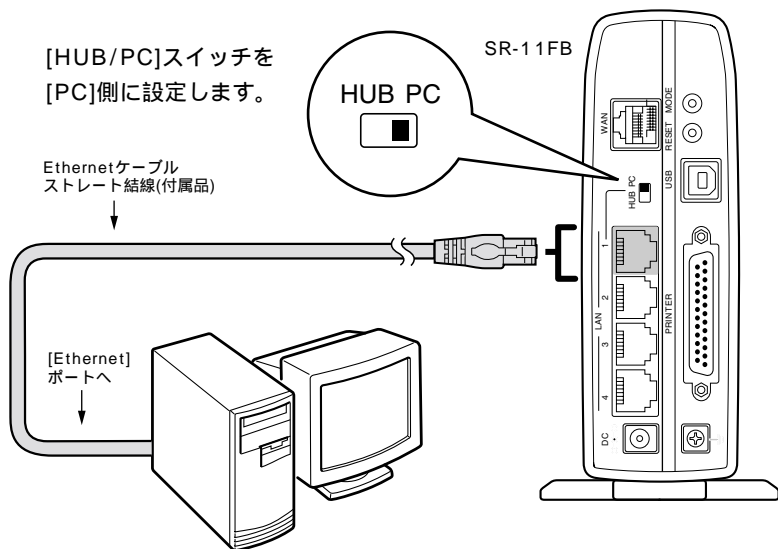
2-1 [LAN]ポートへのパソコン接続

【△警告】接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

[LAN]ポート[2]～[4]に接続する場合



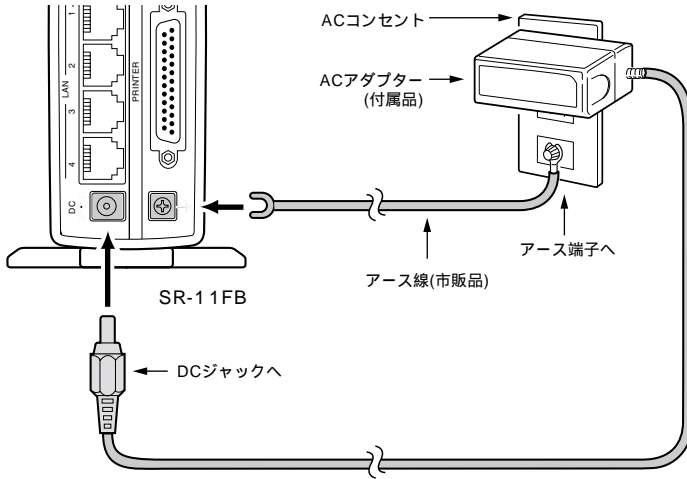
[LAN]ポート[1]に接続する場合



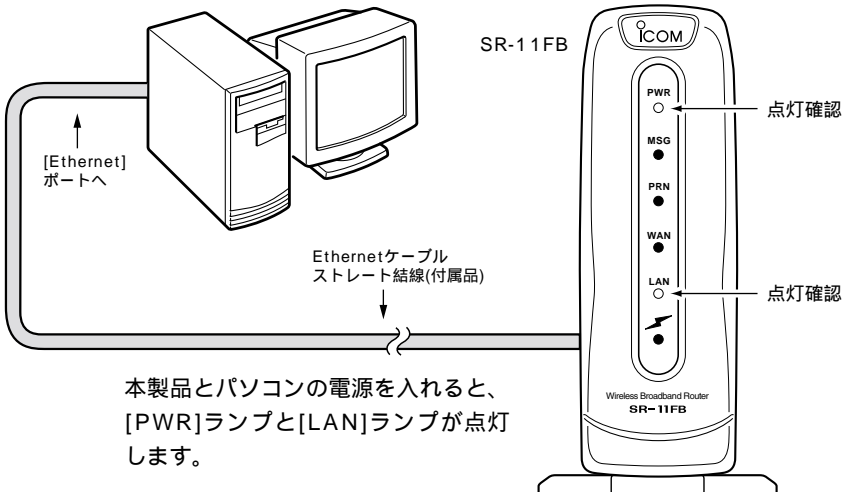
2-2 アース線と電源の接続

【△注意】

アース線は、本製品に付属していません。市販品をご用意ください。
 本製品のアース端子は、必ず接続してください。落雷したときの電気的ショックをやわらげたり、感電やノイズの回り込みを防止できます。
 アース線は、必ずコンセントのアース端子につなぐか、市販のアース棒につないで地中に埋めてください。ガス管や水道管につながないでください。



2-3 電源を入れる



3

IPアドレスを設定する

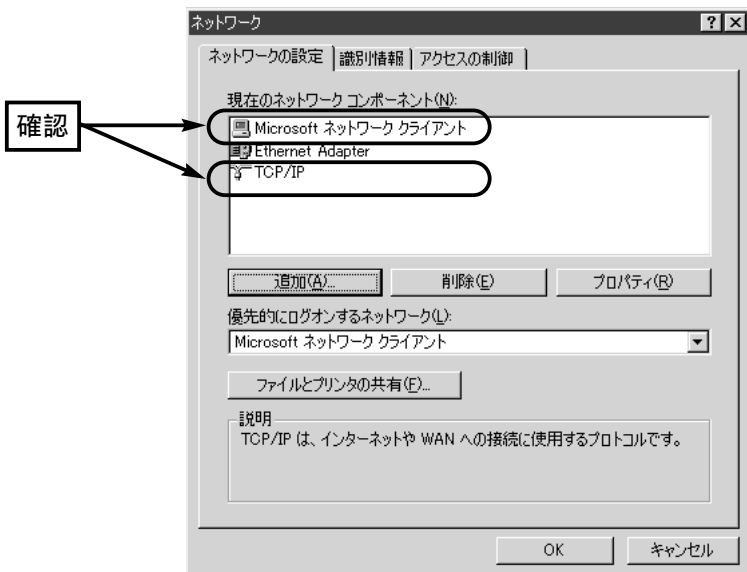
ご使用のEthernetカードに付属する取扱説明書にしたがってドライバーをインストールが完了したら、パソコンのIPアドレスについて設定を行います。

この設定を行わないと、IPアドレスを本製品からパソコンに自動で割り当てできません。このStepでは、Windows MeとWindows 2000を例に説明しています。

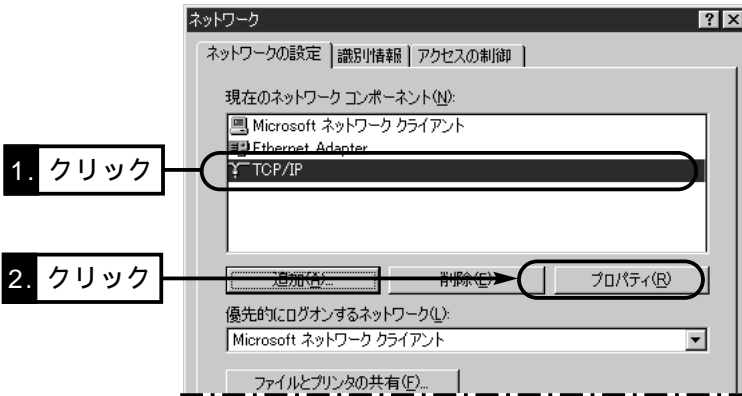
3-1 Windows Meの場合

設定の手順

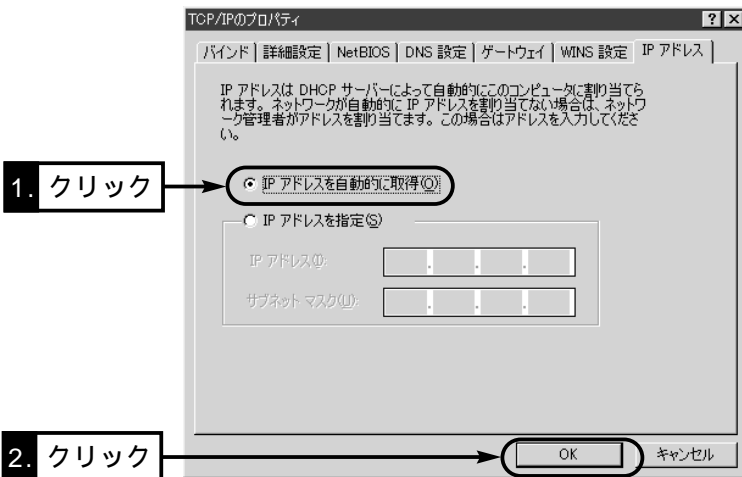
- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク]アイコンの順番に操作します。
- 2.「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP->ご使用のEthernetカードの名称」、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。
表示されていないときは、「TCP/IP」のインストールに失敗している可能性がありますので、もう一度、ご使用のEthernetカードに付属する取扱説明書でご確認ください。



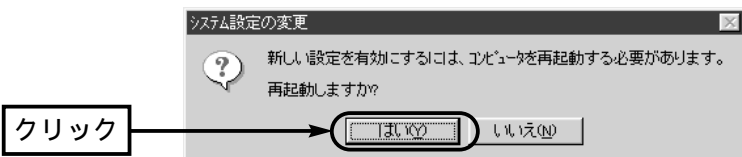
3.「TCP/IP」 プロパティ(R) の順番にクリックします。



4.[IPアドレスを自動的に取得(Q)]のラジオボタンをクリックしてから、OK をクリックします。



5.再起動を促す画面が表示されたら、 はい(Y) をクリックします。
再起動後、設定された内容が有効になります。

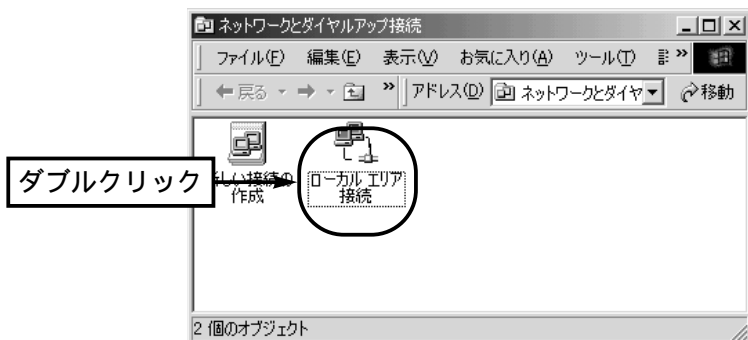


3 IPアドレスを設定する

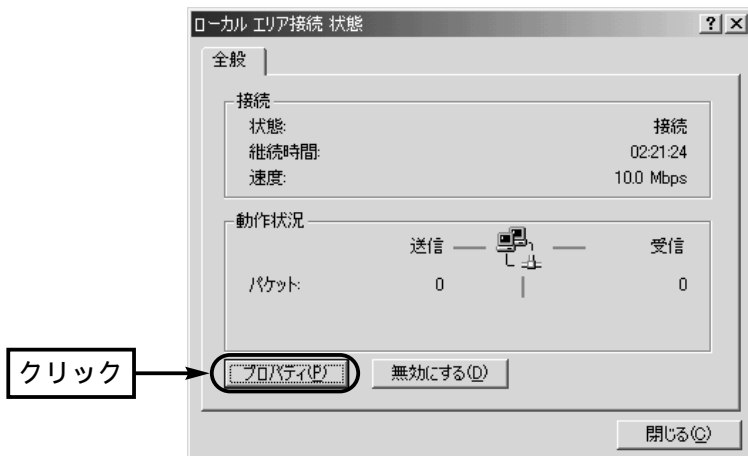
3-2 Windows 2000の場合

設定の手順

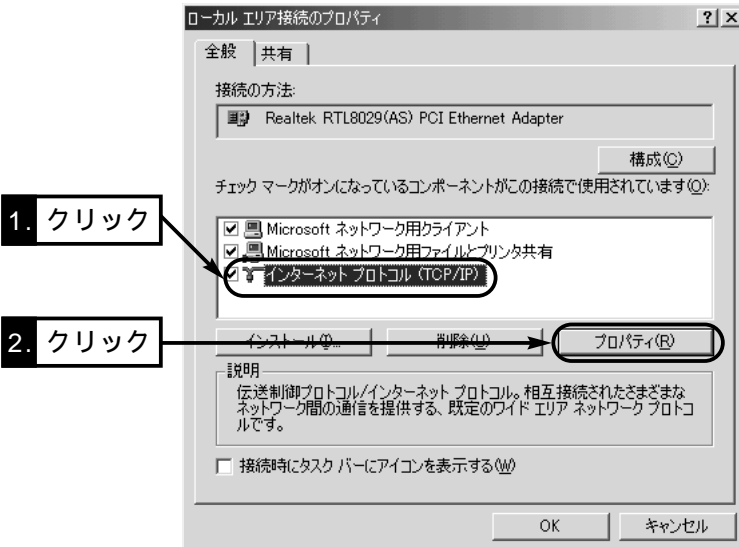
1. 設定に使用するパソコンを起動します。
 - Windows 2000への「ログオン」画面を表示します。
2. Administrator権限でログオンします。
3. パソコンが起動したら、スタート [設定(S)] [ネットワークとダイヤルアップ接続(N)] 本製品を接続するEthernetカードの名称が表示された[ローカルエリア接続] アイコンの順番にマウスを操作します。



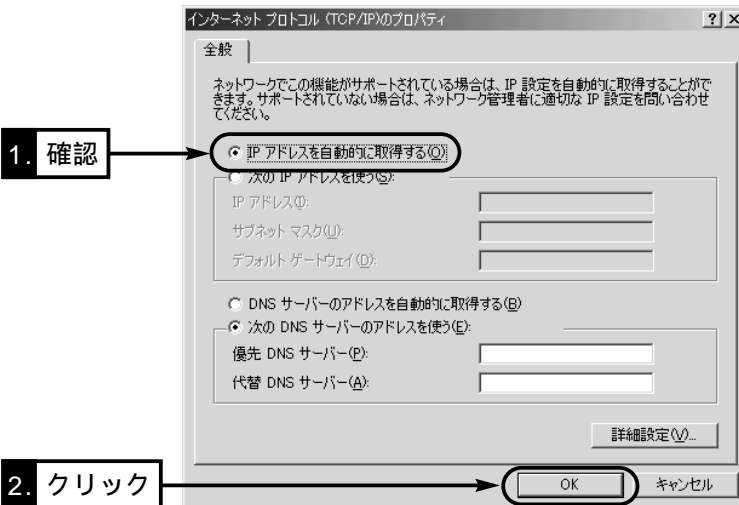
4. プロパティ(P) をクリックします。



- 5.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が表示されていれば、その中から「インターネットプロトコル(TCP/IP)」 プロパティ (R) の順番にクリックします。



- 6.[IPアドレスを自動的に取得する(Q)]のラジオボタンが選択されていることを確認してから、OK をクリックすると、設定された内容が有効になります。

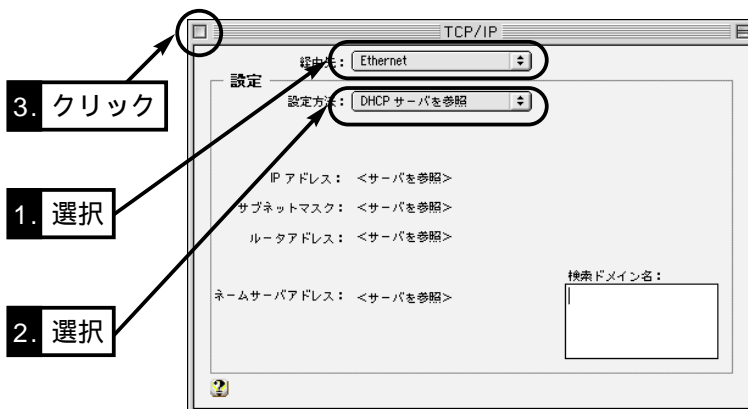


3 IPアドレスを設定する

3-3 Mac OSの場合

設定の手順

1. 設定に使うパソコンを起動します。
2. パソコンが起動したら、[アップルメニュー] [コントロールパネル] [TCP/IP]の順番にマウスを操作します。
3. [経由先]を「Ethernet」、[設定方法]を「DHCPサーバを参照」に設定します。
4. タイトルバー上のクローズボックスをクリックします。
 - 画面が閉じて、設定画面が保存されます。



DHCPサーバ機能によってパソコンに自動で割り当てられたIPアドレスを確認する方法について説明します。

IPアドレスの設定後、パソコンを再起動していないときは、再起動してください。このとき、本製品の電源を入れた状態で行ってください。

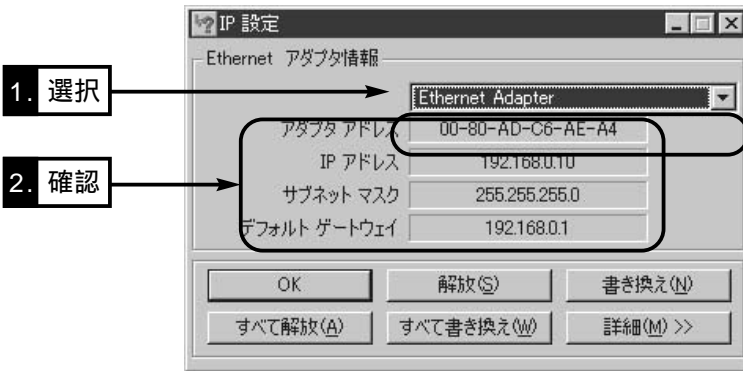
4-1 Windows Meの場合

インストールされたOSの[Windows]フォルダーに収められた「winipcfg.exe」というアプリケーションで確認します。

確認のしかた

- 1.マウスを スタート [ファイル名を指定して実行(R)]の順番に操作します。
- 2.コマンドラインボックスに「winipcfg」と半角入力して、[ENTER]キーを押します。
- 3.テキストボックスの をクリックして、ご使用のEthernetまたは無線LANカード名を選択します。

- IPアドレスがDHCPサーバからパソコンに割り当てられると、出荷時の状態では、[IPアドレス]の項目に「192.168.0.10」と表示されます。



画面の表示項目について

アダプタアドレス : Ethernetまたは無線LANカードのMACアドレス

IPアドレス : パソコンのIPアドレス

サブネットマスク : パソコンのサブネットマスク

デフォルトゲートウェイ : 本製品のLAN側のIPアドレス

【自動割り当てに失敗したら？】

IPアドレス表示のネットワーク部が「192.168.0」と異なる場合やデフォルトゲートウェイ表示に「192.168.0.1」(出荷時の設定)が表示されていない場合は、IPアドレスの自動割り当てに失敗している可能性がありますので、ご使用のEthernetのIPアドレスについての設定およびケーブルの接続を確認してから、パソコンを再起動してみてください。

再起動したら、もう一度、上記の手順でIPアドレスを確認してください。

4 IPアドレスの確認

4-2 Windows 2000の場合

コマンドプロンプト画面から「ipconfig」を実行します。

確認のしかた

- 1.マウスを スタート [プログラム(P)] [アクセサリ] [コマンドプロンプト]の順番に操作します。
- 2.ipconfigとコマンドを入力して、[Enter]キーを押します。
コマンドラインのオプションについては、「ipconfig/?」を実行してご確認ください。
- 3.次に表示された画面に、パソコンに割り当てられてIPアドレスが表示されます。
 - IPアドレスがDHCPサーバからパソコンに割り当てられると、出荷時の状態では、[IP Address]の項目に「192.168.0.10」と表示されます。

```
Microsoft Windows [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:\>ipconfig

Windows 2000 IP Configuration

Ethernet adapter ローカル エリア接続:

    Connection-specific DNS Suffix . :
    IP Address. . . . . : 192.168.0.10
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . . : 192.168.0.1

C:\>
```

確認

4-3 Mac OSの場合

パソコンを起動後、実際に通信(WWWアクセスまたはメールアクセス)を行うまで、DHCPサーバからIPアドレスを取得しないようになっています。

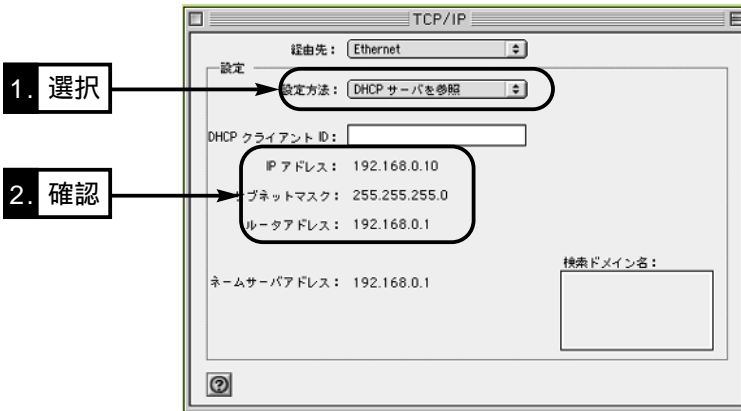
次の手順で表示される画面の各項目に「サーバを参照」と表示されているときは、一度通信を行ったあとにもう一度確認してください。

ご使用のOSによっては、操作画面等が異なる場合があります。

確認のしかた

[アップルメニュー] [コントロールパネル] [TCP/IP]の順番にマウスを操作します。

- IPアドレスがDHCPサーバからパソコンに割り当てられると、出荷時の状態では、[IPアドレス]の項目に「192.168.0.10」と表示されます。

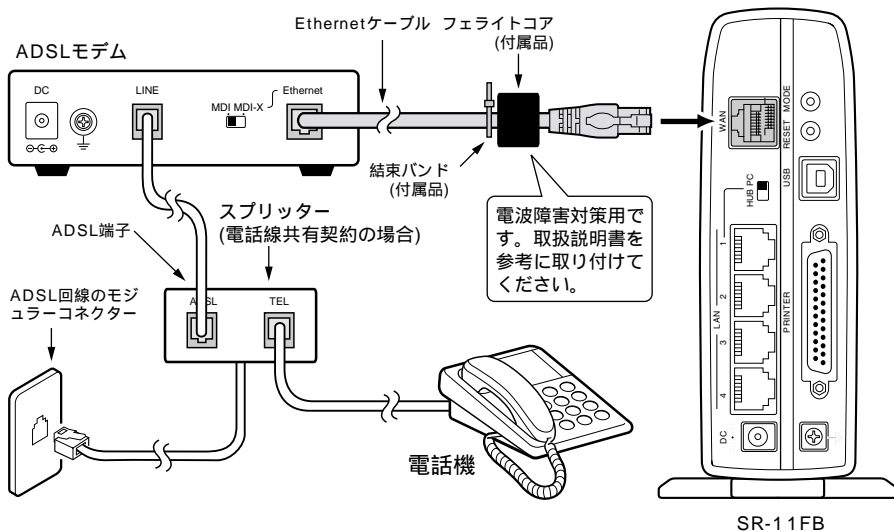


5

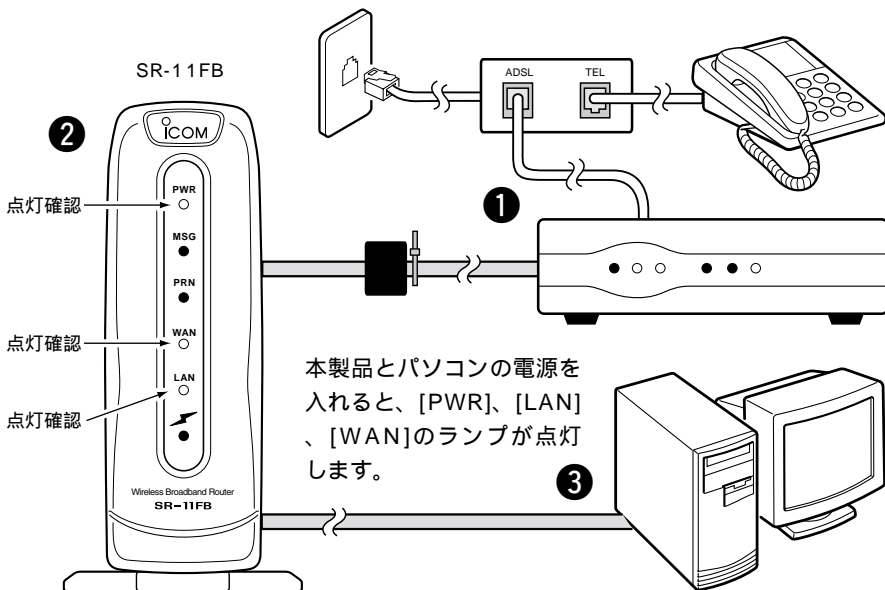
本製品とモデムの接続

【△警告】接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

5-1 ADSLインターネットの場合

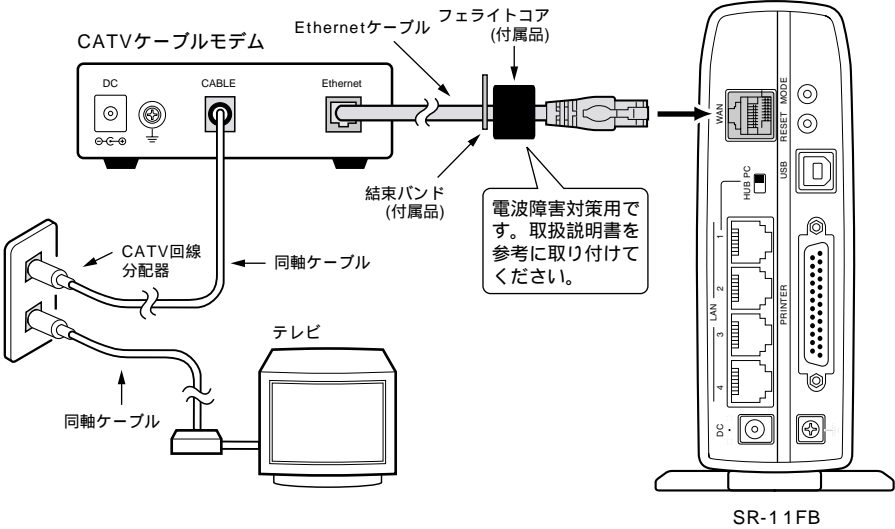


接続後、下記の番号の順番に電源を入れて、本製品のランプを確認します。

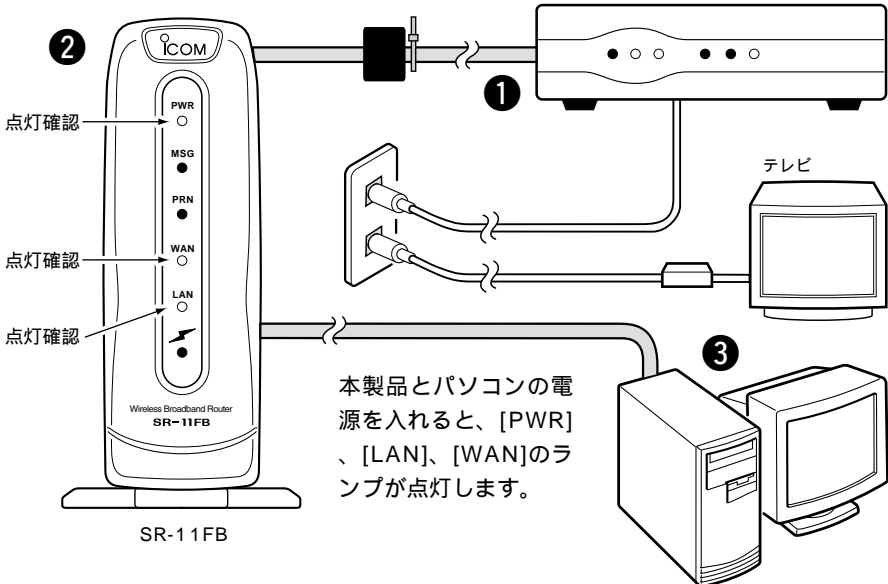


【△警告】接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

5-2 CATVインターネットの場合



接続後、下記の番号の順番に電源を入れて、本製品のランプを確認します。



6-1 プロバイダーとの契約について

インターネットに接続するためには、プロバイダーとの契約が必要です。

ご契約のプロバイダーやサービスによって、接続方式(PPPoE、DHCP)が異なります。接続方式についてご不明な場合は、ご契約のプロバイダーやお買い上げの販売店などにご相談ください。

「DHCP」方式に対応している場合

ご契約のプロバイダーが、「DHCP」方式での接続を要求している場合です。

本製品の設定に必要ですので、あらかじめ以下の項目を確認しておいてください。

- IPアドレス(固定割り当ての指示がある場合)
- サブネットマスク(固定割り当ての指示がある場合)
- デフォルトゲートウェイのIPアドレス
- DNSサーバのIPアドレス(複数指定されている場合もあります。)

「PPPoE」方式に対応している場合

ご契約のプロバイダーが、「PPPoE」方式での接続を要求している場合です。

本製品の設定に必要ですので、あらかじめ以下の項目を確認しておいてください。

- ログインユーザー名
- ログインパスワード
- [PPPoE]接続のサービス名(本製品では設定不要です。)
- IPアドレス(固定的に割り当てる方式の場合は必要です。)
- DNSサーバのIPアドレス(複数指定されている場合もあります。)

ご契約プロバイダーへの申請事項

ご契約のプロバイダーや提供を受けるサービスによっては、本製品を含めインターネット接続できる機器(パソコンなど)の事前申請が必要になります。

この場合、CATVインターネットではケーブルモデム、ADSLインターネットではADSLモデムに直接接続するネットワーク機器(パソコンなど)がそれぞれ独自に持っているMACアドレス(機器固有の番号)を、プロバイダーに対して事前申請する必要があります。そのときは、本製品のMACアドレスを通知してください。確認のしかたは、「本体MACアドレスの確認方法」(☞ Step 8)をご覧ください。

【ご注意】

MACアドレスの事前申請が必要なサービスをプロバイダーからお受けになるときは、プロバイダーへの申請および登録が完了するまで、本製品を利用したインターネットアクセスはできません。

6-2 プロバイダー情報を設定する

「簡単接続設定ウィザード」(Windows版)にしたがって、ご契約のプロバイダーから指定された設定情報を入力します。

Mac OSでご使用の場合は、PDF形式の取扱説明書(※5章以降)をご覧ください。

設定のしかた

1. 本製品のCD-ROMをご使用のCD-ROMドライブに挿入します。

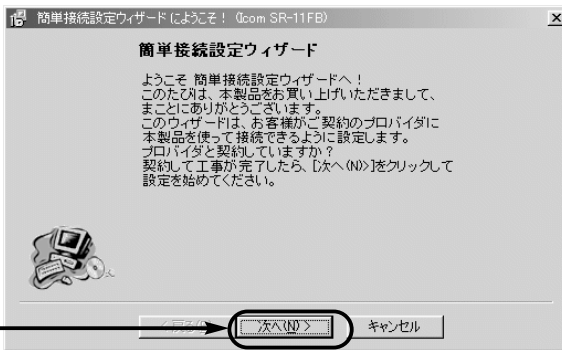
- CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。

2. 簡単接続設定ウィザード をクリックします。

- 「簡単接続設定ウィザード」が起動します。

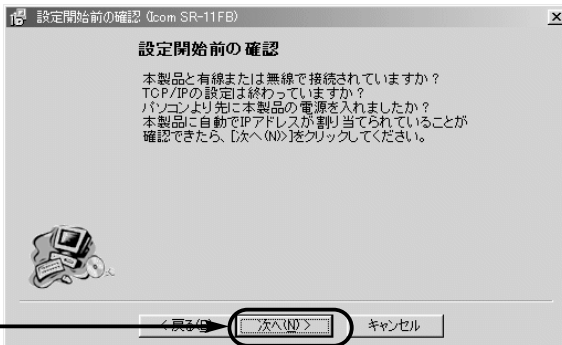


3. 次の画面が表示されたら、内容を確認して、次へ(N) をクリックします。



4. 内容を確認して、次へ(N) をクリックします。

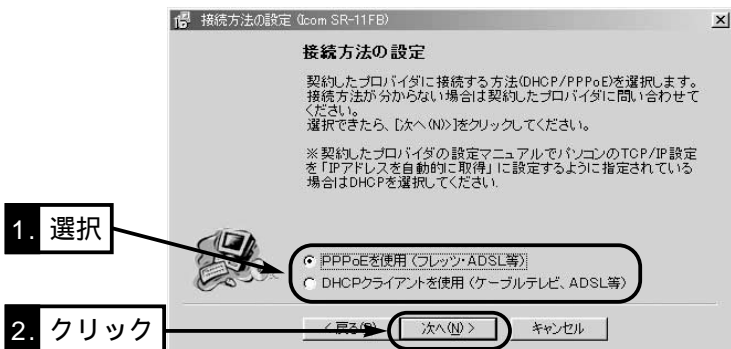
パソコンのIPアドレスをあらかじめ手動で指定しているときは、自動的に取得できるように変更(※Step 3)してから、やり直してください。



6 プロバイダー情報の設定

6-2 プロバイダー情報を設定する(つづき)

5.ご契約のプロバイダーが指定する接続方式を選択して、次へ(N) をクリックします。

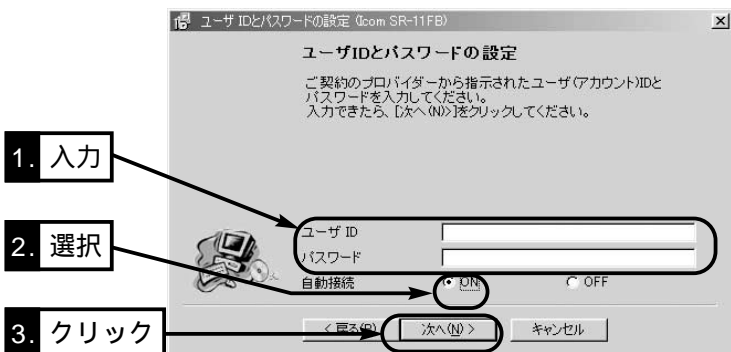


上記画面で「PPPoEを使用(フレッツ・ADSL等)」を選択した場合は、下記の画面でプロバイダーから指定された[ユーザーID]と[パスワード]をテキストボックスに入力します。パソコンからホームページやメールを見る操作を行ったときなど、自動的にインターネットへ自動接続をする場合は、「ON」のラジオボタンをクリックしてから、次へ(N) をクリックします。ここでは、「ON」を選択します。

「DHCPクライアント使用(ケーブルテレビ・ADSL等)」を選択時は、この画面の設定はありません。

「OFF」に設定したときの接続操作は、WWWブラウザの設定画面で行います。

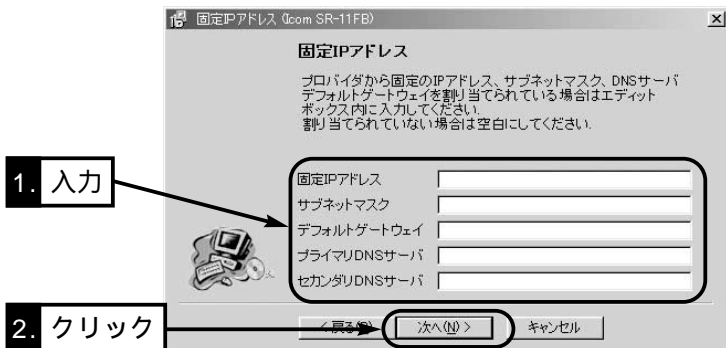
詳しくは、「インターネット接続を開始する」(取扱説明書 6-1章)をご覧ください。



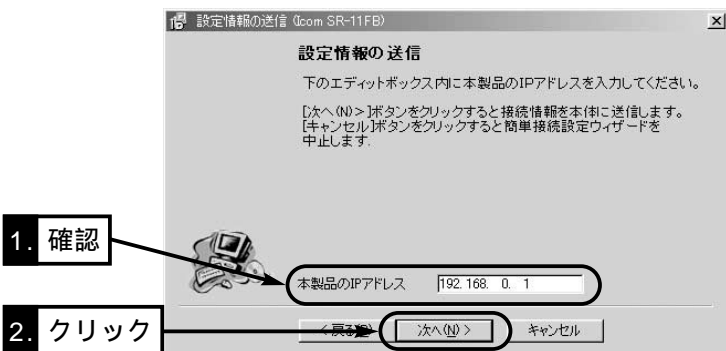
6.プロバイダーからIPアドレスを指定された場合は、そのアドレスとそれ以外に指定された内容を、該当する欄に入力して、次へ(N) をクリックします。

特に指定がない場合は、何も入力しないで、次へ(N) をクリックします。

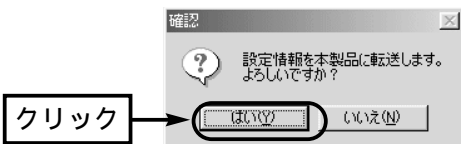
ご不明な場合は、ご契約のプロバイダーにご確認ください。



7.本製品に設定されたIPアドレス(出荷時は、192.168.0.1)が正しいかを確認して、次へ(N) をクリックします。



8.「確認」のダイアログが表示されますので、はい(Y) をクリックします。



6 プロバイダー情報の設定

6-2 プロバイダー情報を設定する(つづき)

9. 完了 をクリックします。



10. WAN側とLAN側のIPアドレスが取得できている状態であれば、お好きなURLを起動したWWWブラウザのアドレスバーに入力して、接続を確認してください。

WAN側のIPアドレスの取得状況を確認する場合は、「困ったときは」(※Step 8)をご覧ください。

手順 8. で、「ユーザー認証」画面が表示されたときは、本製品に設定されている管理者IDを入力します。管理者IDを設定していないのに、以前設定した内容が表示されるときは、その内容を消してから OK をクリックします。



【プロバイダーから配布のPPPoE接続ソフトウェアについて】

本製品でプロバイダーへの接続方式の設定をPPPoE方式に設定する場合は、プロバイダーから配布されるPPPoE接続用ソフトウェアのインストールは不要です。すでに、ご使用のパソコンにインストールされているときは、そのソフトウェアのアンインストールを行うか自動接続設定を無効に変更してから、本製品をご使用ください。

7-1 インターネット接続を開始する

【WWWブラウザについて】

インターネットに接続するには、Microsoft Internet Explorer4.0以降、または Netscape Navigator4.0以降のWWWブラウザが必要です。

Proxyサーバを使用されている場合は、WWWブラウザの設定で本製品をProxyの対象外にしてください。

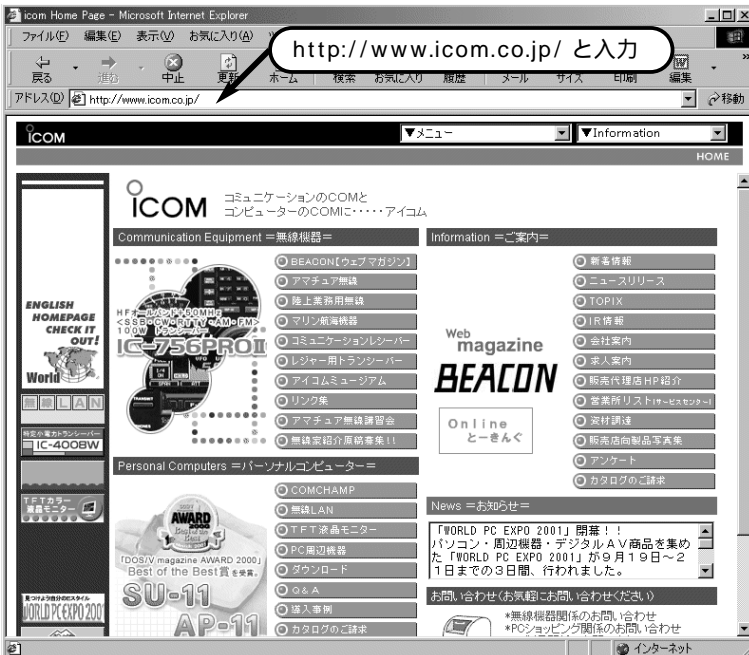
【自動接続について】

本製品は、ネットワーク内の情報を監視して、インターネットへのアクセス要求があると自動的に接続する機能を備えています。

本書の手順にしたがって、「簡単接続設定ウィザード」で「PPPoE」方式を選択して、[自動接続]の設定を「ON」に変更していただいている場合、または「DHCP」方式を選択している場合は、パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的にインターネットの自動接続が行われます。

接続のしかた

- 1.パソコンからWWWブラウザを起動します。
 - 2.例として、次のURLをWWWブラウザのアドレスバーに入力して、[Enter]キーを押します。
`http://www.icom.co.jp/`
- 指定のホームページが完全に表示されるまで、[LAN]ランプは、点滅します。



7 インターネットに接続する

7-2 インターネット接続を終了する

本製品は、ネットワーク内からインターネットへ接続されているとき、新たにアクセス要求をしない状態が続くと、自動的に切断する機能を備えています。

出荷時の状態では、タイマーの設定値(出荷時の設定：10分)にしたがって自動切断が行われます。

本書で説明する内容について、おもなトラブルの対処方法を説明しています。

[PWR]ランプが点灯しない

原因 ACアダプターが本製品に接続されていない。

対処 本製品に接続するACアダプターの接続を確認する。

AC延長コードに接続している場合は、そのコードの接続も併せて確認する。

[LAN]ランプが点灯しない

原因1 本製品の[PWR]ランプが点灯していない。

対処 本製品に接続するACアダプターの接続を確認する。

AC延長コードに接続している場合は、そのコードの接続を確認する。

原因2 [HUB/PC]スイッチが「HUB」側に設定されている。

対処 パソコンを本製品の[LAN]ポート「1」に接続している場合は、「PC」側に切り替える、または[LAN]ポート「2」～「4」に接続を変更する。

原因3 パソコンに装着するEthernetカードのドライバーが正しくインストールされていない。

対処 「Ethernetの装着」(☞Step1)を参考に、本製品の接続に使用しているEthernetカードの接続やインストールされたドライバーの状態を確認する。

原因4 市販のEthernetケーブルを使用している。

対処 使用しているEthernetケーブルがストレート結線であることを確認する、不明な場合は、本製品に付属のケーブルを使用してみる。

本製品からパソコンの[IPアドレス]が割り当てられない

原因1 本製品の[LAN]ランプが点灯していない。

対処 「[LAN]ランプが点灯しない」(☞Step8)を参考に対処する。

原因2 パソコンを起動してから、本製品の電源を入れた。

対処 本製品の電源を入れてから、パソコンを起動する。

原因3 使用するEthernetカードを「使用不可」に設定している。

対処 Windowsのデバイスマネージャで、使用する「ネットワークアダプタ」のプロパティから「使用不可」にしていないことを確認する。

原因4 パソコンにMacintoshを使用している。

対処 ご使用のOSによっては、実際に本製品と通信を行うまで、IPアドレスを取得しない仕様があります。その場合は、起動したWWWブラウザから、本製品のURL「http://192.168.0.1」(出荷時の場合)を指定して設定画面にアクセスします。その後、「Mac OSの場合」(☞Step4-3)の手順で確認する。

8 困ったときは

[WAN]ランプが点灯しない

原因1 モデムの電源が入っていない。

対 処 モデムの電源を入れる。

原因2 本製品とモデムをEthernetケーブルで接続していない。

対 処 本製品の[WAN]ポートとモデムの[Ethernet]ポートをEthernetケーブルで接続する。

原因3 本製品とモデムの接続に使用しているEthernetケーブルの結線方式(ストレート、クロス)がプロバイダーの指定するケーブルと異なる。

対 処 プロバイダーが指定(モデムに付属)するケーブルを使用する。

原因4 プロバイダーに契約をしたが、工事完了または使用開始の連絡がない。

対 処 契約または工事の完了日をご契約のプロバイダーに確認する。

原因5 使用するネットワーク機器のMACアドレスを事前に申請する必要があるプロバイダーである。

対 処 このような場合、新しく使用するネットワーク機器のMACアドレス登録が完了するまで使用できませんので連絡をお待ちください。

本製品のMACアドレスがわからない

確認のしかた

1.WWWブラウザを起動します。

本書では、Internet Explorer5.0を使って説明しています。

2.本製品のURL「http://192.168.0.1」(出荷時の場合)を指定します。

- 「WAN側設定」画面を最初に表示します。

3.メニューから[無線LAN設定]をクリックします。

- [無線LAN設定]画面を表示します。



CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作しない

原因1 MacintoshのCD-ROMドライブを使用している。

対処 本製品に付属のCD-ROMは、Windows対応ですので、Windowsがインストールされたパソコンでご使用ください。

原因2 CD-ROMドライブの「挿入の自動通知」を無効に設定している。

対処 Windowsのデバイスマネージャで、「CD-ROM」のプロパティから「挿入の自動通知」を有効にする、またはWindowsのエクスプローラーを使って、本製品の[CD-ROM]ドライブアイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックします。

インターネットに接続できない

原因1 ご契約のプロバイダーへの接続方式を間違えている。

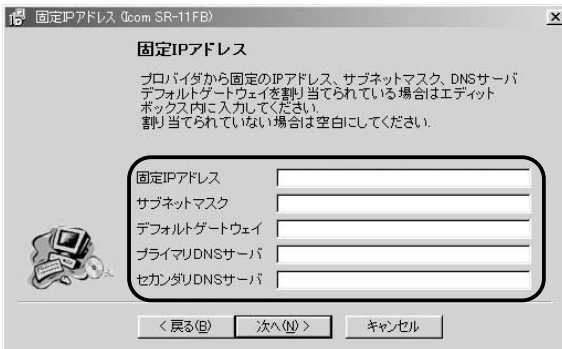
対処 ご契約のプロバイダーにご確認になるか、接続方式(「PPPoE」、「DHCP」)の設定を変更してみてください。

原因2 使用する機器のMACアドレスを登録していない。

対処 使用する機器のMACアドレスの登録が必要なプロバイダーの場合は、本製品のMACアドレスを登録する。

原因3 プロバイダーが指定するIPアドレスの配布方法と異なる設定をしている。

対処 ご契約のプロバイダーからIPアドレスの指定があるときは、「固定IPアドレス」(簡単接続設定ウィザード)画面に指定のあったIPアドレスが設定されていることを確認します。また、ご契約のプロバイダーからIPアドレスなどの指示がない場合は、空欄にしておきます。



原因4 本製品の[LAN]ランプが点灯していない。

対処 「 [LAN]ランプが点灯しない」(Step8)を参考に対処する。

原因5 本製品の[WAN]ランプが点灯していない。

対処 「 [WAN]ランプが点灯しない」(Step8)を参考に対処する。

8 困ったときは

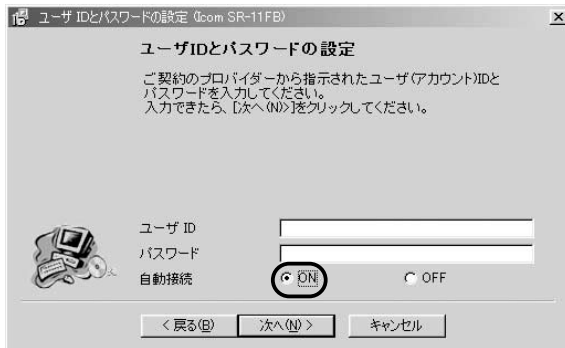
インターネットに接続できない(つづき)

原因6 本製品からパソコンの[IPアドレス]が割り当てられていない。

対 処 「本製品からパソコンの[IPアドレス]が割り当てられない」(※Step8)を参考に対処する。

原因7 [簡単接続設定ウィザード]で「PPPoE」方式での接続を設定している場合で、自動接続の設定を「OFF」にしている。

対 処 自動接続の設定を「ON」にする。



原因8 [WAN](プロバイダー)側からIPアドレスが取得できていない。

対 処 下記の手順にしたがって、確認する。

表示していないときは、本製品とモデムの接続を確認します。

[WAN]側から取得したIPアドレスの確認方法

1. WWWブラウザを起動します。

本書では、Internet Explorer5.0を使って説明しています。

2. 本製品のURL「http://192.168.0.1」(出荷時の場合)を指定します。

- 「WAN側設定」画面の[接続状況]で確認できます。

接続状況	
未接続	接続 切断
接続設定	PPPoE
DNSサーバ	-
本体側のIPアドレス	-
相手先のIPアドレス	-
接続時間	- 時間 - 分 - 秒

確認 →

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211